７．自己点検・評価報告書

（1）2023 年度第 3 クォーター　掲載目次

専任教員

【所属】

人文学部　キリスト教学科・・・・・・・・・・・・・・1
人文学部　人類文化学科・・・・・・・・・・・・・・5
人文学部　心理人間学科・・・・・・・・・・・・・・9
人文学部　日本文化学科・・・・・・・・・・・・・・11
外国語学部　英米学科・・・・・・・・・・・・・・・12
外国語学部　スペイン・ラテンアメリカ学科・・・・17
外国語学部　フランス学科・・・・・・・・・・・・・17
外国語学部　ドイツ学科・・・・・・・・・・・・・・19
外国語学部　アジア学科・・・・・・・・・・・・・・21
経済学部　経済学科・・・・・・・・・・・・・・・・23
経営学部　経営学科・・・・・・・・・・・・・・・・28
法学部　　法律学科・・・・・・・・・・・・・・・・34
総合政策学部　総合政策学科・・・・・・・・・・・39
理工学部　ソフトウェア工学科・・・・・・・・・・46
理工学部　データサイエンス学科・・・・・・・・・46
理工学部　電子情報工学科・・・・・・・・・・・・48
理工学部　機械システム工学科・・・・・・・・・・50
国際教養学部　国際教養学科・・・・・・・・・・・51
法務研究科　法務専攻(専門職学位課程)・・・・・・56
教職センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
国際センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58
外国語教育センター・・・・・・・・・・・・・・・・59
体育教育センター・・・・・・・・・・・・・・・・・60

非常勤教員

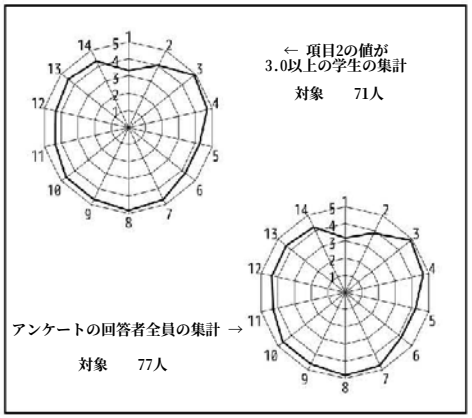
【所属】

人文学部　人類文化学科・・・・・・・・・・・・・・61
人文学部　心理人間学科・・・・・・・・・・・・・・62
人文学部　日本文化学科・・・・・・・・・・・・・・63
外国語学部　英米学科・・・・・・・・・・・・・・・65
外国語学部　フランス学科・・・・・・・・・・・・・66
外国語学部　アジア学科・・・・・・・・・・・・・・67
経済学部　経済学科・・・・・・・・・・・・・・・・68
経営学部　経営学科・・・・・・・・・・・・・・・・69
法学部　　法律学科・・・・・・・・・・・・・・・・71
総合政策学部　総合政策学科・・・・・・・・・・・74
共通教育　仏語・・・・・・・・・・・・・・・・・・75
共通教育　中国語・・・・・・・・・・・・・・・・・75
共通教育　共通・・・・・・・・・・・・・・・・・・76
共通教育　体育・・・・・・・・・・・・・・・・・・85
教職センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・86
外国語教育センター・・・・・・・・・・・・・・・・87

人文学部 キリスト教学科
南　翔一朗　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教論[B]1
授業コード	10A01-009
教員名	南　翔一朗
教員コード	104627
登録人数	132
回答数	77
回答率	58.3%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
履修生の全体的な傾向、特にマーク式試験の平均点などを考慮すると、本講義に関しては、シラバス作成の際などに設定していた目標や到達点に達することができなかった履修生が、予想以上に多く出てしまったように思われる。しかしその反面、当初の想定以上の努力や能力を示してくれた履修生も一定数いた。

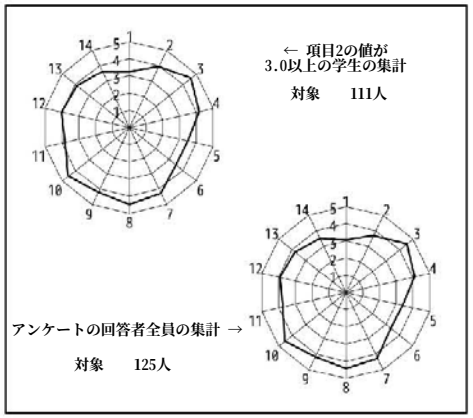
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
アンケートの数値データおよび自由記述内容を考慮すると、講義内容の大幅な見直しや抜本的な改定を行う必要はないように思われる。また、映像を積極的に利用している点は、履修生から非常に高い評価を受けていると考えられる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
上記②の内容とも関連するが、本講義では映画やアニメ、ニュース映像のような映像資料を積極的に利用し、履修生の興味関心を掘り起こすための努力をかなりの程度行っている。しかし、講義担当者と履修生の双方の側にある様々な制約の問題もあって、14回の講義全体を通じて興味関心を持ち続けることができない履修生、講義についてこれなくなったり、あるいは居眠りをしたりする履修生も多々見受けられる。こうした層にどうアプローチするか（あるいは、そもそもその層に配慮して講義を設計し直すことが妥当かという問題も含めて）について、次年度の講義担当時までに考えて判断する必要がある。

人文学部 キリスト教学科
RAJCANI, Jakub　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教概論[P]2
授業コード	10A51-015
教員名	RAJCANI, Jakub
教員コード	103281
登録人数	170
回答数	125
回答率	73.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



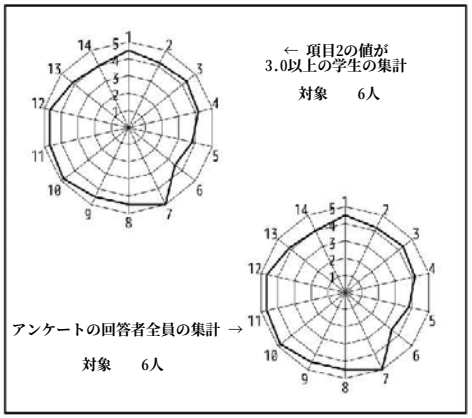
授業評価結果を踏まえた点検・評価

必修科目であるが故に、背景も期待も姿勢まちまちです。そもそも自由に選んだ科目で評価を行うのとただ履修させられている科目で評価を行うのと、全く違います。ともかく、学生がシラバスを読まないのは担当者のせいではありませんが、シラバスで定めた目標および計画を遂行できたように思います。
多くの学生からのコメントは概ね肯定的です。もちろん改善する余地はありますし、毎年やっている授業であっても、その都度調整や工夫しようとしています。ただ前後に別の授業もあったりしますので、ただ受講に来る学生とは違って、教員の負担はより大きいことを承知していただきたいです。確かに否定的なコメントもありましたが、最善を尽くして母語ではない日本語を話したり書いたりしていますが、それでもいつまでも自然になれなくて大変申し訳ありません。それを不愉快に感じるが学生に是非これから外国を一つ以上身につけてからコメントをして欲しいと思います。感想が書きたかったけど書けなかったというコメントもありましたが、7回ほどwebclass上でリアクションを書かせました。それ以外にも、メッセージを送ったり、授業後に質問に来たりすることもできました。間違えて授業評価がないから難しいことたくさん話せて安心ですと言ったのは冗談でしたが、通じなくて仕方ありません。また、ずっと話を聞くのがつまらないのに対して、何せ講義型の科目ですからどうして講義していてだめなのか私には分かりません。学生の気分を取るために教壇に立っているわけではありません。最後に、試験についてです。シラバスに筆記試験とありますし、その通りに行いました。最初にマークシートも考えましたが、過去やってみたところ正解率がとても低くて、点数がいじれず成績がいつも悪くなるので、学生のためを思って、あえて簡単な記述式（穴埋めもあり）にしてみました。それに文句を言っているのが本当に笑うしかありません。

人文学部 キリスト教学科
FONGARO, Enrico　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	哲学B3
授業コード	12A02-003
教員名	FONGARO, Enrico
教員コード	104671
登録人数	10
回答数	6
回答率	60.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



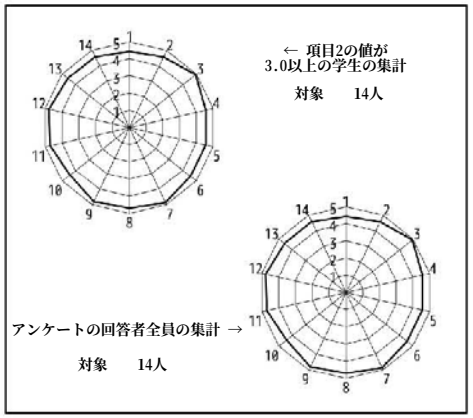
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course aimed to introduce the question of what philosophy is from an intercultural point of view. For this reason the course began with the problem of how to translate the term philosophy into Japanese, and continued by addressing the question of whether philosophy exists outside of Europe. Finally, the course concluded by addressing the thought of Heraclitus, the thinker who first used the adjective "philosophical". In this sense the course achieved the objectives it had set.
For the future, I think it will be necessary to increase the opportunities for oral discussion with students. With rare exceptions, the lesson was mostly frontal, which proved not to be very fruitful. It will be essential to find a way to overcome students' reluctance to express their opinions or doubts.

人文学部 キリスト教学科
加藤　久美子　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	旧約聖書学(モーセ五書B)
授業コード	21C19-001
教員名	加藤　久美子
教員コード	103475
登録人数	18
回答数	14
回答率	77.8%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



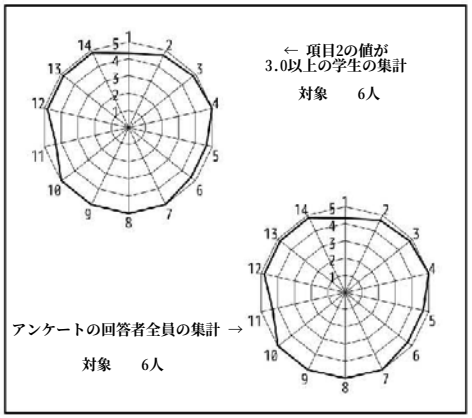
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今期は、旧約の物語の中で比較的よく知られている出エジプトに関する箇所と、物語と律法集が組み合わされた複雑な構成をもつシナイ契約に関する箇所が主な考察対象だった。到達目標としては、文書の形成過程に関する基本的な学説を踏まえること、および、個々の物語と律法集にみられる人間理解と神理解の特徴を把握することの2点を定めた。この目標到達のためには、学期の前半に取り上げる簡潔で比較的読みやすい物語だけではなく、後半に取り上げる複雑で読みにくい箇所にも履修者が取り組むことが必要であり、そのため、毎回予習課題を課し、また授業のリアクション・ペーパーを紹介し、履修者が主体的に考えることを促した。
予習課題は、指定された聖書の箇所を読み、印象的な文言を書き写し、WebClassで提出するというものだったが、提出率は高かった。設問2と11の評価には積極的に授業に取り組んだ履修者が比較的多かったことを見てとることができる。また、期末レポートから今期の到達目標はかなりよく達成されたと考えられる。
来期以降は、今期よい効果があったと思われる予習課題を継続するとともに、さらにそれが履修者の積極的な取り組みにつながるよう、授業内での意見発表などにも活用したい。

人文学部 キリスト教学科
VARGHESE, Rejimon　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	組織神学(キリスト論B)
授業コード	21C37-001
教員名	VARGHESE, Rejimon
教員コード	100555
登録人数	7
回答数	6
回答率	85.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2023年度Q3に組織神学（キリスト論B)を担当させていただき、学生によるその授業評価に対する自己点検・評価を以下の通りさせていただきます。

(1)受講生は開講当初に設定していたこの授業の目標と到達点に達したと評価しています。その目標は、使徒教父時代における多様なキリスト観を紹介してその意味内容を学生に把握していただくこと、初期頃のキリストに関する論争に触れて聖書や公会議や現代神学者に及ぶキリスト論的考えを学んでいただくこと、真の神人であるイエス・キリストという信仰は何故人類の救いのために不可欠であるかと理解していただくことでした。

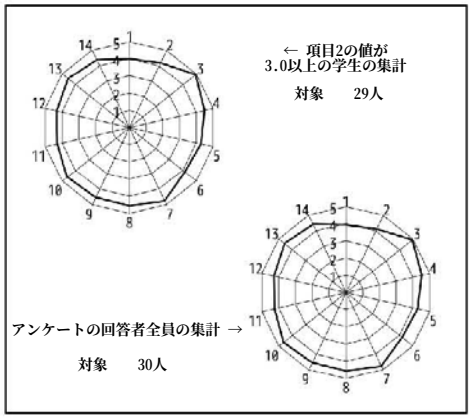
(2)　数値データおよび受講生の自由記述等を参考にした評価は総合的に満足です。学生に詳細の講義録を配布し、power pointを使いながら講義をし、講義中もキリスト論に関する専門用語や概念、または関連点を詳しく説明し、講義ごとの資料を学生に読んでいただいたので、その内容が理解しやすかったかと思います。

(3)　以上の(2)に述べた理由で、学生はこの授業を改善していただきたいという点を挙げていないです。次回に向かって私の方からは改善すべき点があるかというと、授業の内容に対する学生の意欲をもう少し湧き起こすことと、また一方的に講義をするのではなく学生とのやりとりもう少し設ける必要かと思う程度くらいです。次回の授業にこれらを考えながら取り込んでいきたいと思います。

人文学部 キリスト教学科
三好　千春　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本キリスト教史
授業コード	21C54-001
教員名	三好　千春
教員コード	101173
登録人数	52
回答数	30
回答率	57.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標は、
１　日本キリスト教史の流れを理解している。
２　一種の異文化衝突であったキリスト教と日本の出会いのポイントを把握している。
３　日本キリスト教史を、日本国内に限定されたものではなく、世界のキリスト教とのつながりの中に位置付けてみる視点を得ている。
であるが、今回の学生評価の項目７「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」という問いに対しての点数が他の項目に比べると低いため、学生たち自身は、力がついているとあまり思っていないと言えるかもしれない。

講義する側としても、特に２や３の点が弱いという反省があり、この点についてもう少し工夫が必要と思われる。

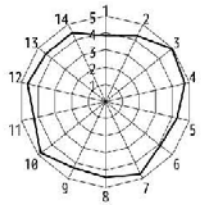
また、学生の自由回答欄で、パワーポイントの進みが早すぎるという指摘がいくつかあり、この点は来年度の改善点であるため、スピードを落とす、書き込む分量を減らすなど、もう少し工夫を重ねていきたいと考えている。

と同時に、かなり肯定的な回答もいくつか得ているため、現在の講義のやり方の方向性自体は続けていきたい。

人文学部 キリスト教学科
SOUSA, Domingos　先生

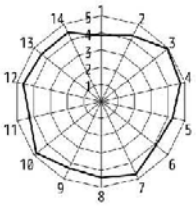
2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教思想B
授業コード	21C60-001
教員名	SOUSA, Domingos
教員コード	100753
登録人数	26
回答数	17
回答率	65.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　17人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　17人

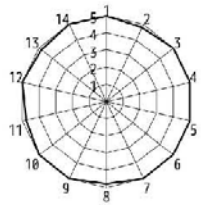
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義は、極めて多様な価値観が存在する現代において、相互理解や対話が、どのような根拠の上に立って成立するのかを追究するとともに、思想の比較を通して自分たちの文化と他国の文化についての理解を深めながら、グローバルな視座で現代世界の動向を考えることを目指している。パワーポイント利用で講義したが、学習の補助のため各項目の内容をまとめるプリント教材も配布した。
講義に対する学生の評価結果は、全体として良好な評価であると思われる。自由記述回答には肯定的な評価として「浄土真宗の信心とキリスト教の信仰について、様々なことが考えられた」、「比較している点がわかりやすかった」などがあげられる。自由記述回答には否定的な評価として「スライドのデータがあると復習しやすいと思った」、「最終レポートの講義資料が英語で理解できませんでした」などがあげられる。設問項目、１、２、６の得点は、多少低い評価となっているので、来年度には講義の各項目についてより分かりやすいレジメを提供し、関連文献を紹介することにより、主体的な学習と学習意欲を向上させる工夫をしたい。

人文学部 キリスト教学科
清水　美佐　先生

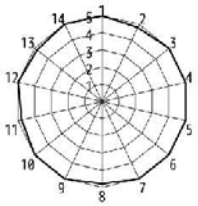
2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教美術II
授業コード	21C79-001
教員名	清水　美佐
教員コード	152757
登録人数	7
回答数	5
回答率	71.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　5人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　5人

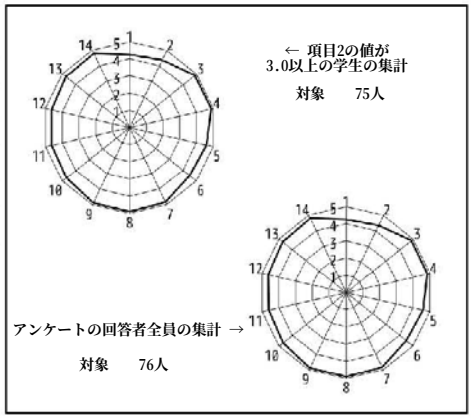
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①シラバスの目標は以下の通りである。「キリスト教主題の様々な図像について、内容を読み取り、説明することができる。図像の典拠となる資料（旧新約聖書や外典、教父文書や賛歌など）にふれ、描かれた主題内容の理解を深めることができる。」期末試験の出来を見る限り、大方の学生は十分に目標に達していた。ただし全員ではなかったので、授業方法に改善の余地がある。
②数値データは全体に高かったが、本科目は「キリスト教美術Ｉ」を履修済の学生が選択するので、科目に対する理解度や期待度の高い学生が集まっていたためと思われる。自由記述のうち「改善したほうがよい」項目に書かれたのは次の2点である。「期末まで講師が学生の理解度を確認できるタイミングが設けられていなかったことは気になった」「休憩の時間はあってもなくてもどちらでも良いかなと思った」。1点目について、本科目は講義内で学生の理解度テスト等を実施せず期末試験しかないため、全く質問に来ない学生は特に、事前に理解度を見ることができない。次年度以降、もし履修者が少数であれば小テストと添削など行なってもよいかと思う。2点目については、授業時間の真ん中の数分間を質問受付・トイレ休憩としているが、暇になる学生は確かに一定数いる。質問が出なかった場合には、その時間で何か試験には関わらないような話をして時間を有効に使いたい。
③次年度は学生の要望のように、授業中に学生の理解度をはかる時間を設けたい。

人文学部 人類文化学科
宮脇　千絵　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	民族問題と人間の尊厳2
授業コード	10D08-002
教員名	宮脇　千絵
教員コード	152580
登録人数	188
回答数	76
回答率	40.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



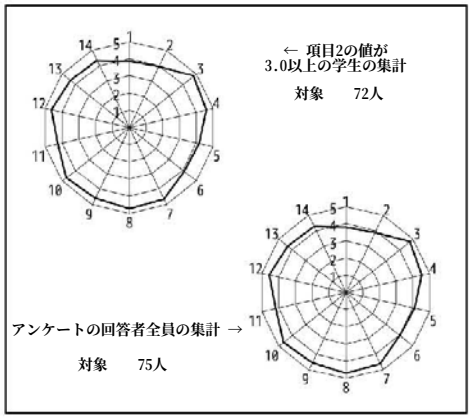
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本授業は、世界各地の装いをテーマに文化人類学的な視点から「当たり前」を問う姿勢や世界で起こっている様々な事象について理解し、それを自分の言葉で述べられるようになることを目標としており、シラバス通りに授業を行った。毎回のリアクションペーパーや最終レポートの結果から概ね目標を達成できていると考える。
②レーダーチャートの結果は毎回あまり変わらない。「人間の尊厳」科目であるためか、質問１と２の数値が低い傾向にある。質問３、４、９の数値が高く、授業の運営には問題がないと考える。自由記述回答では、写真や映像が豊富であったこと、資料の分かりやすさ、新たな発見があった等が評価されており、今後もこのような方法を用いていきたい。
③大教室での講義であるため、評価はリアクションペーパーとレポートという提出物に頼らざるを得ないが、資料DLサーバやWebClassでのやり取りだと授業を聞いていないのにそれらしく回答し提出することも可能になってしまうため、その見極めが難しい時がある。配布資料や提出方法に関して、今後より工夫を進めていきたい。

人文学部 人類文化学科
宮沢　千尋　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アジアとの出会い2
授業コード	13B02-002
教員名	宮沢　千尋
教員コード	019562
登録人数	198
回答数	75
回答率	37.9%
休講回数	1　回
補講回数	1　回



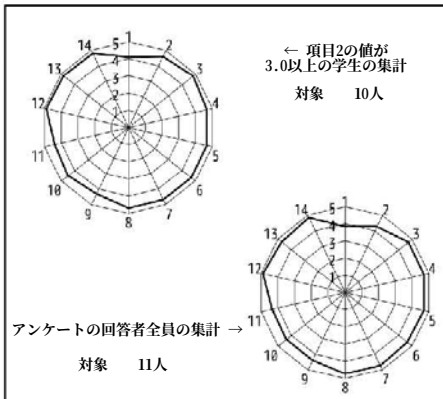
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①設問1，２以外は学際科目の平均値を上回り4.0以上であったので一定程度は目標に到達できたと思うが、登録人数120-240人の科目平均で見ると、設問8，10，12以外は平均値を下回っているので多人数講義としては授業方法に改善が必要である。
②自由記述の好意的評価としては、レジメが詳しいこと、レジメだけでなく実体験を話したり知識が豊富であること、質問の機会が多く設けられており質問に丁寧に答えたこと、日本史と世界史の区分無く歴史を話したことなどである。否定的な評価としては「板書が見づらいい、字が小さい」とのことだが、出席者はG27教室後方に集中して座っていたので、今後は前に座ることを促したい。授業態度に関して「やや厳しすぎる注意喚起があり、気分が悪かった」とのことだが、実際に私語をしたり、イヤホーンで音楽を聴いていて授業に集中しない学生がいたのは事実だ。また注意喚起に対しては好意的評価が数件あり、やはり必要だと思う。しかし、履修者が不快にならないように心がけたい。「わざわざ授業に出席するほどの内容ではなかった」との記述もあった。内容が易しすぎたということだと思うが、学生の理解力はさまざまであり、実際にわかりやすかったとの好意的評価も数件あったので、どこに照準を合わせるかはむずかしい問題だ。
③以上を踏まえて次年度には、特に多人数講義としての方法を中心に改善を図りたい。

人文学部 人類文化学科
MCMULLEN, Matthew　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	異文化の理解5＜国際科目群＞
授業コード	13C01-901
教員名	MCMULLEN, Matthew
教員コード	103838
登録人数	37
回答数	11
回答率	29.7%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

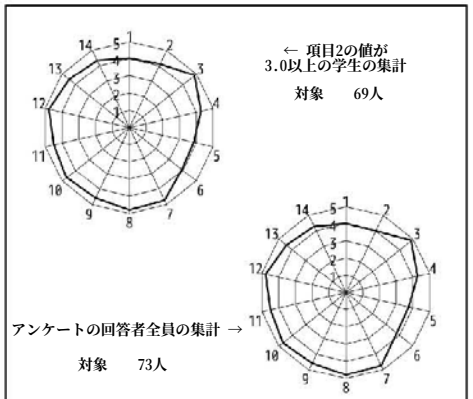
As I already explained in the report for CJS, this course combined students from the CJS program and Nanzan enrolled students. This created a very diverse classroom, but also new teaching challenges. It was actually two courses that had been combined into one. In order to properly teach the course, more time would be required to prepare material to meet the needs of both the CJS and Nanzan students. But unfortunately, treated as just one koma, there was insufficient preparation time. Furthermore, a modern online teaching interface is necessary to prepare students for classroom work. Web Class is outdated, impossible to use, and does not allow for the use of media, which is essential in the modern classroom.

Unfortunately, I will not offer this course as a combined course next year because of the time required for preparation.

人文学部 人類文化学科
青柳　宏　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	言語学概論
授業コード	22B01-001
教員名	青柳　宏
教員コード	017004
登録人数	114
回答数	73
回答率	64.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



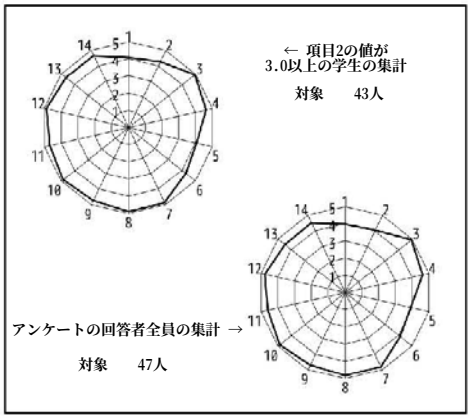
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①到達目標とその達成度
今年度は次の2つの目標を掲げた。
１．日本語や英語といった身近な言語だけでなく、他のさまざまな特徴を持った言語があることが理解できる。
２．世界の言語には多様性があるばかりか、普遍性があることを理解できる。
これらの達成度を測るために小テスト・期末試験を課したが、その結果を見る限り、十分目標に達した者（評価A+、A）が4割、まあまあ達した者（評価B、C）が5割、達していない者（評価F）が1割であった。
②自己点検・評価
自由記述欄をみると、毎回授業の冒頭に前回の授業内容に関する履修生の質問に答える時間を設けているが、それを評価する声が多かった。概論だからといって総花的に全体をさらっと流すのではなく重要なポイントをしっかり教えようとしている点も評価されている。しかし、毎度のことだが、内容が難しすぎる、進度が早すぎる、できない学生への配慮が足りないというようなマイナスの評価もある。
③今後の改善点
・学生の集中力を高めるため、毎回授業の最後に行う小テストの総合評価に占める割合を20%から40%に上げる。
・小テスト時に同時に質問を受け付けているが、WebClassの掲示板機能も使い、さらに双方向性を高める。

人文学部 人類文化学科
奥田　太郎　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　現代の倫理学
授業コード 22C11-001
教員名　奥田　太郎
教員コード 100642
登録人数　171
回答数　47
回答率　27.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



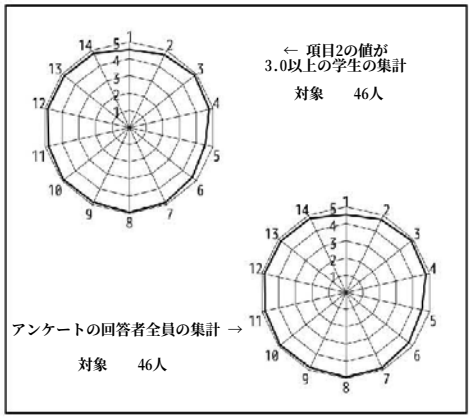
授業評価結果を踏まえた点検・評価

（１）設定した3つの到達目標について、論述課題の出来具合からは、十分に達成できたと考えられる。
（２）設問1「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」は、同科目の平均値4.08に対して、本授業は3.96と下回り、また、設問5「この授業の到達目標を理解することができましたか」も、同科目の平均値4.04に対して、本授業は3.94と下回っていた。他方、設問6「この授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」は、同科目の平均値4.04を上回る4.13であり、設問13「新しい知識を得たり理解が深まったと感じるか」と設問14「全体として授業に満足したか」は、平均値と同じかそれを上回っており、当初関心を持っていなかった受講生も、一定程度授業に入り込めたことが窺われる。また、自由記述の回答では、内容が難しかったが、授業を通じて面白く学ぶことができた、というコメントが複数あり、授業進行の丁寧さが高く評価されていた。他方で、進度が速すぎたという指摘、受講者の理解の状況を受講者相互で確認し合えるような時間がほしかったという要望なども寄せられており、授業の構成を練り直す必要があると思われる。
（３）今回の授業では、哲学の手触りを体感してもらうために、難しい議論を難しいままに伝え、考えてもらう、という方針をとったが、次年度は、受講者の思考のペースを起点とした授業進行をしたいと考えている。

人文学部 人類文化学科
和泉　悠　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　論理学
授業コード 22C18-001
教員名　和泉　悠
教員コード 103645
登録人数　66
回答数　46
回答率　69.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

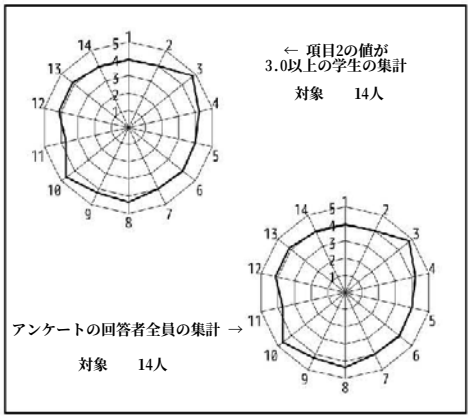
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
到達目標は次のとおりであった。
1．命題論理や述語論理を用いて、単純な自然言語の文を記号化することができる。
2．妥当性や真理表といった論理学における基本的概念や手法を理解し、用いることができる。
3．日常的な議論を論理的に分析することができる。
到達目標１、２、３それぞれについて、授業内課題の解答、小テストの解答、期末テストの結果を踏まえるに、合格者は十分に到達できたと考える。たとえば、問題が異なるため単純比較はできないが、前年度より期末テストの点が上昇していた。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
数値および自由記述も肯定的な回答が多いと考える。また、できるだけ資料を共有する点、練習問題を一緒に解いたり質問に答えて解説をするチュートリアル的時間を設けている構成なども肯定的回答が多いため、今後もその要素は変えないようにする。
③
就職活動での欠席者などもかなり多いと感じる。できる学生とそうでない学生が二極化する傾向があるためその対策を講じていきたい。

要望としては、実際に教室に来ている学生のみがWebClass上で課題提出ができる仕組みが実装できればありがたい（もちろん物理的紙を使うという解決法はあるが、採点の負担が増えてしまう。）

人文学部 人類文化学科
谷口　佳津宏　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	近世哲学史II
授業コード	22C30-001
教員名	谷口　佳津宏
教員コード	016550
登録人数	22
回答数	14
回答率	63.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



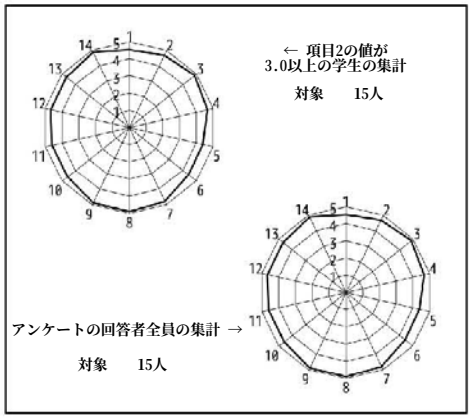
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した授業目標は「1.近代の哲学の流れを理解している。2.近代の哲学の特徴を理解している。」の二つであるが，定期試験の結果からみるかぎりでは，受験者数17名中，合格者（C以上）は10名なので目標を十分に達成したとは言い難いが，知識習得度を問う内容のマークシート方式の試験であるためか，合格率は例年さほど変わらないのが実情である。もっとも，開講主体別平均値を軒並み下回っていることは憂うべき事態であることに変わりはなく，とくに，設問11の評価が毎回きわめて低いのが特徴的なのであるが，それでも，今回は，授業内で紹介した本を実際に読んだ学生からの「根気と読書体力が未熟で自分の読解力ではハードルが高い内容ではありましたが、興味をもちさらに教材を読むことがなかなか今までできなかったので、その機会をいただきありがとうございました」との自由記述欄でのコメントを僅かばかりの心の慰撫としたい。今後，受講生の学習意欲を高めるべく，さらに努力を重ねたい。

人文学部 人類文化学科
藤川　美代子　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	民族誌論
授業コード	22C35-001
教員名	藤川　美代子
教員コード	103115
登録人数	27
回答数	15
回答率	55.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



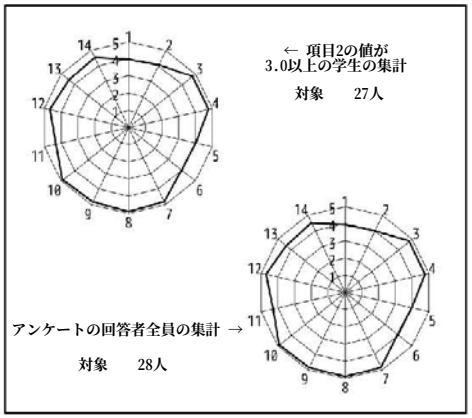
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初、１）民族誌を読み、内容および関連事項について考察・議論する力が身についている、２）「民族誌を書く」とはどのようなことか、説明できる、３）文化人類学的思考を理解しているという三つの目標を立てたが、達成できたものと思われる。②この授業では、発表担当者のみがレジュメや読書ノートを作成するのではなく、事前に全員が民族誌の該当箇所を必ず読み読書ノートを作成することを基本としており、授業は担当者による発表と全員参加型の討論で進めるという形式をとっている。設問1～14の回答結果は4.4以上と高く、受講者からは肯定的な評価が得られたと考えている。特に、一人で本を読んでいるだけだと書かれたことをすべて鵜呑みにし、それを評価する視点が生まれにくいのに対して、事前に著者のフィールドワーク・研究の手法を批判したり、自身だったらどのようにフィールドワークをするかを考えたりすることを求めるほか、授業中には他の受講生の考えたことを聞いて討論する機会があるので、本に書かれた内容を批判的に捉える姿勢が身についたという意見が多く見られた。また、基本的には「解釈に正解はない」という前提で授業を進めているので、自由に発言できる雰囲気がよかったという意見もあった。③今回の授業では、挙手した学生に最初に発言してもらうため、発言者が偏りがちでより多くの学生の意見が聞きたかったという声もあった。授業中には挙手した学生以外にも発言してもらう機会を設けていたが、積極的に発言しない学生の中にも興味深い意見をもっている場合が多く、そのような意見を共有できる方法を考えられるとよいと思っている。

人文学部 人類文化学科
黒澤　浩　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義（弥生・古墳時代論）
授業コード	22C78-001
教員名	黒澤　浩
教員コード	100758
登録人数	36
回答数	28
回答率	77.8%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



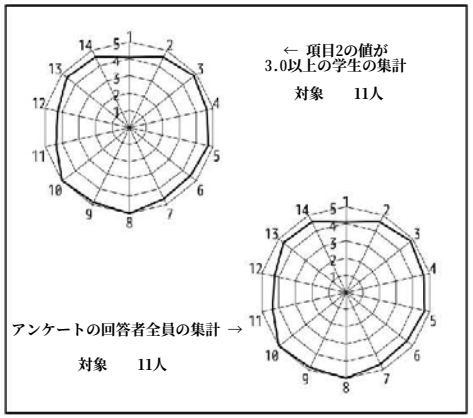
授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生アンケートを見ている限りでは、授業内容について評価してもらえていることがわかる。ただ、到達目標については若干評価が下がっていたので、授業内容についてその都度目的を明確にして進めるように心がけたい。

人文学部 心理人間学科
林　雅代　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	学校教育制度論1
授業コード	15A19-001
教員名	林　雅代
教員コード	018796
登録人数	15
回答数	11
回答率	73.3%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



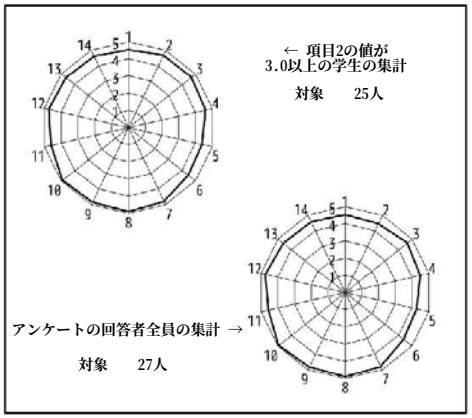
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目は、昨年度と同様の開講学期・曜日時限であったが、受講生は昨年度と比べて半減した。そのため、昨年度から授業の方法に修正を加え、少人数になったことを積極的に活かすこととした。その一つの取り組みが、授業中のノートテイキングの状況確認である。教職課程科目であるので、受講生にはパワーポイント資料や板書を写すだけでなく、自分の授業理解を助けるためのノートテイキングであることを意識させ、毎回の授業でのノートテイキングの状況を確認した。また、昨年度と同様に、毎回の授業内容に関する時事的なトピックを取り上げて、授業内容をふまえて論じるというミニットペーパー課題を課した。この２つは、毎回の配布プリントに記入したものを回収し、チェックして次の授業回で返却した。この取り組みによって、受講生の授業への取り組み方や授業の理解度がよりよく掴めるようになり、ミニットペーパー課題の論述内容を含めたフィードバックを個別にも次の授業回でクラス全体にも行うことで、授業への取り組み方の改善や授業内容の定着にもつながったのではないかと考える。各項目の評価は４以上となっており、授業内容や授業方法に一定の評価が得られたと思われる。この授業は教職課程の必修科目であるため、受講生の授業への興味関心はそれほど高いものではなかったかもしれないが、こうした取り組みによって、受講生の多くが項目６のように到達目標に向けて力がついたと実感しているという点は喜ばしく思う。

人文学部 心理人間学科
川浦　佐知子　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	質的研究法II
授業コード	23C50-001
教員名	川浦　佐知子
教員コード	055855
登録人数	27
回答数	27
回答率	100.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



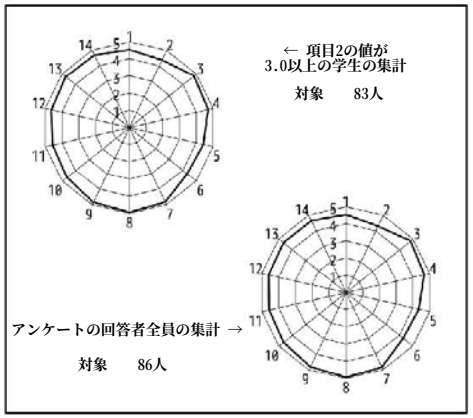
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標は、１）質的研究実施における倫理的配慮の理解、２）研究デザインにおける留意点の理解、３）インタビュー調査実施、及び逐語分析の習得、４）研究者と研究協力者の相互作用としての「語り」の尊重であった。学生は各自、自分の研究目的を明確化して研究対象者の設定を行い、インタビュー質問を作成した。データ収集・分析については、インタビュー・ロールプレイとその逐語作成を行なった。学生は課題提出週の授業において、他の学生とペアになって互いにフィードバックを交わした後、教員に課題を提出。教員は課題にコメントを付して翌週返却し、授業内でいくつかの提出課題をケースとして取り上げ、優れた点、改善点などを示した。設問１の履修前の興味に関する平均（4.52）、設問２の予習、復習に関する平均値（4.44）共に例年に比して低い。自分の研究深化を促進するための研究法の授業であるはずだが、学生の方にはそうした意識がやや低いように感じられた。次年度は、学生が研究を行う主体であることを意識する機会や、研究法を学ぶ目的意識をより明確な形で言語化する機会を設けたい。設問９の理解度に応じた授業進行や適切な配布資料の提供については、平均値が4.81であった。学生の理解度を適切に把握して、疑問に応える授業進行を次年度も心がけたい。学生からは、「授業内で他学生と課題についてやりとりする機会が多くあり、先生も指導が丁寧だった。」、「提出物へのフィードバックや、授業前後の時間に先生とコミュニケーションが取りやすく、理解できないことを尋ねる機会が多かった。」。「実際にインタビューを行う場が設けられていたり、自分の研究を掘り下げて考える機会があったりして、ありがたかった。自分の人生についても考える機会になった。」、「教員の教え方に真摯さが現れていた。」といったコメントが寄せられた。

人文学部 心理人間学科
中西　美和　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	パーソナリティ心理学(感情・人格心理学)
授業コード	23C57-001
教員名	中西　美和
教員コード	104813
登録人数	186
回答数	86
回答率	46.2%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



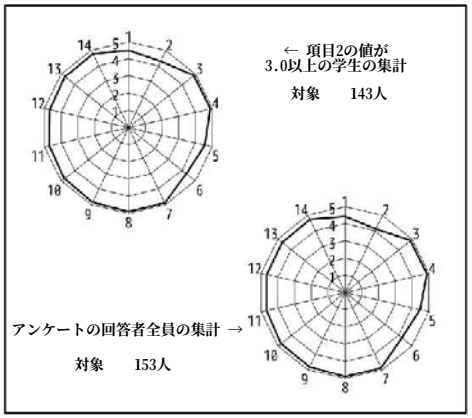
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標は、アンケートの該当項目の評定値が全て4以上であったため、概ね到達できたと考えます。しかしながら、その他の項目と比較すると、やや低値であることから、改善の余地があると考えます。
②担当科目に関する総合的な自己点検・評価については、概ね満足のいくものであったと考えます。具体的には、小グループで学びを共有する時間をとったこと、小グループで取り組む課題、映像資料の提示、日常生活に結びつけての説明などは、良かった点として挙げられる。ただし、小グループで取り組む課題については、その発出のタイミング、課題回数、内容については改善の余地があると考えます。その他、曖昧な情報を提供しないようにと思うばかりに、不明確なことは「わからない」と発言したが、その言葉が気になった学生が見られた。この点は気をつけたい。
③次学期以降に向けては、上述の改善点に取り組みたい。具体的には、小グループで取り組む課題の内容を再考し、課題発出のタイミングを3週間前とする。自分自身で不明確なことは明確にしておくことと、理論や考え方として一定の見解が得られていないために「わからない」ことが混同されないように説明をしたい。

人文学部 日本文化学科
福本　拓　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本文化学入門
授業コード	24C01-001
教員名	福本　拓
教員コード	104126
登録人数	210
回答数	153
回答率	72.9%
休講回数	1　回
補講回数	1　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度
開講当初に掲げた目標は，
「日本」「文化」を相対化して考える姿勢が身についている／「日本」「文化」をより深く理解するためのキーワード群の内容を説明できる／多様な文化事象に対して，講義を通じて学んだ視角を応用してその意義を論ずることができる／今後の「日本」「文化」のあり様について，自身の考えを学術的見地に基づいて表明できる
の四点である。アンケート設問6の回答平均値は4.25と全体平均を若干上回っており，目標到達については一定程度果たせたものと考える。

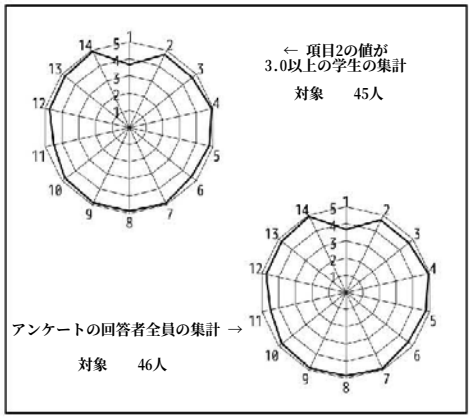
②総合的な自己点検・評価
設問14（全体的な満足度）の回答平均値は4.71と全体平均および121～240名登録者の平均を上回っており，満足という観点からの水準は評価できるものと考える。この背景には，自由回答にも多数挙げられているが，Mentimeterを使った参加型の要素を取り込んでいることがあるといえる。その他の項目についても，いずれも全体平均を上回っている。

③改善点、今後の抱負、方針
Mentimeterでの不適切な回答については，今回受講生からも指摘があったが，悩ましい部分である。匿名だからこそ多く意見を出して貰えるという部分もあり，投稿者を特定できる機能を用いていない。また，各項目の値はここ数年頭打ちの状態でもあり，大幅なプラスのためには抜本的な改変が必要になろうが，そのためのリソースをすぐには割けないのが現状である。少なくとも現状を維持できるように努めつつ，さらなる改善に向けた取り組みを進めたい。

人文学部 日本文化学科
西岡　淳　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	漢文学研究I
授業コード	24C45-001
教員名	西岡　淳
教員コード	019315
登録人数	62
回答数	46
回答率	74.2%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



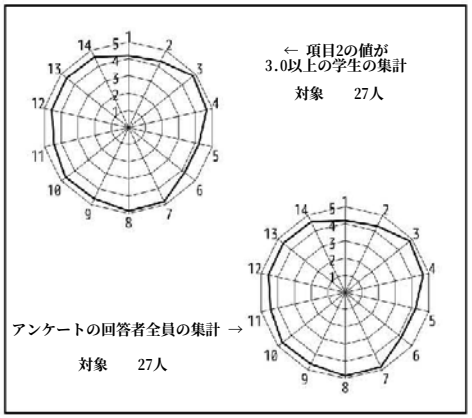
授業評価結果を踏まえた点検・評価

主な授業目標は、漢文の語法や語彙および基本的な工具書の使用法を身につけ、原文に即して適切な読解ができる能力を体得すること等である。本学期は正史『三国志』（魏書）夏侯惇・夏侯淵伝の和刻本をテキストとして用い、これを訓読によって読み進めた。授業形式は、次回読む部分を前もって指定しておき、受講生はその部分の書き下し文を準備した上で授業に臨み、授業における担当者とのやりとりを通じて各自添削し、毎回提出するというものである。今回は、受講者に毎時間課した提出物の出来具合に着実な進歩が見られ、それが定期試験にも反映していたこと、授業評価のほぼ全ての質問項目において高めの評価を得ていること（全項目の平均が4.70）などから、目標は一定程度達成されたと思われる。自由記述では肯定的な評価として、「時間配分や課題、授業の進め方など自主的に頑張ろうと思えるような内容だった」「指名制だったことで、緊張感があり、授業に集中して取り組むことが出来た」「プリントを先生が添削してくれること」「説明が非常に分かりやすかった」「前回の課題の出来具合に応じて追加の解説をしていた」などの意見があり、授業の内容や運営については、一定の評価が得られたように思う。改善を要する点などは、特に指摘がなかった。

人文学部 日本文化学科
籾山　洋介　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	現代日本語の構造
授業コード	24C49-001
教員名	籾山　洋介
教員コード	041806
登録人数	40
回答数	27
回答率	67.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



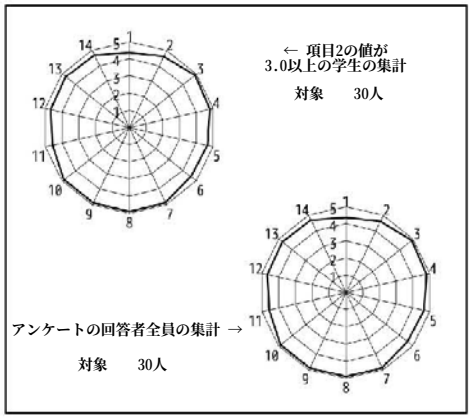
授業評価結果を踏まえた点検・評価

毎回授業の際に提出を求めた「質問・コメントシート」および「最終レポート」の内容から判断して、授業の内容が十分に身に付いた学生が約4割、相当程度身に付いた学生が約4割、一部が身に付いた学生が約2割であった。また、自由記述として「授業内容のテーマである「多義語」について、その研究の面白さを学ぶことができた」、「様々な文献を使いながら授業を受けることができ、幅広い知識を知ることができ、より理解が深まりました」などのコメントがあった。今後もより充実した内容の授業ができるように、研鑽、準備をしていきたい。また、「授業中に考えたことを書けて、次の週に解説してもらえるのが良かった」という記述もあった。熱心に受講し、多様な質問を記す受講者に対して、今後も的確に対応していきたい。一方、「テキストと論文を読む課題が多くて負担だった」という意見もあった。予習などを負担と感じる程度は個人差があると思われるが、今後、シラバスに「相当の予習・準備を必要とする授業である」旨を明示するようにしたい。なお、熱心に受講し、充実したレポートを提出した学生が相当数いたが、このような学生が満足する授業ができるように、今後も準備をしていきたい。

外国語学部 英米学科
森山　貴仁　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Society E1
授業コード	31C05-001
教員名	森山　貴仁
教員コード	104589
登録人数	30
回答数	30
回答率	100.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

このSpecial Topics in English: Society E1では、アメリカ社会を知る上で重要なテーマを設定して、それらを扱う映像作品を鑑賞したのち、学生と教員の間で議論をするという方法をとった。これによってオーラルコミュニケーションの向上を目指したが、約30人の受講生のうち、3分の2ほどが毎週必ず自主的に発言しており、クォーター全体にわたって活発な参加が見られた。英語を母語としない場合、言語能力が十分にあっても人前での発言には躊躇してしまう日本人学生は少なくないが、この授業をとおして英語のオーラルコミュニケーションに積極的な姿勢を持てるようになった点については、かなり満足のいく結果だったといえる。

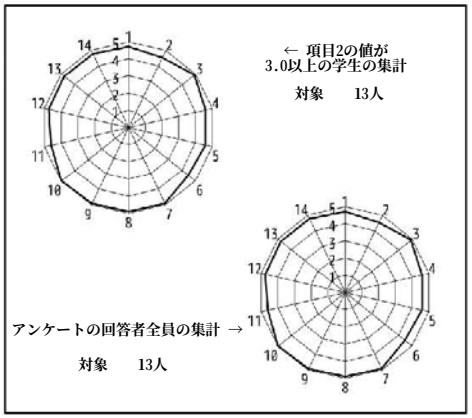
特に、これまで本授業の課題としていた、学生同士のやりとりが今回は活発だった。議論のなかで学生が問題提起をし、それに対して他の学生が自発的に答えることがあり、教員の介在が少ないディスカッションが自然な形で展開された。この点では今までになく満足のいく水準に達したといえる。

今後も積極的な発言ができる環境を維持しながら、メモを読み上げるのではなく自然にコミュニケーションをとること、話すだけでなく他の意見によく耳を傾けることなどディスカッションを通した相互理解で大切なことを伝えたい。

外国語学部 英米学科
DORMAN, Benjamin　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Interdisciplinary Studies D＜国際科目群＞2（英米学科生用）
授業コード	31C19-903
教員名	DORMAN, Benjamin
教員コード	100695
登録人数	18
回答数	13
回答率	72.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

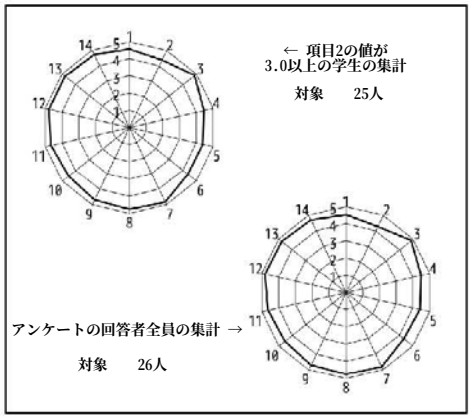
The aim of this course is to introduce students to a range of materials that cover aspects such as idenity, gender, age, race, ethnicity, nationality, sexual orientation, and (dis)ability. It uses film, television, social media, newspapers, and handouts to assist students in learning. The subjects included ableism and access, "hafu" identity, and trauma in society.

The course is designed into 3 main sections - a presentation by the lecturer, considering/viewing materials, and discussion amongst the students. At the end of each class, students write a brief report of what they learned, which the lecturer marked and handed back at the beginning of the next class. Perhaps, as one comment indicates, more time could be devoted to discussion and questions from the students, and less time for viewing material. While some students appeared to be satisfied with the course content, this is definitely an area to consider in future courses. In general, however, I would say the course goals were achieved. Given this, I will strive to finetune the course in future iterations to include more opportunities for group discussions, and extend the period of questions from students.

外国語学部 英米学科
川島　正樹　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	歴史研究の基礎（アメリカ）
授業コード	31D09-001
教員名	川島　正樹
教員コード	048116
登録人数	42
回答数	26
回答率	61.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



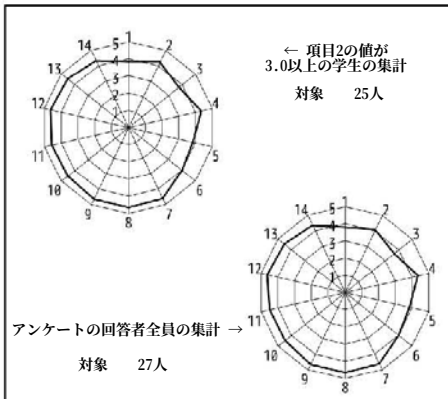
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本授業が過去に学生による評価の対象となったコロナ禍の下でのオンライン授業だった2020年度と比較する。項目13（この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか）に関しては2020年度には4.67だったが、今回は4.77に改善を見た。また項目14（全体として、あなたはこの授業に満足しましたか）に関しても4.45から4.69へと上昇している。ただし、項目16（あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか）は前回の4.33から今回の4.31に若干低下した点は反省材料となる。
②前回改善が著しかった項目9（教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか）が4.61から4.69に、また項目12（質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか）に関しても4.80から4.81に、それぞれ若干だがさらに上昇した。自由記述欄の項目15（この授業の良かった点、評価できることは何ですか）には、とりわけ十分に質疑応答の時間をとったことへの高評価が目立った。
③今回は対面授業であったので、オンラインの弱点が乗り越えられつつ、最後の授業時の最終レポート試験への活用も含め、WebClassの併用が功を奏したと判断される。その反面、受講生の理解度の改善においてはまだ努力の余地がある。

外国語学部 英米学科
TEE, Ve-Yin　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　イギリスの文学＜国際科目群＞
授業コード 31E08-901
教員名　TEE, Ve-Yin
教員コード 101626
登録人数　40
回答数　27
回答率　67.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



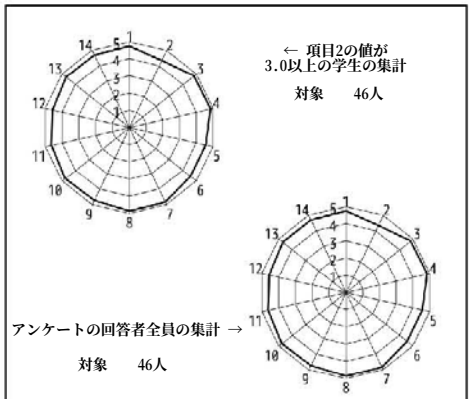
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This is a course for students to consider the changing representations of nature in British poetry. There were a few students who complained about the length and difficulty of some of the poems, which was why students were allowed in every lesson to check their understanding of the lecture content and discuss their answers for the homework thoroughly with each other in Japanese. There were complaints about the mode of assessment, but as I explained to students the exam system is necessary for me to ensure that what they write is their own work (rather than something written by AI). One thing that needs improving is my punctuality, which was compromised this year due to overwork. On the whole though, the course has received positive reviews, and I was pleased with the quality of the work that I received.

外国語学部 英米学科
花木　亨　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　異文化コミュニケーション
授業コード 31E11-001
教員名　花木　亨
教員コード 101269
登録人数　149
回答数　46
回答率　30.9%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、日常生活の中で自分が経験している異文化コミュニケーション現象を自覚できるようになること、自分が経験した異文化コミュニケーション現象を分析できるようになること、異文化コミュニケーションについての知的関心と思考を深めることを目標とした。

項目3から14の平均値は4.72だった。これは科目登録者数が同程度（121～240名）の科目の平均値4.49を上回っている。一定の評価は得られたようだが、さらに高い数値を得られるように努力したい。

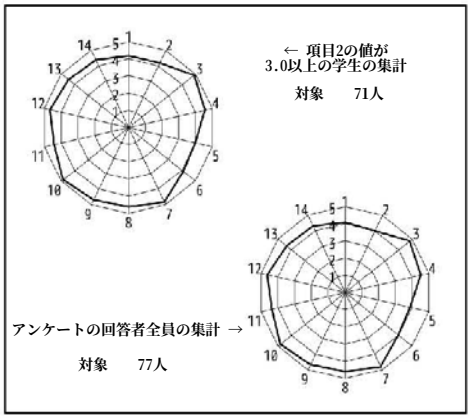
自由記述欄を読むと、説明がわかりやすかったこと、スライドがわかりやすかったこと、リアクションペーパーをとおして学生たちの意見に耳を傾けたこと、リアクションペーパーに書かれた意見を匿名で紹介したこと、それらの意見に応答したことなどが好意的に評価されたようだ。その一方で、私語についての注意が不足しているなどの意見もあった。これらの意見を踏まえつつ、さらに多くの学生たちの満足度をできるだけ高められるように努めたい。

受講者数が比較的多い授業だったが、リアクションペーパーに書かれた意見を紹介したり、それらの意見に応答したりすることによって、できるだけ対話的な授業を心がけた。引き続き、学生たちの主体的な学びを促すような授業運営を目指していく。

外国語学部 英米学科
鈴木　達也　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英文法論＜国際科目群＞
授業コード 31E16-901
教員名　鈴木　達也
教員コード 017871
登録人数　108
回答数　77
回答率　71.3%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の4つの到達目標については、第1回、第2回の授業で丁寧に確認したにもかかわらず、残念ながら、到達目標の理解の評価は3.90に留まっている。今回、評価が4.0を下回った項目は3項目あったが、到達目標の理解度についての評価が最も低かった。自由記述欄に「難し過ぎる」という意見が多く見られるが、国際科目群の授業として専門的な内容を英語で教えていることも関係しているのかも知れない。あるいは、内容的に3年次、4年次に履修した方が理解がし易いと助言したにもかかわらず多数の2年次生が履修していたことも関係しているのかも知れない。いずれにせよ、到達目標の理解は非常に重要なポイントであるので、今後の改善すべき重要課題として受け止めている。

一方、項目1～14の平均（4.42）と3～14の平均（4.48）は、まずまずの評価であると考えている。しかしながら、全体としての満足度が4.30とやや物足りないので、来年度は更に工夫を重ねて満足度を高めたい。

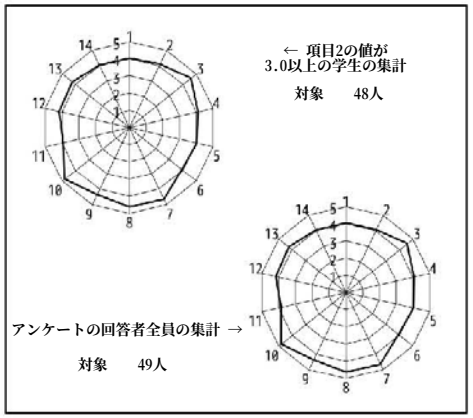
今回、受講者数が100名超だったこともあり、出欠確認の間にWebClassで小テストを解いてもらった。自由記述欄のコメントによれば、時間の有効活用に加えて、理解度を高める役目も果たしたようで好評であった。

なお例年と同様、今回も改善点として日本語による説明を望む意見が散見されるが、受講生には、本科目が国際科目群の授業であることを踏まえて、十分な準備と一定の英語能力が求められることをあらためて理解してもらいたい。

外国語学部 英米学科
上村　直樹　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際関係論
授業コード 31E20-001
教員名　上村　直樹
教員コード 102463
登録人数　123
回答数　49
回答率　39.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



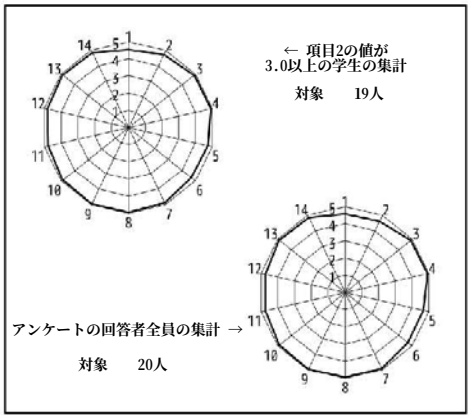
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標は、① 国際関係の歴史と基本的な理論について理解している、② 現代の国際関係の仕組みや重要なイシューについて理解している、③ 実際に起こっている国際関係の現象について学修の成果を適用してその意味を自ら考えることができる、の3点であった。授業評価結果は、数値的には全体として4.25とそれほど高くはなかったものの、4.0を超えたことがなかった本科目としては、これまでで最も高い評価となった。
但し、自由記述欄と照らして個別の項目を見てみると、講義上の課題も依然少なからずあることが分かる。到達目標に関しては、授業でも折に触れて説明し、授業自体も目標に到達すべく努めているが、更なる工夫が必要であろう。また自由記述には授業の難易度が高く分かったときに達成感があるという記述がある一方で、説明のテンポが速い、パワポやハンドアウトの情報量が多過ぎる、一コマの内容を軽くしてほしいという学生の声もある。これは授業の理解度や4.0ぎりぎりという低い満足度に影響している可能性もあり、理解度に大きなばらつきがある学生たちそれぞれの理解が進むような授業に近づけられるよう、これからも引き続き授業の内容と方法を検討し、改善に努めていく必要があろう。

外国語学部 英米学科
手塚　沙織　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英米政治特殊研究B
授業コード　31E29-001
教員名　手塚　沙織
教員コード　103911
登録人数　50
回答数　20
回答率　40.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



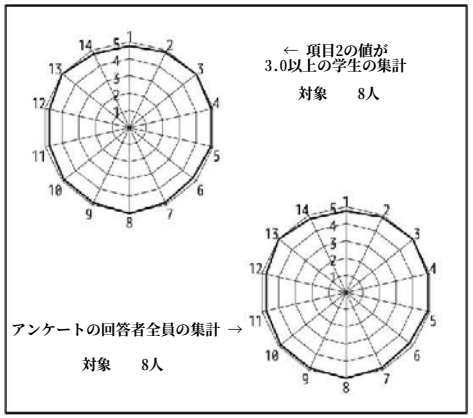
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標は、①英米政治の基礎を理解できる、②英米政治を取り巻く国際情勢を理解できる、③ある事象に対する多角的な見方を養える、とした。これらを土台とし、本講義を通じ、政治という抽象的なものを主体的に捉えさせ、政治への問題意識を高く持たせ、ディスカッションを通じて対話の重要性、他者との間での意見の最適解を見出すことを学ばせるような授業構成にした。本講義では、私からの講義、ドキュメンタリーの視聴、学生間のディスカッション、リアクションペーパーの4つの柱から作られ、主体性と受動性のバランスを大切にした。学生からのアンケート平均点として、「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」と「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」にはそれぞれ4.7点が取得できており、アンケート回答者は到達目標に概ね達していると実感している。また、最も高い評価4.95となった項目「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。」からも、学生の満足度が理解できる。自由記述回答では、「授業を通じて、自分は1人の国民としてどうあるべきか考える機会を得られた。」という回答があったことは望外の喜びである。来年度は本講義を担当しないが、この授業評価は他の授業にも活かしたい。

外国語学部 英米学科
RYAN, Anthony　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語教育特殊研究B＜国際科目群＞
授業コード　31E39-901
教員名　RYAN, Anthony
教員コード　104650
登録人数　19
回答数　8
回答率　42.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of this course included for students to investigate, learn about, and demonstrate knowledge of the various methodologies and techniques that have been used and are being used for teaching EFL in the Japanese grade school system. Additionally, students gave teaching presentations and demonstrated their own skills in teaching their peers. The most pleasing result of the survey was that all respondents rated #13 item a 5 which showed clearly that they felt that they had gained new knowledge (or skills or abilities) or deepened their understanding of teaching by taking this class. The attendance of this cohort was very high and most, if not all, fully participated in the weekly lessons. This participation item on the survey was ranked at an average of 4.9 by the respondents. Even though this class will not be offered by me in the future, various aspects of the course will provide content for other EFL teaching courses that I teach.

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
ESCANDON, Arturo　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語口語表現特殊研究II2
授業コード	32B06-002
教員名	ESCANDON, Arturo
教員コード	102090
登録人数	5
回答数	0
回答率	0.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

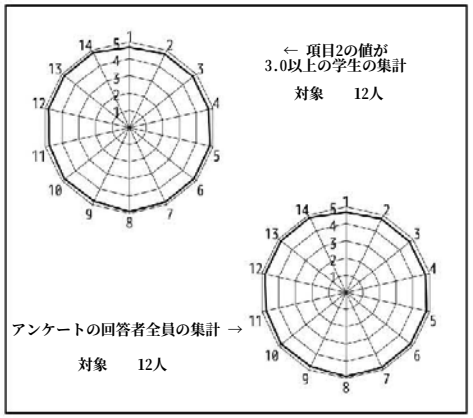
授業評価結果を踏まえた点検・評価

All goals set for this class were met. Students learned and researched about different topics (Spanish literature, education system, folklore, music, film and television, etc.), using a vast array of supports (News, Youtube channels, podcasts, etc.), and made oral presentations about them. The class covered many concepts and their correlated vocabulary. Students also had the opportunity to interact in Spanish and improve their skilss to make oral presentations. The topics selected seemed to have worked fine. In terms of future development, I have now a clearer idea of which discourse genres and media formats to include to cover each one of the proposed topics.

外国語学部 フランス学科
COURRON, David　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランスの経済
授業コード	33A24-001
教員名	COURRON, David
教員コード	019026
登録人数	15
回答数	12
回答率	80.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



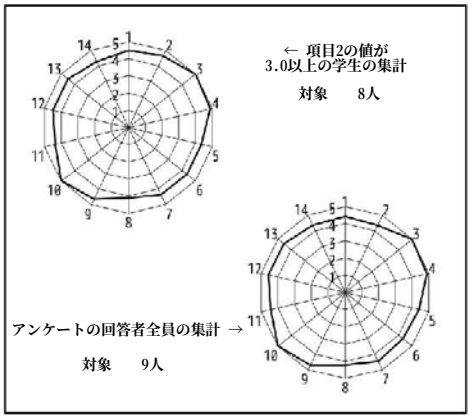
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Initial course objectives
The aim of this course was to have students get acquainted with the latest facts on the French economy through a pluralist approach involving geographical, demographical and sectorial (agriculture, industry and services) factors along with some fundamental notions on what an economy is all about.
2. Degree of achievement of initial course objectives
This quarter, though the amount of preparation may have seemed heavy for some, most of the students committed themselves to meet the challenge of a class relying extensively on French-written material. Many valued the precise explanations of background information that I added throughout each class as well as more general French-language related issues.
3. Areas requiring improvement and general remarks
According to many students' comments, I managed to create a stimulating atmosphere for studying. I will then do my best to preserve it in the future. A majority seem also to have appreciated the fact that I gave extra materials on my homepage. However, due to the lack of previous basic knowledge of the field, I will pay more attention to make sure key concepts are accurately understood before I refer to them.

外国語学部 フランス学科
真野　倫平　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アカデミックフランス語II1
授業コード	33A28-001
教員名	真野　倫平
教員コード	100083
登録人数	24
回答数	9
回答率	37.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



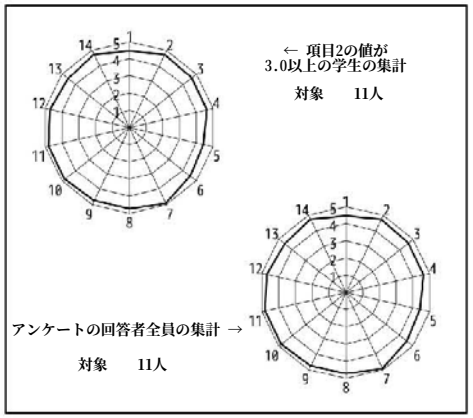
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義は、フランス学科フランス文化専攻3年次生を対象とする学科必修科目である。フランス語で書かれたアカデミックな文章を講読し、学術的文書を読解できるような語学力ならびに調査能力を身に付けることを目的とする。テクストには、フランスの歴史家イヴァン・ジャブロンカの社会学的エッセー、Le Corps des autres（2015）を使用した。同書はエステティシャンに対するインタビュー調査を通じて、現代人の身体に関する意識を分析した著作である。授業方法としては、事前に履修生に課題テクストの日本語訳を提出させ、授業において教員がそれにコメントを加えながら正しい訳文を作成するという手順を取った。並行して、テクストで扱った主題に関するドキュメンタリーを鑑賞したり雑誌記事を講読し、それに関するコメントを提出させた。履修者はフランス文化専攻所属の24名であった。①目標と到達の程度については、多くの履修生が学術的な文章の読解に慣れ、翻訳の作業にも習熟してきたように思う。②総合的な自己点検・評価については、設問3～14の平均が4.57であり、まずまずの評価を得ることができたように思う。③今後の改善点については、自由記述欄にも考資料に取り上げたドキュメンタリーや雑誌記事が興味深かったという意見があったので、今後も教材として多様な要素を取り入れてゆくことが重要であると考える。

外国語学部 フランス学科
小林　純子　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アカデミックフランス語II2
授業コード	33A28-002
教員名	小林　純子
教員コード	102488
登録人数	26
回答数	11
回答率	42.3%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

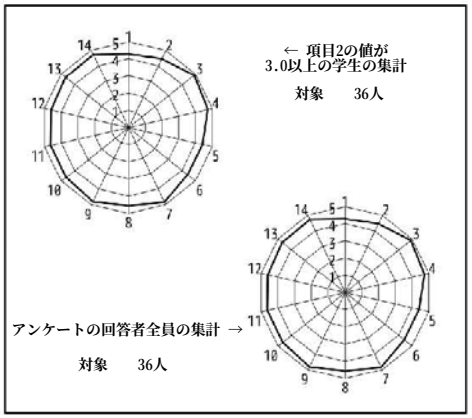
この授業ではフランス語で表やグラフの読解を行い、他のヨーロッパ諸国や日本の現状との比較を念頭において、さまざまなテーマについてディスカッションを行うことで、フランス社会への理解を深めることを目標にしている。到達の程度として、「資料のフランス語が示す内容の正確な読み取り」、「読み取った内容の伝達」、「資料の内容に対する自らの見解のフランス語での表明」の３つが可能になることを設定した。

自由記述回答から、グループワークやプレゼンテーションなどの学生主体の活動、課題の適切さ、授業の進め方や課題への取り組み方についての説明の分かりやすさが評価されていることがわかる。数値データからは概ね自由記述回答を裏付ける結果が見られたが、「事前の興味関心」、「到達目標」、「達成感」の項目でやや数字が低いとから、受講生が既に獲得している知識の把握と、それに応じた到達度の設定が求められると考えられる。次クォーター・学期以降では難易度の調整に工夫を施したい。

外国語学部 フランス学科
吉澤　英樹　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス文化特殊講義B
授業コード	33C13-001
教員名	吉澤　英樹
教員コード	103584
登録人数	54
回答数	36
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 本科目は必修ではない学科選択科目での開講であり、自身の専門に近い内容の講義を重なっている。シラバスに記載した目標に対する到達度はレポートによって確認している。一部アンケートを反映し、汎用的な視点から講義内容を修正理解する者が一定数みられたが大方は報告者が意図したレベルの目標に達したといえる。

②学科科目でゼミ生が履修していることもあり、評点や自由記述は好意的だった。しかし教室のタイプゆえか、時折私語が聞こえてきて他の学生に迷惑をかけるような状況が生まれていた。その時は一回講義を止めたり、一言注意を促したりなどしたが、それでも不満に思う学生が一定数いたことを理解した。

③汎用的な内容のレポートが出たことに関しては、SNSやAIといったトレンドワードを議論の中心に据える時に起こりうる問題について授業内で説明したい。また少数の学生の私語に関しては、次回からは授業の流れや雰囲気を壊さないようにしながら注意する方法を考え実行したい。

外国語学部 ドイツ学科
RIESSLAND, Andreas　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本との出会い5＜国際科目群＞
授業コード	13B01-901
教員名	RIESSLAND, Andreas
教員コード	101252
登録人数	6
回答数	3
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) The goals set out at the start of the course were to make the participants aware of the perception of Japan discernible in sources from Europe and North America throughout history, and to sensitize them to the inherent values in these sources.

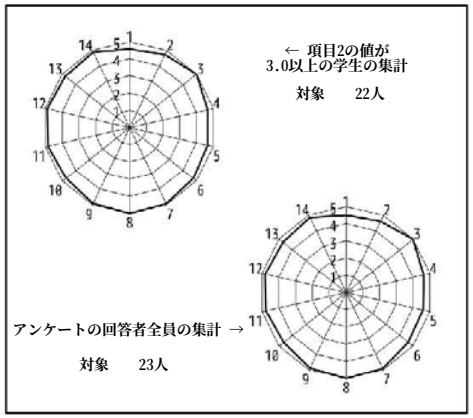
(2) As I did not receive any information regarding the score distribution, I cannot comment on this survey. The students' written comments show that the students were happy with both course format and course content. For me, this result is sufficiently satisfactory.

(3) As the course format was to the satisfaction of the students and reflected in their academic progrssion throughout the 7 weeks, this successful format will be continued in future years.

外国語学部 ドイツ学科
齋藤　敬之　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文献講読（ドイツ語圏の社会）
授業コード	34A24-001
教員名	齋藤　敬之
教員コード	104487
登録人数	28
回答数	23
回答率	82.1%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

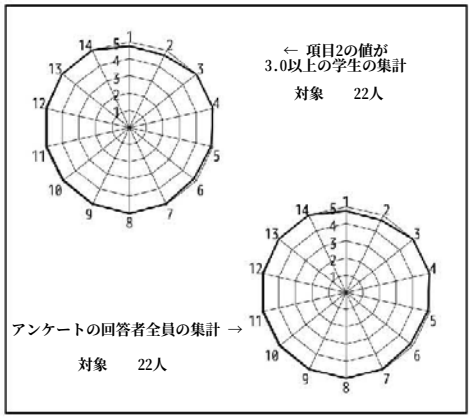
本科目では「複雑な構造の文章や難解な表現に触れ、それを理解し解釈することができるようになること」、および「ドイツ語を通じてドイツ語圏の政治や社会、歴史の特徴を理解することができるようになること」を目標に掲げていた。この2点目について、授業で扱うテーマや教材を事前に具体的に指定しているわけではなかったため、授業の内容についてあらかじめ興味を持っているとは限らない学生も見受けられたように思われる（設問1）。

本科目では、3年次以上の学生が履修することに鑑みてやや難易度の高い教材を用いたが、ポイントや注意点の説明に時間を割いたり補足となり得る課題を出したりするといった配慮をしたことで、授業全体についてはおおむね好意的な評価が得られた（設問11～設問15）。とくに、学生に問いかける機会を確保したりクイズの時間を設けるなどの工夫をしたりしたことで、教員の姿勢や授業運営についても好意的な評価を得られたと思っている（設問7～設問9）。こうした工夫は学生のモチベーションの向上や教員と学生間の双方向性を確保することを意図したものである。今回の評価に鑑みて、こちらの意図が実現できたと判断しているため、今後も継続したい。

外国語学部 ドイツ学科
畑野　小百合　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ語圏文化研究
授業コード	34D14-001
教員名	畑野　小百合
教員コード	104422
登録人数	26
回答数	22
回答率	84.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



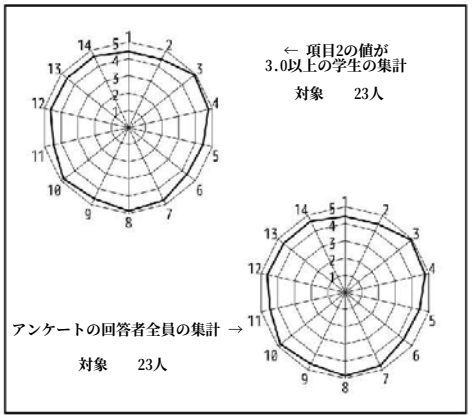
授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバス記載の通り、この授業は以下の4点を目標としていました。
・ドイツ語で歌うことができる。
・歌唱ドイツ語の特性と、表現のさまざまな可能性を理解している。
・授業で扱う基本的なレパートリーについて、歴史的・文化的背景を踏まえて説明することができる。
・歌詞と音楽の関係について論理的に考え、表現に活かすことができる。
今回は、主にJ．S．バッハとメンデルスゾーンの合唱作品を取り上げましたが、履修者の皆さんの熱心な取り組みにより、これらの目標は十分に達成されたと感じています。
数値データおよび自由記述の評価から、履修者の皆さんの満足度がとても高かったことが感じられ、安堵しています。ドイツ語で歌うという経験が皆さんのドイツ語学習を充実させ、ドイツ語圏に対する理解を深めたという実感をもたらしたことが確認できました。また、履修生同士が教え合い、一緒に声を合わせて大きな合唱を作りあげることが、大学生活の良い経験になったことも感じられました。これからも履修生の皆さんと相談しながら、歌う体験を授業の中で柔軟に実践していきたいと考えています。

外国語学部 アジア学科
江口　伸吾　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語時事B
授業コード	35C09-001
教員名	江口　伸吾
教員コード	104423
登録人数	29
回答数	23
回答率	79.3%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

（１）中国語の新聞記事(『人民日报(人民网)』『环球时报(环球网)』など)をテキストとして、さまざまな形式の文章を精読することにより、①中国経済、中国社会、文化・生活などの各領域に関する語彙を増やし、時事中国語の読解力を高める、②現代中国の動向に関する理解を深めることを目標に掲げた。本授業を通して、開講当初の目標は、おおむね達成できたのではないかと判断している。

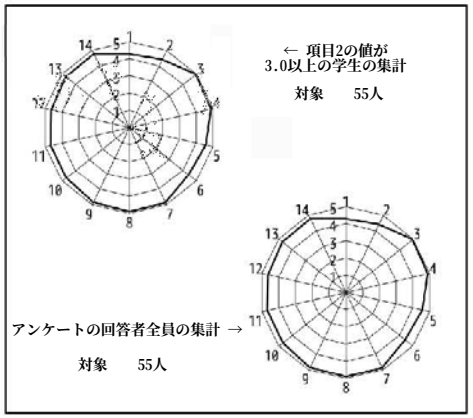
（２）数値データ、および自由記述をみる限り、本授業での受講生の理解度はおおむね良好であった。とくに授業では、現在の中国に関する中国国内外の中国語の新聞記事をとりあげることにより、中国の時事問題に関する語彙を増やし、読解力を高めるとともに、その内容から中国経済、社会、文化に関する知識の修得に尽力した。この結果、授業の良い点として、「現代の中国事情に関して中国語の文章を読むことで新しい語彙を理解できた」「多角的な視点で中国を捉えることができた」「最新の中国のことが知れる」といった意見が寄せられた。

（３）改善した方が良いと感じた点として「中国語新聞を読解するだけでなく、教員による中国に関する話があれば良かった」「授業の合間に映像資料などの視覚的なものが加わるとより理解が深まると感じた」といった意見も寄せられた。今後、新聞の読解だけでなく、内容に関する話やそれに関する映像資料も加え、授業の進め方を工夫してまいりたい。

外国語学部 アジア学科
中　裕史　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国文化研究
授業コード	35C14-001
教員名	中　裕史
教員コード	017830
登録人数	77
回答数	55
回答率	71.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



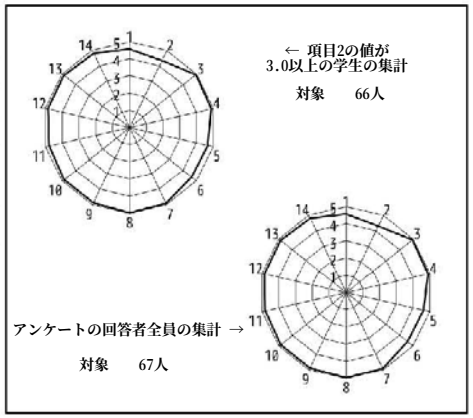
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では到達目標として、歳時文化、食文化、芸能文化について基本的な知識を有していること、および日本文化に対する具体的な影響について理解していることの2点を設定した。受講生に提出を求めた各回3種類のレポートの記述を見てみると、上記目標は概ね達成できたと言っていいだろう。アンケートの設問1と、設問13および14の評価を見ると、受講生の方もそうした感触を持ったことが見て取れる。事前レポートを課して反転授業の要素を取り入れ、授業内と授業後にもレポートの提出を求める方法を採ってみたが、自由記述では、煩瑣だとする感想は見られず、「授業内容をより深く理解できた」、「フィードバックによって他の人の考えを知ることができた」というように歓迎する声が聞かれたことは、この方法が一定程度有効であったことを示しているものと思われる。次年度以降に向けては、今回の方法を踏襲しつつ、各回の内容を見直して、受講生がいっそう関心を持って身近に感じることができる話題を提供して、より積極的な反応が返ってくるように心がけたい。

外国語学部 アジア学科
宮原　佳昭　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	東アジア国際関係研究
授業コード	35C34-001
教員名	宮原　佳昭
教員コード	102232
登録人数	111
回答数	67
回答率	60.4%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は、次の3点である。①近現代の東アジア国際関係における基礎知識（重要事件、人物、各政権のイデオロギーなど）を理解している。②20世紀前半の教育・文化および20世紀後半の経済・文化をめぐる日中関係を理解している。③平素より、東アジア国際関係に関する最新のニュースを積極的に収集し、その内容を理解している。

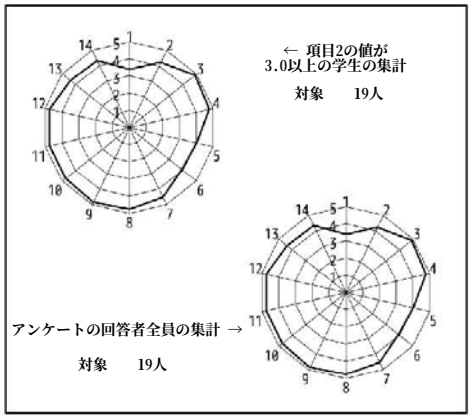
上記の目標を達成するため授業において工夫したことは、次の3点である。①汪兆銘や李登輝と名古屋との関係に言及するなど、本学の学生にとって日中関係を身近に感じられるような話題を提供した。②日中関係・米中関係に関する映像資料（映画、ニュース、ドキュメンタリー）を随時放映することによって、近代の歴史と現在の状況がリンクしていることを示した。③毎回の授業内容に関する質問をWebClassで収集し、次回の授業で回答することによって、授業内容に対するさらなる理解を促した。これら3点について、アンケートの自由回答欄ではいずれも好評であり、授業の目標到達にとって有益であったと考えている。

反省点は、上記の第3点に関連して、学生の質問が多かった場合でも次回にその全てに回答したため、授業時間の大部分を回答に使ってしまい、授業進度の調整に苦慮した回があったことである。今後は重要な質問には授業中に回答し、それ以外の回答はWebClassに掲示するという対応をとりたい。

外国語学部 アジア学科
稲垣　和也　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	インドネシア言語研究
授業コード	35D13-001
教員名	稲垣　和也
教員コード	103887
登録人数	26
回答数	19
回答率	73.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初設定の目標と到達程度
（１）マレー／インドネシア語を分析することができる、（２）そのための方法論を身につけている、（３）言語現象を問題化することができる、のいずれの設定目標についても部分的に到達した。
②数値データおよび自由記述等を踏まえた担当科目の総合的自己点検・評価
回答数／受講者数は１９／２６（←２０２２年度２７／２８）。前節①の評価は、おおむね第５・６項の到達目標・習熟のスコア（各々４．０５と３．９５）に基づく。「毎回の授業で到達目標を意識」させたが、授業内容の専門性の高さからか、第１・２項を除くと第６項（「力がついてきている」）が最低スコアとなった。２０２２度とくらべ、項目１（「興味をもっていた」）が３．３７（←３．９６）と著しく下がり、項目３，４，５，６，７，８，９，１０，１２，１３，１４の全てでスコアが低下した。そのような全体的傾向の中、項目２（「内容を理解する努力」）については、２０２２年度の３．８５から４．２１へと上昇し、項目１１（「指導や情報提供」）も、４．６７から４．７４へ微かに上昇した。自由記述は、項目１２の質問・相談機会（４．７４←４．９３、「質問しやすい」４件）が最も多く、授業評価において教員－学生間のやり取りに着目していることがうかがえる。改善を要求する自由記述が乏しく、授業における内容解説（２件）と、授業内容の他の学びへの応用可能性（２件）に対する一定の評価が見られた。ただし、「授業内容の復習時間」を要求する自由記述が１件あった。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
昨年度と同様、到達目標（３）の、より主体的に現象を問題化できるよう、さらなる工夫が必要である。考察に使える事例をさらに追加して明解な解説を目指す。

経済学部 経済学科
寳多　康弘　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	外書講読(国際)A2
授業コード	40C06-002
教員名	寳多　康弘
教員コード	100751
登録人数	14
回答数	4
回答率	28.6%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

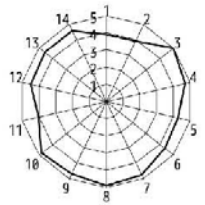
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、経済学部の選択科目で外国語科目に相当する授業で、今回で4回目の授業評価を受けた。世界的に有名な国際貿易の最新の英文テキストを用いて、学生に担当箇所を割り当て、各自で日本語ではなく、すべて英語でレジュメを作成してもらい、発表してもらう形式である。今回は少人数なので対面で議論が深まり、目標はほぼ達成できた。学生の評価は概ね高かったが、学生からの質問などは活発ではなかった。対面での議論の経験がこれまで少なかったので、対面での大学の少人数授業に戸惑いがあったのかもしれない。今回の受講生は毎回2人の報告ができる程度の人数であったため、割り当て箇所を丁寧に進めることができた。テキストの内容は高度なものも含まれており、最新の経済動向も事例が掲載されているので、学生には難しく感じるかもしれない。そこで、私の方で補足説明を丁寧に行った。発表者以外は、質問やコメントを確実にするように加点方式として、多くの質問やコメントが出た。少人数だからこそできたのかもしれない。今後も熱意を持って教育に取り組む所存である。

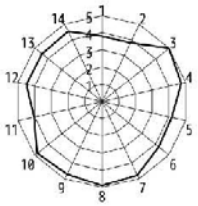
経済学部 経済学科
大鐘　雄太　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済統計入門3
授業コード	40D05-003
教員名	大鐘　雄太
教員コード	103641
登録人数	43
回答数	31
回答率	72.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計
対象　30人



アンケートの回答者全員の集計 →
対象　31人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　この授業では、統計学の基礎知識の習得を目標とした。授業の到達目標を理解できているかどうかに関する設問（設問5）と、授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うかどうかに関する設問（設問6）は、それぞれ4.19と4.26であったが、定期試験の結果は良好であったため、目標は概ね到達できたと考えている。

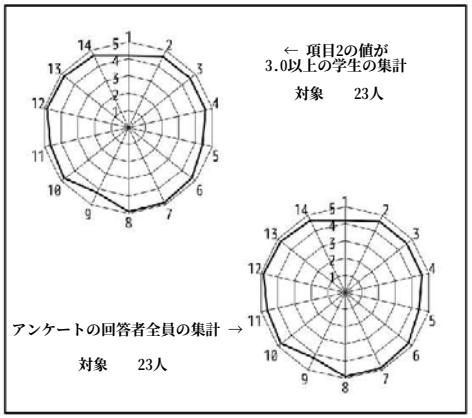
② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
　前回開講時と比べて、(1)設問3から設問14までの12項目すべてが上昇したこと、(2)全体の満足度に関する設問（設問14）が4.12から4.52に上昇したこと、(3)設問3から設問14の平均が4.33から4.58に上昇したこと、の3点から判断して、総合的にはよくできたと考えている。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　上述のとおり、全体的には悪くなかったが、授業の到達目標に関する設問（設問5、6）、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための指導や情報提供に関する設問（設問11）は、それぞれ4.19、4.26、4.06と改善の余地があるため、次回開講時には、これらを改善することにより、全体的な満足度のさらなる向上を図る予定である。

経済学部 経済学科
井上　知子　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	理論経済学B
授業コード	40D16-001
教員名	井上　知子
教員コード	019166
登録人数	31
回答数	23
回答率	74.2%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

毎回の授業でおこなった小テストの参加者数は、今回のアンケートの回答者数とほぼ同じであった。したがって、授業に毎回出席していた学生はほぼすべてアンケートに答えていると思われる。

授業内容に対する事前の興味を問う項目1は4.17であった。他方、事後の理解度を問う項目13が4.69、事後の満足度を問う項目14が4.65であったので、授業を通して、受講生の理解度、満足度を上げることができたのではと思う。

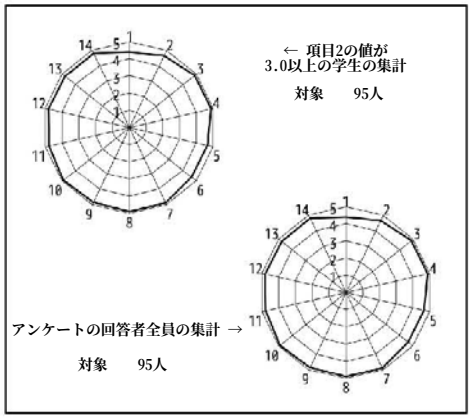
自由記述欄をみると、評価できることについては、①確認問題の実施とそのフィードバック、②数学を使って理解するという授業のスタイル、③教員が丁寧、やさしい、など、教員の性格・性質に関する書き込みがあった。改善すべき点については、①授業の進度(早い、遅い)、②スクリーンに書き込む文字が小さい、見づらいといった意見が書かれていた。

進度については、人によって感じ方が違うので、改善をするというのはなかなか難しいが、受講生からの質問をできるだけ多く受けるという姿勢でいたいと思う。スクリーンと板書を切り替えながらの授業については好意的な意見があったが、スクリーンへの書き込みについて、前列だけではなく後列の電気も消してほしい、といった具体的な意見があったので、今後はそれを試してみたいと思う。

経済学部 経済学科
西森　晃　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	財政学B
授業コード	40D27-001
教員名	西森　晃
教員コード	100624
登録人数	228
回答数	95
回答率	41.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体の平均点(4.78)，問14（授業に満足したか）の値(4.80)のいずれも私の授業の中では過去最高点であった。授業内容は平易でなく，また授業運営も私語厳禁等の厳しいものであったが，それを学生がきちんと評価してくれたことが素直に嬉しい。積極的に参加してくれた学生の皆さんに感謝する。

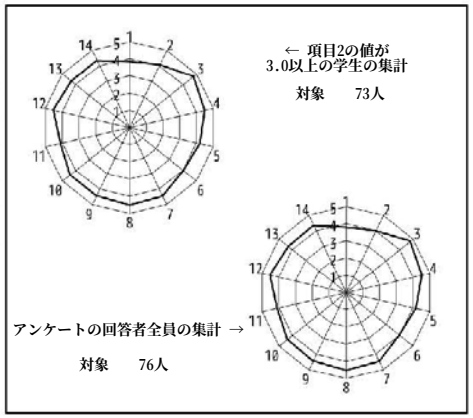
自由記述欄もほぼ好意的な意見が大半であった。特に評価されていたのは私語厳禁のルールを徹底したことと，授業中のディスカッションタイムである。この方針は今後も続ける予定である。また，学生からの反応を見る限り，授業の内容やスピードにも満足している人が多いように思う。「しっかりと復習をしていればどんどん理解が深まるのも楽しかった」という意見がとても嬉しかった。

学生からの改善要望は1件あった（宿題の解答も資料としてアップロードして欲しい）。この点については要望をそのまま聞けば良いというものでもないと思うので，今後の対応は考えたい。今回唯一残念だったのは回答率が50%を下回ったことである。授業の最後に「アンケートをお願いします」と伝えたら少なからぬ学生がそのまま席を立ってしまったため，出席率よりは回答率の方が低い。学生の回答疲れもあるだろうが，次回は回答率を上げるための工夫をしたい。

経済学部 経済学科
岸　智子　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	労働経済学B
授業コード	40D31-001
教員名	岸　智子
教員コード	100346
登録人数	291
回答数	76
回答率	26.1%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



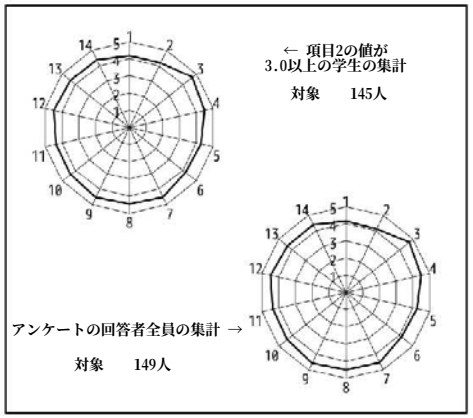
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達　授業への出席状況は全体的によくなかった。期末試験の結果を見る限り、目標は70－80%到達できたと思う。
②学生が予習・復習できるように練習問題を課したが、設問２の回答を見るとあまり予習・復習ができていないことがわかった。
③この科目に興味を持てるような導入部分を設けたいと思う。予習の問題に関しては、もう少し工夫したいと思う。

経済学部 経済学科
前林　紀孝　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	公共経済学B
授業コード	40D33-001
教員名	前林　紀孝
教員コード	104801
登録人数	422
回答数	149
回答率	35.3%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



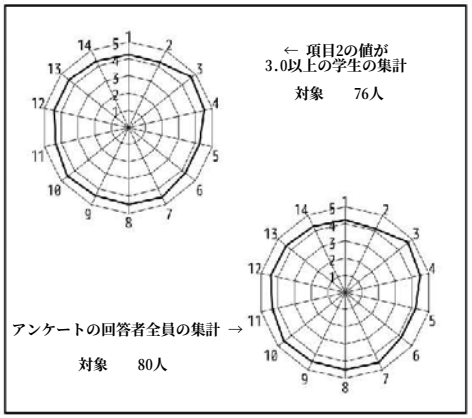
授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケート結果および試験の結果から、以下の達成目標3点についておおむね達成できていると感じた。Ⅰ財政政策の効果について正しく理解できるようになる。Ⅱ短期と長期のマクロ経済政策について理解できるようになる。Ⅲ政府債務の問題や公的年金制度の問題について理解できるようになる。ただし、内容がある程度難しいために十分な理解にはまだ課題がある。登録人数のわりに出席人数が少なかったり、説明に集中するあまり、声が小さくなったり、字が小さくなるなどの課題もある。もう少し頻繁に出席を取ったり、字や声が小さくないか確認するなどして改善していきたい。また、授業の途中でも適宜、到達目標のどのあたりまで進んでいて、どこまでの説明が終わったのかもアナウンスするようにしたい。
　着任初めての授業でもあり、また、必修科目で教える内容が決まっているため、それを終わらせる気持ちが競ってしまい、前半の説明の速度が若干早く、後半に少し時間の余裕ができたので、次回からはペースの平準化に心がけたい。

経済学部 経済学科
岸野　悦朗　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	租税論B
授業コード	40D35-001
教員名	岸野　悦朗
教員コード	103035
登録人数	227
回答数	80
回答率	35.2%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



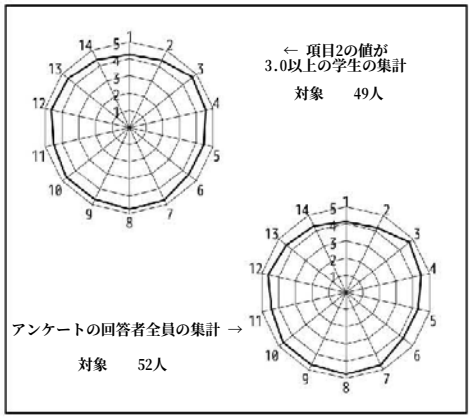
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
この授業は、法人税法及び消費税法といった法人に係る税の現状と各税法に基づく制度の考え方及び基本的な仕組み等について、今後社会人として各種職業活動を行う上において、有益な知識を身につけるとともに、税に関する考え方を深め、思考能力をも育成することを目的としている。
授業に当たっては、日頃から法人税法等になじみのない受講生に対して分かりやすく説明する観点から、パワーポイント資料を見直す等改善に努めた。また、これまでと同様に税に関する時事的な新聞記事を毎回授業時に照会することにより、より関心を引き起こすよう配慮した。さらに、授業期間中において授業内容について常時復習し、習得してもらうことを目的にweb classによる小テストを４回実施した。これらについて、評価する意見が散見されていることから、来年度も引き続き実施することとしたい。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
全体的な評価は、４以上であり、まずまずの評価であった。中でも、パワーポイントを使っての説明や冒頭での税に関する新聞記事の紹介について評価する声が多かった。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
次年度以降、これまでの取組に加え、授業の進め方をより工夫する等充実した内容となるように取り組んでまいりたい。

経済学部 経済学科
太田代　幸雄　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際経済学B
授業コード	40D45-001
教員名	太田代　幸雄
教員コード	100347
登録人数	183
回答数	52
回答率	28.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



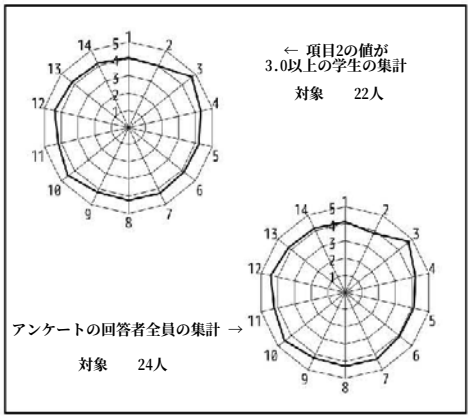
授業評価結果を踏まえた点検・評価

【開講当初に設定していた目標と到達の程度について】
　この科目は，経済学科2年次生以上向けの選択科目であり，国際経済学という経済学の一領域の基本的概念・理論・現状等を理解することを目的として開講されている。今回の講義においては，これまでの開講時に判りづらいと思われる個所があったため，理解を深めてもらう目的で，講義スライドをブラッシュアップした。数値データで見ると，全設問の平均値4.48（設問3－設問14の平均値4.53）ということで，僅かではあるが学科科目の平均値を上回っており，課題も残るが，充実した感想を持ってもらえたのかと多少安堵している。
【数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価】
　データとしては，回収率が全受講生中約28%と，ここ数年で見てかなり低い値であったことが挙げられる。出席率の低下により受講生の理解度が確実に落ちていると講義や定期試験結果を通じて感じているため，この点は改善して行かなくてはならないと考えている。また，各アンケート項目としては，多くの設問で，いずれも僅かながらであるが，学科平均値を下回る結果となった。すなわち，全設問の平均値が学部平均を上回っているのは，幾つかの学部平均を上回った項目が学部平均を大きく上回った結果であることがわかる。これらのような結果は，これまで無かったことであるので，もう1度講義の進行等について考え直したいと考えている。
【次クォーター・学期以降に向けての改善点，今後の抱負，方針など】
　今回の講義は，出席率が低かったことも関係してか，自由記述欄の回答も少ないものであった。ただ，これらを見ると，データとは異なり，説明等が判り易かったという反応が多く，今回の講義で気を付けてきた点で効果が出てきたことが分かり，非常に安堵している。今後，さらに受講生の理解が進むよう，更なる修正を試みたいと考えている。

経済学部 経済学科
林　尚志　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　開発経済学B
授業コード　40D47-001
教員名　林　尚志
教員コード　017897
登録人数　87
回答数　24
回答率　27.6%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、経済発展を順調に進めてきた東アジア諸国とその他の国々との“開発戦略の進め方の違い”を考察しながら、途上国の“有効な産業育成のあり方”に対する理解や関心を深めることを目標とした。また、授業中に提起される一連の疑問を列挙した“教材プリント”を事前に配布し、これらの疑問に対する解答を探るという形で授業を進めた。

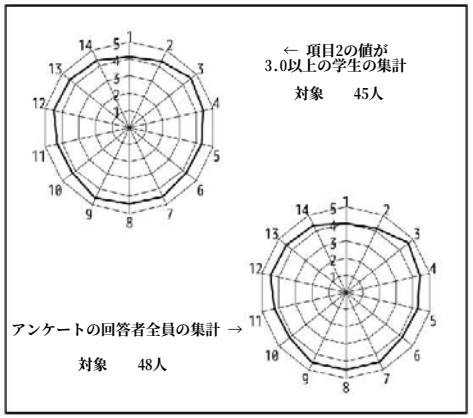
この目標の到達度については、「アジア経済で学んだ知識も活かして、国際経済学における多くのことを学べた」、「マクロ経済学の知識が得られた」等のコメントがあり、一定の成果があったと考えられる。

その一方、今後の課題としては、設問（９）と関連し、「板書がしっかりしていた」、「レジュメが理解しやすく、そこに教員の説明が加わり、理解が深まった」等のコメントがある一方で、「板書の字が見づらかった」、「板書を切り替えるスピードが速かった」等のコメントも見られたため、「考察内容を深めつつ前者の学生の割合を高める」ことができるよう、板書の内容を精選し、説明にあたってのメリハリを心がけていきたい。また、設問（１１）と関連し、「図表などを用いてわかりやすく説明していた」等の指摘が得られたが、「参考文献や資料等の紹介」でも工夫を重ね、学生の学習意欲が高まるよう心掛けたい。

経済学部 経済学科
丸山　雅章　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本経済論B
授業コード　40D75-001
教員名　丸山　雅章
教員コード　104492
登録人数　166
回答数　48
回答率　28.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

開講当初の目標（戦後日本経済の歩みに関する基礎知識を習得することができる、日本経済の構造的な変化を理解することができる等）の到達度については、項目６、13の回答の平均値、定期試験の答案から見ると、７割以上の受講生において達成されているのではないかと推測される。

②数値データ及び自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

他の担当授業で、「講義資料をそのまま話すだけなので講義に出る意味がない、重要な点が分かりにくい」等の回答があったので、「講義資料」に事前に掲載するスライドではキーワード等を穴あきにしておき、講義の際にそれを穴埋めしたスライドを提示して説明することで、要点を「書きながら覚えることができる」「丁寧なレジュメで内容の理解がしやすかった」等の評価を得ることができた。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

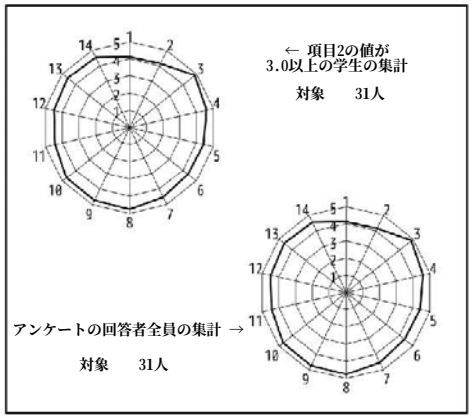
今後は、穴あきの数や語句を精査するとともに、穴埋め形式でない方が「スムーズに勉強を進められる」との意見も考慮し、穴埋めにしたスライドの「講義資料」への掲載のタイミングを早めることを検討したい。

また、今後とも、見やすいスライドを作成する、重要なポイントは強調する、スライドを補足する例示等の説明を増やすなどして、よりわかりやすく単調でない授業となるようこころがけたい。

経済学部 経済学科
川本　真哉　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	数量経済史B
授業コード	40D77-001
教員名	川本　真哉
教員コード	103865
登録人数	75
回答数	31
回答率	41.3%
休講回数	2　回
補講回数	2　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

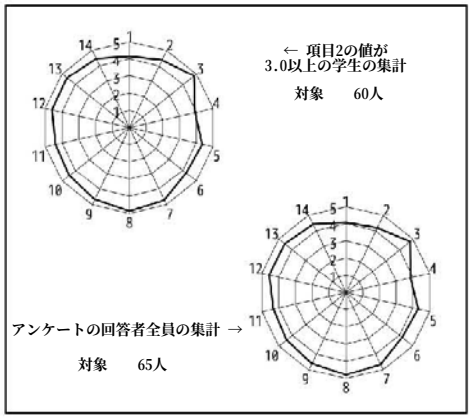
①目標と到達の程度について
　本講義では、戦後日本における企業システムの発展について、企業とそれを取り巻くステークホルダーの観点から、体系的に理解することを目的としていた。講義では、戦後日本企業の成長に対し、安定株主、メインバンク、日本型雇用慣行、取締役会、企業集団、企業グループなどが果たした役割や限界にていて解説できたため、概ね掲げていたトピックについては扱えたと理解している。

②総合的な自己点検・評価
　質問項目14（全体として、あなたはこの授業に満足しましたか）は4.52ポイントとなっており、概ね肯定的な評価をもらったものと理解している。特に、項目3、項目8、項目9が4.5を超えており、時間管理、声の通りやすさ、資料準備、授業に臨む姿勢が重要であることがわかった。その反面、項目1と2は4ポイント程度であり、この点については改善の必要があることがアンケートから読み取れた。
③今後の抱負、方針
　上記のことから、今後の課題として、授業参加を促すような事前情報（シラバス）の提供、授業の理解をより一層深めるような仕組み作りが必要に感じられた。前者については、授業で扱うテーマの有用性の強調、後者については、定期的な理解度テストの実施などを実施することにより、改善を心がけたいと考えている。

経営学部 経営学科
山下　忠康　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治・経済の諸相8
授業コード	13C06-008
教員名	山下　忠康
教員コード	101152
登録人数	190
回答数	65
回答率	34.2%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達度
１．金融・経済の基本的な仕組みを理解できる。
２．ライフプランニングと資金計画が作成できる。
３．リスクマネジメントの基本を理解できる。
４．金融資産運用の基本を理解できる。
５．FP３級試験に合格できる。
以上の５つの目標に対して、おおむね達成できていることを定期試験（筆記試験）により確認している。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
ほとんどの項目において平均的な評価を得ている。
しかし、項目４「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。」の平均値が低くなっている。
自由記述においても「授業の回数に対する、内容が多すぎる。」との意見を頂いている。
１５回の対面授業に加えて、ビデオ補講を加えてことが、学生の負担感を高めた可能性があるが、意欲的な学生からはポジティブな評価を得ていることから、授業の構成はこれまでどおりで実施いたしたい。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負
異なる学部の学生が履修していることから、知識ゼロを前提にした分かりやすい授業を行い、履修者の金融リテラシーの向上を手助けしたいと考えている。

経営学部 経営学科
高田　一樹　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	職業指導論
授業コード	40E09-001
教員名	高田　一樹
教員コード	102887
登録人数	7
回答数	3
回答率	42.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 教職課程の必修科目としてキャリア教育を担う教員志望者を対象とし講義計画を立てた。例年、教職課程の履修者は限られるため、受講者が多様なキャリア観を理解し、キャリアに関する今日的な話題提供を到達目標の1つに掲げている。本年度は例年に比べ受講者が少なく7名にとどまった。最終回に10分ほどの時間をとりアンケートへの回答を促したものの、回答者が開示件数に達しなかった。
② 上記の理由からレーダーチャートによる数値評価は公表されない。しかしながら個別の回答票（匿名）を参照するかぎり、設問1に「1」をつけた回答（1名）を除けば他の設問についておおむね良好な評価を得ることができている。自由記述欄では「話の内容が面白いこと。」「キャリアについて、時代とともに移り変わっていった考え方を追いながら、自身が今後困難に直面した際にどのように対処法を探すべきかを学べた点。」といった肯定的な評価を得ることができた。また授業改善を求める否定的な記述回答はみられなかった。
③ 前年度の反省を踏まえ、予告を行い回答の機会を授業内で設けたもののアンケートの回答率は伸び悩んだ。3年次以上配当の学科選択科目であり、就職活動を終えた受講生には興味を持ちづらい科目かもしれないが、キャリアに関する多様な観点を習得できるよう授業準備に努めたい。講義計画の基本を堅持しつつ、視聴覚教材や配布資料の拡充に励みたいと考えている。

経営学部 経営学科
赤壁　弘康　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ファイナンスB
授業コード	42C08-001
教員名	赤壁　弘康
教員コード	100788
登録人数	30
回答数	4
回答率	13.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

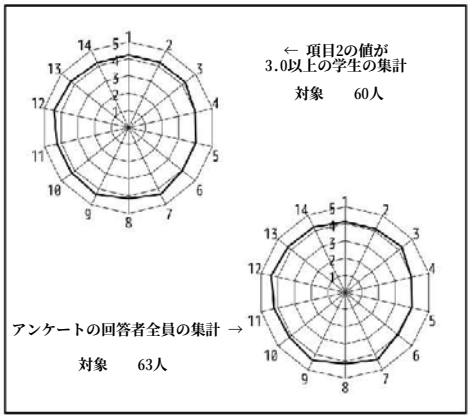
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
予定していた講義内容は全14回授業でほぼ完了した。したがって、問題演習時間を含めて所期の講義目標は十分に達成できたと考える。
② 担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
積極的授業参加度を測る目的で授業中に実施したリアクションペーパーは11回であった。リアクションペーパーの内容の多くは講義資料の練習問題（公認会計士試験や証券アナリスト試験過去問題を改題したもの）を解答させるものである。この提出状況と内容に従って1/3ルールを適用した。初回ガイダンスで注意したにもかかわらず、日付・学籍番号・氏名のみを記載したペーパーや白板の解答を転記しただけのペーパーなど、内容を評価できないペーパーが散見された。反対に、公認会計士試験の受験を検討するなど受講の目的意識が明確な受講生は、毎回きわめてよくできていたという印象を受ける。評価は定期試験に代えて期末レポートとしたが、作成上の注意事項を守らなっていないレポートも少なくなかった。
③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。
他学科受講生は履修変更や履修中止が多い傾向にあるように思われる。受講生には授業中に授業アンケートの回答を依頼したが、もともと受講生が少なく依頼を聞き漏らした受講生もいたためか、回答数が少なかった。次年度以降には回答率を上げる工夫をしたい。

経営学部 経営学科
南川　和充　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	マーケティング論B1
授業コード	42C10-001
教員名	南川　和充
教員コード	100478
登録人数	121
回答数	63
回答率	52.1%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



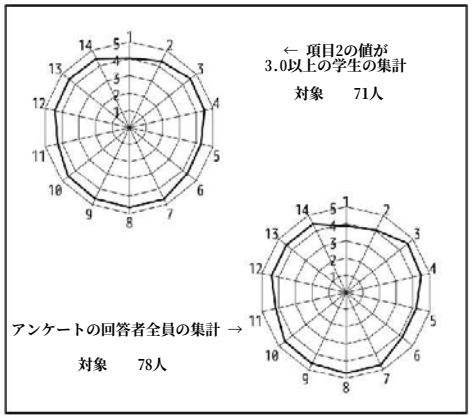
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①．到達目標は(1)～(4)（シラバスを参照のこと）を設定した。これを達成するために例年同様に中間試験および数回の課題を課した。目標(1)(2)について肯定的評価の自由記述には「課題を通してより身近に感じられ、理解を深めることができた。」「スライドの内容（←肯定的に評価できる）」があった。また、目標(3)(4)については「人の普段は気にしない意見の中に、モノを一つ選ぶ、ブランドを選ぶことで、人の心理を読んだら、統計的データを出すことができると知りました。」といった自由記述があったし、モデル分析の課題および中間試験の出来が良好であったことから、達成されたと判断できる。今回も中間試験結果の返却や提出課題のフィードバックを実施できなかったが模範解答を開示しているので、それを確認している受講生については力が身についていることを実感させることができたと思う。
②．全項目が経営学科科目での平均値を下回っており、毎回のごとく反省しているが、前回2022年度Q3と比較して、本科目の授業評価結果は項目3を除く全項目で上がった。
③．次年度は中間試験結果や提出課題のフィードバックを実施したい。ただ、中間試験や課題を多くさせてはいるが、所詮は受講生はそれら与えられたものに対して解答をしているだけであり、今のところあくまで受動的な受講態度にとどまっているように思える。次回以降は、学修に能動的な姿勢を持っていない受講生には何とかそれを持たせるように授業内で工夫をしたい。最後に、自由記述に「先生がおしゃべりで面白かったと思う。」の肯定的評価があった反面、改善すべき点では「雑談が多く、結局授業内容が間に合わない」の記述もあった。今後は雑談はほどほどに抑えて、所定の授業範囲をきちんと消化すべく時間管理に気をつけて、円滑な授業運営に努めることにしたい。

経営学部 経営学科
安田　忍　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	財務会計論B
授業コード	42C12-001
教員名	安田　忍
教員コード	101561
登録人数	176
回答数	78
回答率	44.3%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



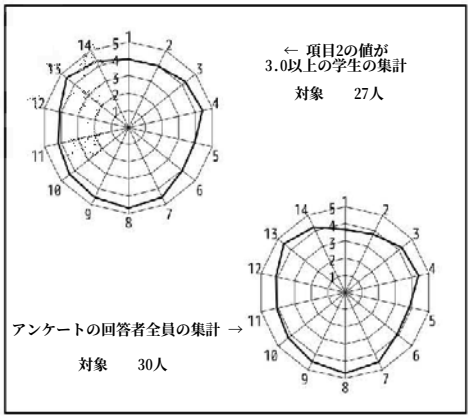
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、１.財務報告制度に関する知識を習得している、２.会計基準の内容と考え方、会計処理との関係を理解している、３.財務諸表の表示内容と財務情報の意味を理解している、の3つを目標としており、財務会計論Bでは貸借対照表に関係する内容（とくに貸借対照表の様式・表示原則、資産会計、純資産会計）を中心に授業を行っている。今回の定期試験は全体に出来が良く、とくに3、4年生がしっかり勉強していたところに特徴があり、授業目標は達成できていると考える。アンケート結果の評価数値自体は例年に比べてとくに大きく変化しているわけでなく、平均的であるが、自由記述では、レジュメ、資料、説明が分かりやすかったとの意見が多くあったので、今後ともわかりやすい授業を心がけたい。

経営学部 経営学科
中島　裕喜　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営史B
授業コード	42C16-001
教員名	中島　裕喜
教員コード	103065
登録人数	111
回答数	30
回答率	27.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

評価項目８「授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか」が4.70 、評価項目７「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか」が4.50、評価項目９「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか」が4.47ということで概ね良い評価を獲得していると考えている。講義資料はパワーポイントだけでなく可能な限り関連の動画を見つけては見てもらうように努力している。その一方で評価項目１「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」が3.67、評価項目２「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか」が3.77と振るわない。経営学部の学生は現代的な企業経営の理論の理解を求めて入学していることから、歴史的な視点の重要性についてはどうしても理解を得られにくい状況がある。そのための工夫はしているつもりで、それが評価項目7－９に現れていると考えるが、より関心を持ってもらえるように、講義内容を変更するなど、努力していきたい。

経営学部 経営学科
池田　亮一　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	資本市場論(債券・株式)
授業コード	42C19-001
教員名	池田　亮一
教員コード	101880
登録人数	12
回答数	4
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の目標は「債券や株式の性質や，その価格決定理論について説明することができるようになる」だったが，今回試験の出来が非常に良く，目標はほぼ完璧に達成されたと考えている。昨年度以前と教える内容はほとんど変わらず，試験問題も少しの変更でレベルはほぼ変わらなかったが，ほとんどの受講生がA+（例年は10%ほどしかいない）と好成績だったのは，非常に優秀で，かつ単位習得のためではなく授業内容の興味によって集まった意欲的な学生ばかりだったからと考えている。レポートも7回ほど出題したが，その意図は「授業をきちんと分かって聞くためにはレポートを解いた方が良い」というためのもので，配点は1回あたり1～2点と低く設定したにもかかわらずほぼ全員が全て提出したことは，クォーターを通じて彼らの学習意欲の高さが維持されていたを示唆するものである。このような点から，今年度のこの講義は大成功であったと言える。
ただし，残念な点も散見される。一つも受講生が例年に比べ半分以下であったこと，もう一つは，本来は経営学部生向けの授業にも関わらず，経営学部生の受講生が全体の半分未満と非常に少なかったことである。理由は定かではないが，私としては良い授業を地道に行い続け，良い噂が広まることを待とうと思う。もう一つ反省点として挙げられるのは，授業の終了時間を適切に守らず何度か超過して行ったことである。アンケートの設問3の評価として2を付けた学生もいることから，今後は終わり切らなかった場合は積極的に次回に行う等工夫して，無駄に授業評価を下げないよう注意したい。

経営学部 経営学科
竹澤　直哉　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	投資論(実物投資)
授業コード	42C29-001
教員名	竹澤　直哉
教員コード	101191
登録人数	9
回答数	1
回答率	11.1%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

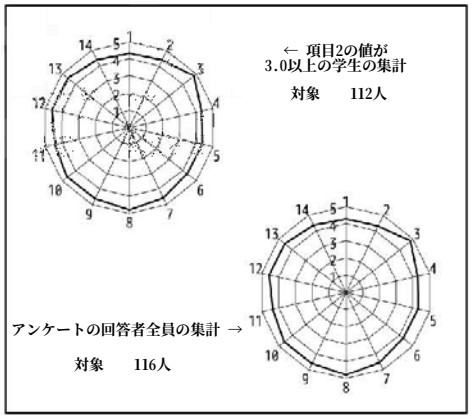
授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初の目標は投資機会を貨幣価値に換算する伝統的評価方法及び、これらの方法を資本政策問題や現代ファイナンス理論の基礎となるリスクと収益率について学び、これを考慮した投資決定を行うDCF法・リアルオプションやプロジェクトファイナンスに関する理解を深めることであった。授業では、十分な時間をかけて学生の発言や質問を交えながら、この内容について議論し、授業での発言などから一定の理解がなされたと考えられる。一方、数値データから項目5と13の評価が他と比べて低かったことから、授業の到達目標と新しい知識の習得が不十分であったことがわかる。これは授業内容に新しさが感じられなかったことが原因であると考えられる。基礎的な内容の理解を目標としてきたが、より高度な内容や事例の議論を加えることで新しい知識を得たと学生が感じられるように改善することを目指す。また、授業運営に関しては、自由記述欄のコメントから私語などに対して適切に対処していた点は評価された。

経営学部 経営学科
余合　淳　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営管理論B
授業コード	42E04-001
教員名	余合　淳
教員コード	103585
登録人数	327
回答数	116
回答率	35.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



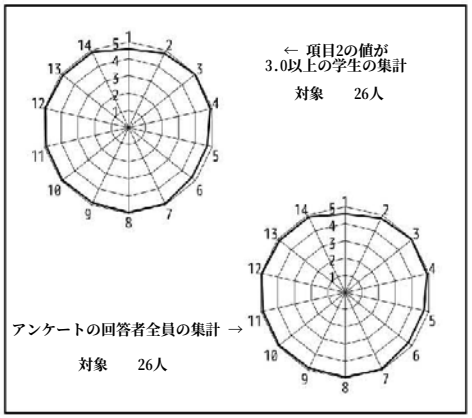
授業評価結果を踏まえた点検・評価

１．本講義の目標は，経営管理論の様々な理論を体系的に理解すること，企業における実際の経営管理手法の背後にある理論枠組みを知ること，企業や組織の存立要件や理論と実際の差について理解することの３点であった。講義では，通常労働者として接する機会の多い企業におけるマネジメントについて，企業の経営者及び人事部門からの視点を重視した。レポート及び期末試験の結果からは，概ね目標に対する到達度は良好であると考えられる。
２．数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データ全体の平均値は経営学科平均値よりやや高い結果であった。特に項目１，２，３，５，７，１２，１３については高く，主体的な授業参加，到達目標の理解，教員の取り組み姿勢，理解度への配慮，質問の機会といった側面で評価されている。
３．数値の低いものとして予習復習と進行速度の適切さが挙げられる。予習復習や進行速度については，受講者の態度，理解度に合わせて毎回復習や補足説明を追加していたために本来よりも若干遅れる傾向があった（最終的には予定通りの進行であった）ため，主体的に受講する学生のために難易度の調整が必要になるように，今後の工夫を検討する。一部出席状況の悪い受講者が理解度不足であることが多い点も課題である。

経営学部 経営学科
上野　正樹　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営戦略論B
授業コード	42E14-001
教員名	上野　正樹
教員コード	101365
登録人数	39
回答数	26
回答率	66.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



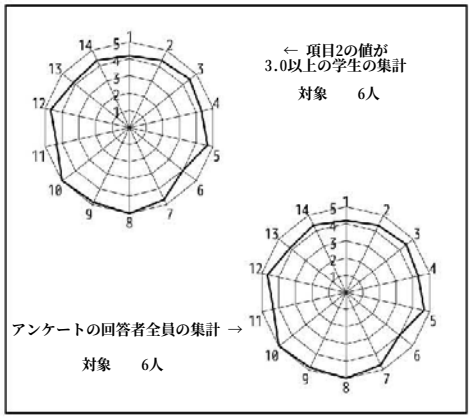
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業評価の回答率は65%、項目1-14の平均は4.86、項目3-14の平均は4.89であった。目標と到達の程度について、項目13（知識・技術・能力の獲得）の平均が4.88で回答者の88%が一定の到達を実感している。総合的には、ケースを事前に読み、設問を考え、授業で討論する演習形式（ケーススタディ）が機能したと考えている。次クオーターでは討論をより活性化するため、予習に十分な時間を当てる必要性をシラバスに記すようにする。なお自由記述回答には以下の10件があった。
発表機会が多く学生で意見を交わしながら授業が進められていた。先生の話が面白い、ケースが面白い。経営戦略についてケーススタディを通して理解が進んだ。ディスカッションにより理解が深められた。毎授業で新しいワードの説明をしてくれる点が良かったです。発言点が高いため、積極的に授業に参加できた。個人での発表、発言をその場で適切に評価していただける。生徒が主体となってディベートしていく形だったので退屈にならずに色んな意見が聞けてとても楽しかった。他の授業では経験できないディスカッションや事例を取り上げて発表するなどがあり自分のためになった。発言・発表したことがそのまま評価につながることが授業への参加意欲になった。

経営学部 経営学科
KHONDAKER, Rahman M.　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	International Management B＜国際科目群＞
授業コード	42G18-901
教員名	KHONDAKER, Rahman M.
教員コード	100361
登録人数	7
回答数	6
回答率	85.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



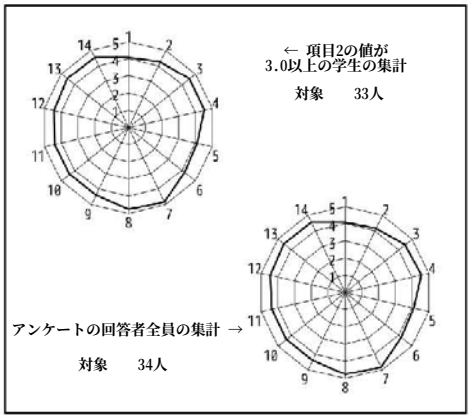
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objective of this course, among others, was to help students understand a range of complex factors that underlie different functional areas of International Management. As planned, I took fourteen classes without any make-up. I finished the syllabus in time. It is my great pleasure to emphasize that the course objectives were fully achieved. I would like to address the following aspects in the course evaluation materials. Regarding “participation in the class” (Q1 to Q2), compared with the scores of 4.05 and 4.17 for all courses in the band of 42006-001～42H04-999 (経営学科), the scores of this course were 4.17 and 4.33. Regarding “evaluation of the course in general” (Q3 to Q7), compared with scores of 4.65, 4.39, 4.22, 4.19, and 4.61 for all courses, the scores for this course were 4.50, 4.33, 4.67, 4.00, and 4.67. Regarding “evaluation of the class management” (Q8 to Q12), compared with scores of 4.65, 4.59, 4.54, 4.37, and 4.56 for all courses, the scores of this course were 5.00, 4.83, 5.00, 4.33, and 4.67. Regarding “overall evaluation” (Q13 to Q14), compared with scores 4.48 and 4.37 for all courses, the scores of this course were 4.17 and 4.33. All these scores are similar or better than the averages. As to “overall impression of the course” (Q15 to Q17), the students gave some very good comments, which I find profoundly encouraging as follows: 少人数で授業が行われたので、発言がしやすかった。授業資料をコピーしてくれるので教科書を買う必要がなくてよかった。先生が優しい。意欲は感じられた。学びが多くえられるところ。授業の進行速度が良い。At this moment, I think that the course contents, study materials, and class delivering styles are very sound.

法学部 法律学科
菅原　真　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本国憲法1
授業コード	12C03-001
教員名	菅原　真
教員コード	102064
登録人数	62
回答数	34
回答率	54.8%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



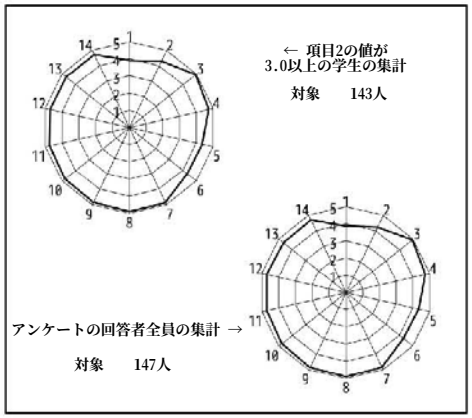
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標は、15回の授業を通してほぼ到達したと考える。毎回、教科書に記された論点、憲法や法律の条文を学生に読んでもらった後、授業の本題に入り、レジュメおよび資料（判例要旨など）のほか、時には映像資料を用いながら講義をおこなった。大事な論点については、複数の学生からその問題に対する意見や感想を表明してもらうなどした。また、必要に応じてリアクションペーパーを提出してもらうなどもした。
②数値データは、全項目が4以上（項目1から14の平均 4.42、項目3から14の平均 4.47）とまずまずの評価をいただいた。自由記述には「講義と映像のバランスが良く，理解の促進につながった」「初学者にもわかりやすいように説明してくれた点。また、意見を積極的に乗り入れるために学生の意見を取り入れたこと」が良かったなどの評価をいただいた。他方で、学生に意見を求める際に「ランダムで当たるようにすべき」とか、「判例の文章が厚くどこが重要なのかがわかりにくい」との意見もいただいたので、次年度以降の改善に役立てたい。
③今後の抱負であるが、本科目は教職科目ということもあり、教員志望の真面目に参加する学生が一定数いてやりやすいものの、後ろの席に座って授業中に内職をしている不届き者も少しいるので、そうした学生にもしっかり参加してもらえるよう、時事問題や若者が関心を有する「生きた法律問題」を積極的に取り上げていこうと思う。

法学部 法律学科
大原　寛史　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	契約法A
授業コード	44B17-001
教員名	大原　寛史
教員コード	104297
登録人数	329
回答数	147
回答率	44.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



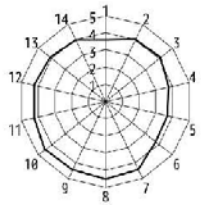
授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートに協力してくれた受講生に心より御礼申し上げたい。
①おおむね達成することができたと考えている。1年生配当科目として、過去の配当科目の基礎知識・理論との関連性を意識させながら本科目の学習内容を修得するという目標のもと、講義において多少のスケジュール調整はしたものの、予定の学習内容をクリアーすることができた。講義後に理解度確認のための小テストを実施し、受講生の復習を促したこともあり、定期試験における不可の割合は少なかった。
以上の観点から各質問項目の数値データおよび自由記述の内容をみると、②一定程度受講生に評価されたと考えている。もっとも、ⓐアンケート回収率、ⓑ質問項目5および6の数値が他の項目に比べてやや低めであることは大きな課題である。
③課題ⓐについては、講義中に複数回回答時間を設定しているが、これ以上増やすことは難しい。別の改善案を検討する。課題ⓑについては、講義内容のレベルがやや高かったように感じられたかもしれないが、自由記述欄における同指摘は今年度存在しなかった。講義内容のレベルを下げるのではなく、例年どおり講義資料および講義中の説明をより工夫することで対処し、様子をみる。

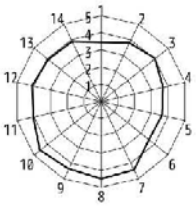
法学部 法律学科
服部　寛　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　法哲学B
授業コード　44B32-001
教員名　服部　寛
教員コード　103600
登録人数　169
回答数　51
回答率　30.2%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計
対象　45人



アンケートの回答者全員の集計 →
対象　51人

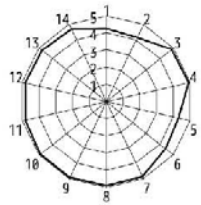
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①これまでの年度に比べて、内容にまとまりをより持たせて、また他の回との関連性もクリアにしながら進行したが、各テーマで扱う内容に際限がないため、少し深入りして説明せざるを得ないことも多々あり、そのため全体としては進行に遅れが生じてしまった。到達目標については、担当者が受講者に期待する知識の習得度合いという点では、達成できたと思っている。②項目３～１４の平均はさておき、個々の点では高いとは言えない数値がいくつかある。特に到達目標に関するところでは、マイナーな科目の特性もあるからか、そもそも法哲学の分野に関する（先行的）理解が十分でないことも手伝い、３点台半ばにとどまっている。上述したように、受講者の到達目標については、授業を提供する側としては、当科目の基本的な知識を多くの受講者が習得していると言え、これは成績に照らして見てもある程度首肯できるところである。自由記述を見て、こちらの熱意ややる気については通じているようであり、あとはどこまで、学生が前のめりになるような、関心を引く内容を提供できるか、ということと、意欲ある学生への資料類の提示を早く行なうということも心がけたいと思う。③次クォーターではおよび来年度は、シラバスにおける授業計画をよりタイトにして、全体の進行に無理が生じないもしくは生じにくいような工夫を施してみた。また上述した点でもあるが、学生に興味関心を引き起こすことができるような例をもっと活用し、事前・事後の学修についても熱心に取り組めるよう、教材や資料の充実化を心がけたい。

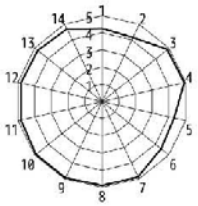
法学部 法律学科
中田　裕子　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英米法
授業コード　44B37-001
教員名　中田　裕子
教員コード　103638
登録人数　55
回答数　25
回答率　45.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計
対象　25人



アンケートの回答者全員の集計 →
対象　25人

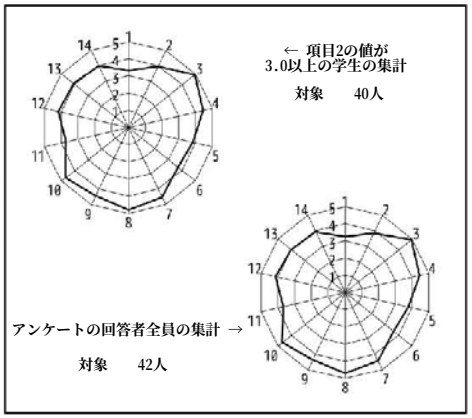
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標達成に向けて、今年は、テーマごとに必ずリアクション課題を設定し、学生一人一人、漫然と講義を受けるのではなく、積極的に考えてテーマを掘り下げられるように工夫した。結果的には、全ての学生ではないものの、多くの学生が、英米法講義の目標として掲げていた目標③を達成できていたように思う。
②南山大学での久々の英米法で、空いた期間で教えたいこと、また私自身が勉強したことが増えてしまい、もともと想定していた分の８割程度しか教えることができなかった。これは、学生からの指摘で、「英米法Aと英米法Bに分けるべき」との回答記述もあり、学生にとっても消化不良を起こしかねないと反省している。また、AとBに分けるとなると、カリキュラム改正等が必要となるため、早急に手当できるものでない以上、次年度は工夫をしたい。
③アンケート評価も比較的良好であったと思うが、さらに英米法の面白さや奥深さが伝わるように、適宜、動画や最新判例についての各国世論なども見せながら、法だけでなく制度やその背景もきちんと示していきたいと思う。

法学部 法律学科
西村　邦行　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治史
授業コード	44B46-001
教員名	西村　邦行
教員コード	104090
登録人数	77
回答数	42
回答率	54.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



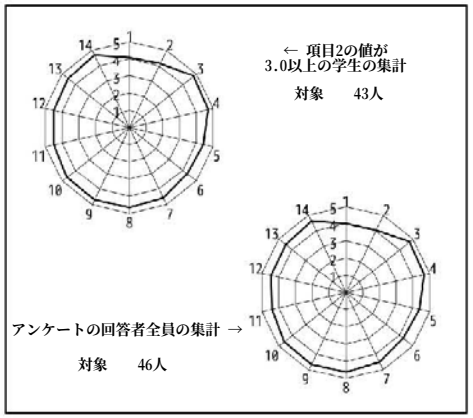
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①学期全体を通じた軸がなるべく明確になるよう、主要なポイントは意図して繰り返すようにした。具体的に、とりわけイギリスとフランスに関しては、高校の教科書に書かれている記述と対照させる形で、より専門的な議論において提出されている解釈を踏まえた説明を行った。
②この科目が評価対象になったのは初めてなので以前との比較はできないが、①で先述した点について、項目5に対する今回の回答を見る限りでは未だ改善の余地があるように思われる。他方、個々の回の授業については、速度やスライドの用い方に関して好意的な意見が比較的多く、授業の進行方法自体は引き続き現行の形をベースとしたい。その他、担当科目では項目1・2の数値が低いことが多いが、今回はとりわけ低く、時間割上でとりやすいという理由から履修した学生が多かったように思われる（たまたま宗教科目とほぼ同じだったが、おかげで評点の分布全体も宗教科目の平均値とかなり似通っていることが分かり、項目1・2がその他の数値と連動することがよくわかった）。
③高校世界史の知識が身についていない受講者がいることは想定していたつもりだったが、自由記述を見る限り、認識が不十分だったようなので、反転授業の導入など方策を考えたい。ただし、自身で知識を身につけてから来ている学生にとって不要な負担が生じないように配慮したい。

法学部 法律学科
河合　正雄　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	統治機構
授業コード	44B99-001
教員名	河合　正雄
教員コード	104426
登録人数	174
回答数	46
回答率	26.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



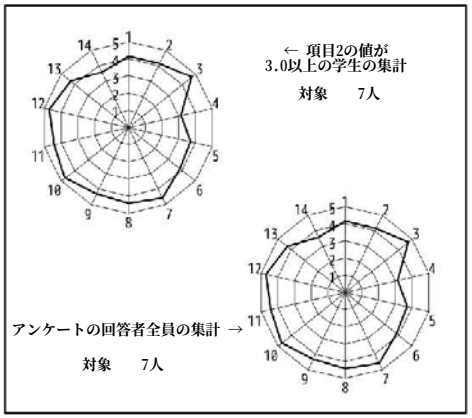
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回は、項目1～14の平均、項目3～14の平均ともに、法律学科の平均値を若干上回る結果となった。自由記述のうち、設問15（良かった点）が5通、設問16（改善すべき点）は0通であった。
（１）板書方法について。Q2の「日本国憲法2」に引き続き、板書の代わりにPCでレジュメ（word）の余白に青字で書き込み、スクリーンで写し出す方式を採用した。毎回の授業終了直後にWebclassと講義資料サーバに掲載したことは、やや過剰サービス気味かつ「自主休講」を助長する可能性があるものの、「講義後に書き込んだスライドを講義資料に載せていってくださっていたため、復習もしやすかった」という評価をいただいた。
（２）授業中の休憩時間について。Q2の「日本国憲法2」の後半に試行的に実施したのに引き続き、受講者の集中力を持続させるため、授業中の区切りの良い箇所で、毎回5分程度の休憩時間をとった。
（３）マイクについて。ハイブリッド型授業であったため、教室備え付けのPCに映し出されるZoom画面を見つつ、レジュメ（word）に書き込みながら講義をした関係で、ピンマイクではなくハンドマイクをスタンドに立てて講義をした。これによって、「声が聞き取りやす」いという評価をいただいた。

法学部 法律学科
岩本　学　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際取引法
授業コード　44C23-001
教員名　岩本　学
教員コード　104895
登録人数　34
回答数　7
回答率　20.6%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



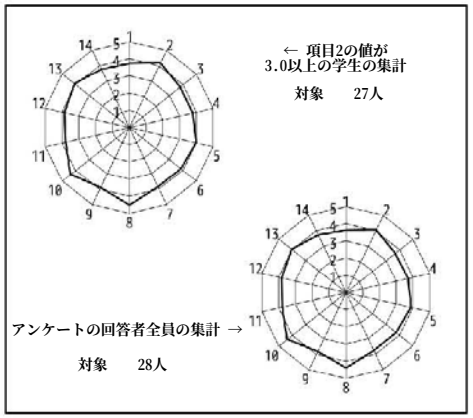
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
シラバスに掲載した，１．国際取引ではいかなる法が関与しているのか理解する，２．国際取引で生じた問題に対して法的観点での対応力を身につける，との到達目標については，講義内で必要事項につき取り上げることができた。また，試験においてその定着度，応用可能性を試したが，多くの受講生は適当な水準に達したことが伺えた。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
概ね4，5の評価であったことから継続すべきところはしていきたい。ただし，「授業の構成と進行速度」で評価が低かった点，自由記述にあるシラバスで記載しているが扱いが薄かった分野があったとの指摘と連動していると思われるため，この点が課題となる。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
②の課題を踏まえ，シラバスと講義内容の一層の連動のため，講義開始時から全回を意識しつつ授業を進めていきたい。また，理解がおいついていないのに次に進んでしまった旨の指摘もあったため，この点，受講生が理解しているかの確認などを経て進めるようにしたい。

法学部 法律学科
家田　崇　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　応用会社法
授業コード　44C30-001
教員名　家田　崇
教員コード　102459
登録人数　177
回答数　28
回答率　15.8%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



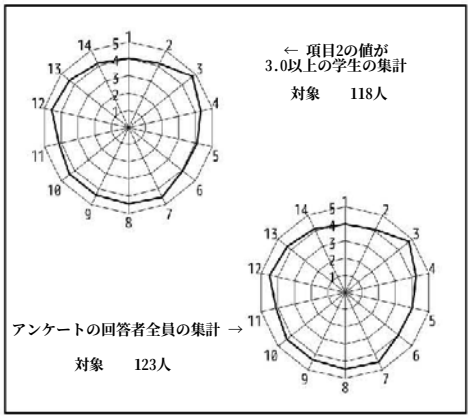
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
・開校当初設定した目標
1）貸借対照表の各項目の体系的把握に基づき、会社に関するキャッシュフローを認識し、募集株式の発行・資本の部の各科目の意義の理解、組織変更を理解する。
2）Webclassの活用を積極的に図る
・目標の到達度
1）については、募集株式の発行などの重点項目については概ね達成できたものの、組織再編などについて体系的把握に向けて目標到達できるように課題を把握したい。
2）については、ほぼ毎回じ授業時間中に、オンラインテストを実施するなど、積極的な活用がはかられたものと許可している。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※
概ね良好な評価が得られた。自由記述については、全体の意見を反映したものか、引き続き状況を確認していきたい。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
組織再編含め、対象範囲を網羅的に理解できるように、教材の充実を含め取り組みたい。

法学部 法律学科
沢登　文治　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	憲法入門
授業コード	44H01-001
教員名	沢登　文治
教員コード	017863
登録人数	312
回答数	123
回答率	39.4%
休講回数	1　回
補講回数	1　回



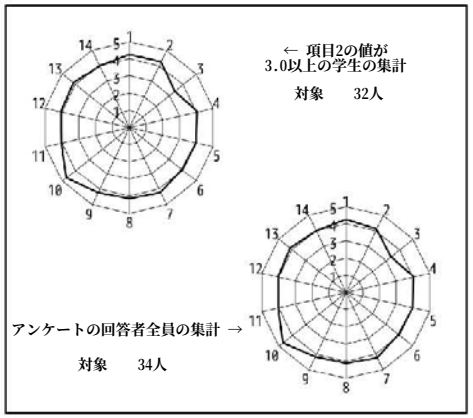
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は主として法律学科1年生向けの入門科目の1つである。
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
設問5は「到達目標を理解することができたか」、設問6は「到達目標に向けて力がついてきていると思うか」という問いだが、それぞれ4.03、3.09と思いのほか低い数字であった。シラバスの「到達目標」の再確認を途中で行うなど工夫をしたい。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
設問1・２の学生の興味、予習復習など主体的な勉強は3.97，4.05と低迷している。興味を持たれるよう、外部ウェブサイトの検索など様々な工夫をし、取扱う課題が社会とつながりを有することを意識させたい。その他、設問11「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか」は4.11と低いので、さらに適切な情報提供に務めようと思う。
自由記述欄では、練習問題の答案に対して添削指導を実施したことについて、良かった・ためになったなどのコメントがある一方で、実施してもらえなかったことについて不平等であるとのクレームがあったので、授業を超えての指導の在り方について再検討をしなければならないと感じた。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
日頃の学習など、学期を通じて継続的な働き掛けと指導が重要なので、それができるように心掛けたい。

法学部 法律学科
平嶋　竜太　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	知的財産法B
授業コード	44J02-001
教員名	平嶋　竜太
教員コード	104448
登録人数	236
回答数	34
回答率	14.4%
休講回数	1　回
補講回数	1　回



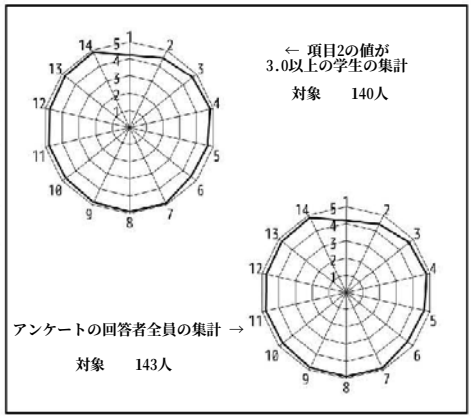
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
シラバスに記載した講義目標及び内容については、ほぼ当初設定内容に沿ったものを実行できたものと考えられる。また履修学生の到達程度については、定期試験の解答状況をみると、若干基礎的な理解に欠けるきらいみられる学生もいるものの、他方で非常によく理解がされているものとみられる学生も少なからずみられることから、概ね当初期待される到達の程度には至っているものと思料する。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※
講義における自主性重視や内容が楽しいといった評価については、講義における基本姿勢や工夫が理解されたものと捉えられ、本意が伝わった思いである。講義導入部分に時間を使いすぎるという指摘については、そもそも講義として基礎概念の理解を重視をしており、応用事項はむしろ自学自習に重点を置くことを求めるという授業初めの説明が伝わっていなかったものと考えられる。また、開講時間の遅れ・延長の指摘については、前の開講時間帯に法科大学院科目を担当して、同授業関連の延長、講義室の距離が若干離れていることから移動の時間、準備時間等があるため、やむを得ない部分もあると考えるが、確かに開始終了の時間を厳守すべきという指摘も傾聴すべき事項と考える。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
次年度以降は当該科目は担当しないが、指摘点については真摯に受け止め、今後の同種の講義へ反映させたいと考える。

総合政策学部 総合政策学科
山田　望　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	歴史と文明
授業コード	46B10-001
教員名	山田　望
教員コード	000211
登録人数	225
回答数	143
回答率	63.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標と到達の程度に関しては、これに関わる設問５と６の値が学科科目平均値を、前者は0.27、後者は0.19上回っており、最終的な満足度に関する設問13と14についても、前者は0.20、後者は0.25上回っていたので、ほぼ目標に到達できたものと判断している。

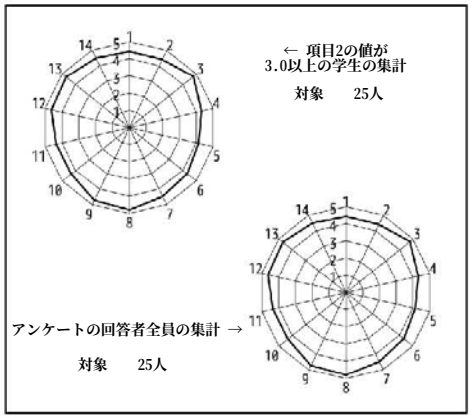
最もポイントが高かったのは、設問8の教員の声や音声機器の音は良く聞き取れたかという問いで、学科科目平均値が4.83のところ、本科目では4.91を記録し0.08高い得点となっていた。逆に最もポイントが低かったのは、設問１の授業の内容に興味を持っていたかを問う問いで、学科科目平均値が4.22のところ、それに満たない4.18というデータであった。これにより、本科目は当初は学生の興味を必ずしも惹きつけるものではなかったにも拘わらず、最終的な満足度を問い合わせる設問13や14では学科科目平均値を大きく上回る値が出ているため、授業を受ける中で学生たちは、当初の印象に反して興味関心を唆られる結果となったということが容易に推察できる。この結果は、全設問の平均値である、設問１～14の学科科目平均値が4.57であったのに対して、本科目では4.71と0.14ポイント上回っていたこと、設問３～14という全体の評価点として最も重要な設問については、学科科目平均値が4.63に対して4.78と0.15ポイントも上回る結果が生じていたことに如実に表されている。

唯一、今後の課題として指摘できるのは、本授業評価に参加した学生数が143名と、履修登録者数の225名を大きく下回っていた点である。「学生による授業評価」の実施に対して評価を記した学生数が低かったことは、学生による授業評価の回答率を上げるためにも、今後の重要な課題として残されるいる。これを改善するためには、学生の出席率を上げる工夫が必要なので、来年度は、その点で出欠を取る頻度を上げるなどの改善を実施したい。

総合政策学部 総合政策学科
佐藤　創　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ミクロ経済学
授業コード	46D03-001
教員名	佐藤　創
教員コード	103882
登録人数	65
回答数	25
回答率	38.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達については、アンケート及び試験結果の結果をみると、おおむね達成できたと思われる。本授業の項目1から14の平均は4.49、項目3から14の平均は4.50であり、いずれも科目登録者数別集計の（61～120）の平均値とほぼ同じである。なお、回答数は25でおよそ４割であり、最後の授業でアナウンスしたが、やや少ない。

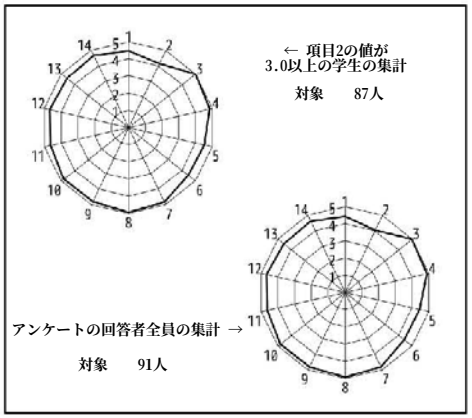
本授業ではレジュメを事前にアップロードし、そのレジュメのなかで穴埋めをさせつつ授業を進める方法を採用した。科目の性質上、図表を多用したが、みやすくなるように工夫した。さらに、おおよそ1時間ごとに、理解の確認のための問題をPORTAを通じて提示して、その場で正当率などを表示しながら、解説した。これらの工夫はアンケート結果の集計および自由記述欄をみると、概して、学生の評判が良かったようである。

引き続き、「当該授業の理解度」「自発的な学びの促進」を高めるための良い工夫がほかにもないか、試行錯誤しながらより良い講義になるように努めたい。

総合政策学部 総合政策学科
久村　恵子　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　産業心理学
授業コード　46D04-001
教員名　久村　恵子
教員コード　100026
登録人数　172
回答数　91
回答率　52.9%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の目的は、産業社会における心理学の活用を、生産者（労働者）および消費者として社会に関わる人間の行動や態度、心理を通じて理解することである。そのため、産業心理学の歴史とその変遷を理解し、キャリア発達における心理学およびマーケティングにおける心理学について理論的に理解し、説明できることを目標として展開してきた。

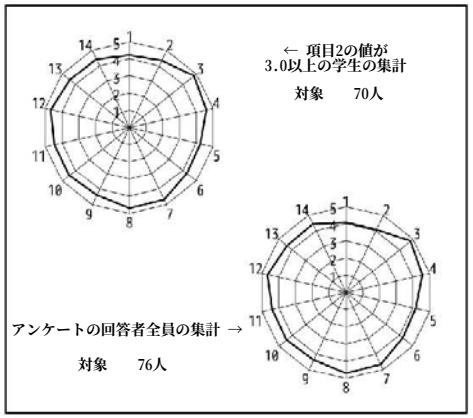
今回の授業評価の結果では、全ての設問において4点以上であり、設問3～設問14の平均値が4.72（同科目前回値4.72）と、大学全体および総合政策学科の平均値（4.53, 4.63）と比較しても、全体として肯定的で高い評価が得られた。自由記述においても「スライド資料、レジュメ資料、動画、画像などの資料により分かりやすかった」、「授業内の振り返りで理解が深まった」、「就活や将来に役立つ知識が学べた」、「授業が教員だけの時間ではなく、学生への質問を通じて一緒に時間を過すようにしてくれた」などの肯定的意見が寄せられた。これらの結果より、本講義の到達目標は達成できたといえよう。

しかし、自主的な学習に関する項目（設問2）の値（4.04）は、前回値（4.12）と比較するとやや低下し、設問項目の中では一番低い値となった。授業内の振り返りや、小レポート、中間レポートの課題内容やタイミングがよく、授業内容の理解を深められたという声があるように、講義時間のみで理解を促進できていることが、予習・復習の必要性を減らしているとも考えられ、今後は自主的な学習に繋がるような課題の内容やタイミングなど検討し、次年度の授業に向けて改善を図っていきたい。

総合政策学部 総合政策学科
野口　博史　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治学概論
授業コード　46D05-001
教員名　野口　博史
教員コード　100473
登録人数　185
回答数　76
回答率　41.1%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

定期試験結果および授業評価から、本講義の目的はおおむね達成できたと考えている。本講義の前回授業評価は2017年におこなわれているが、集計結果は設問７・８・９の平均値が0.2程度低いことをべつにすれば同型性が高い。

自由記述欄の改善すべき点は、とくになしなどをのぞいて16件の指摘があった。従来から長期的課題であり、ここ５年程度はほぼなくなりつつあった早口に対する指摘が１件あり、この傾向が依然として問題となっていることがうかがわれた。

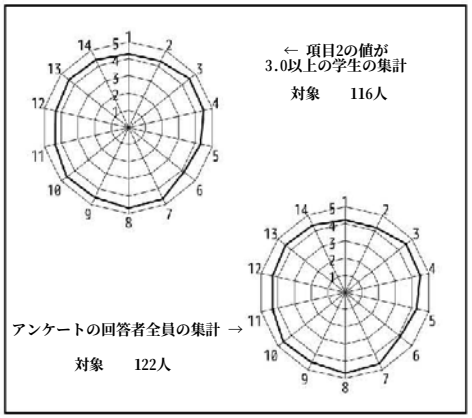
指摘のなかで、最大の８件が、板書についてであり、この点は従来までほとんど指摘がなかったため、考えさせられた。原因は、2020年から21年にかけて、オンライン講義に転換した際、受講生の積極的参加をうながすため、１回の講義で３枚から５枚の手書き資料を画面共有で表示し、そこに要点のまとめや概念図などを示したが、対面授業に戻った際、この方針を板書のかたちで継続したため、その量が従来比で約３倍となり、これが見にくさにつながったと思われる。

授業進行がやや早すぎるなどの指摘も２件あることから、板書量を減少させることが最善策と考えられるが、この方針については、来年度から、試行錯誤のかたちで最善の分量にいたるべく努めたい。

総合政策学部 総合政策学科
小尾　美千代　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際関係論
授業コード	46D06-001
教員名	小尾　美千代
教員コード	102453
登録人数	266
回答数	122
回答率	45.9%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



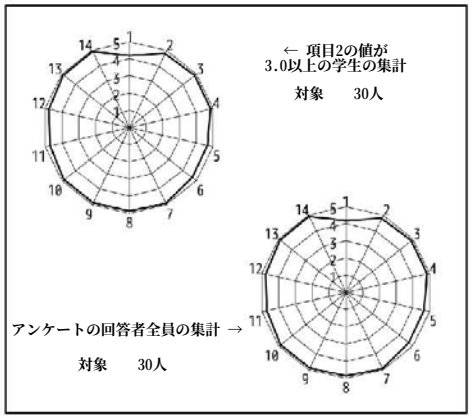
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、（1）国際関係論および国際政治学の基礎的概念や理論を理解していること、(2)国際関係の変遷について理解していること、(3)現代のグローバルな課題を理解していること、の3点を到達目標としました。履修登録者の約85%が単位を修得できたので、上記の到達目標は達成されたものと思われます。
アンケートの回答者は122人で、項目1～14の平均値は4.41（前年度4.17）、3～14の平均値は4.44（同4.22）でしたので、昨年度より0.2ポイント程度高くなりました。自由記述欄からは穴埋め式のレジュメ、動画資料に加えて、外部講師（研究者）による講演も好評でしたので、来年度の授業でも引き続き実施していきたいと思います。一方で、人通りの多い廊下に面した大教室でしたが、廊下に面した入口が受講生の出入りによって開放されてしまうことが多く、やはり騒音が気になった受講生もいたことがわかりましたので、来年度は教室が静粛な環境になるようにより適切に対応したいと思います。また、授業がわかりやすかったというコメントも複数頂きましたが、受講前に国際関係についての知識をあまり持っていない受講生が多いので、より興味関心を引き出せるように授業を工夫していきたいと思います。

総合政策学部 総合政策学科
狭間　諒多朗　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会調査法
授業コード	46E04-001
教員名	狭間　諒多朗
教員コード	104124
登録人数	40
回答数	30
回答率	75.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では「①社会調査の過程を理解する」「②社会調査を正しく評価する能力を習得する」「③統計パッケージを使って簡単な分析ができる」の3つの到達目標を掲げている。①については、社会調査を追体験するというコンセプトで、社会調査の過程に沿って重要な点を解説した。毎回の小課題を見る限り、受講生も各過程の重要事項について理解できていたと思われる。そして、この①の目標を達成することは、②の目標を達成することにつながるため、こちらの目標も達成できたと考えている。③については、まずEXCELを使ったHADという統計パッケージソフトの使い方を説明した。その上で、統計パッケージソフトが出力する多くの数字の中から、適切な数字を選び出し、結果を解釈できることができるようになっていたという手ごたえを感じている。
数値データをみてみると、ほとんどの項目が4点台後半であり、おおむね高い評価となっている。項目番号13の平均値が4.9となっていること、自由回答の「授業の解説がとてもよく分かりやすかった」という回答から、社会調査の様々な知識についてきちんと伝達することができたと考えている。そして項目番号14の平均値も4.9となっていることから、受講生が満足する授業ができたという手ごたえを感じている。
一方、自由回答には「Excelの手順の説明が少し早く、もう少しゆっくり説明していただけた方が、ありがたいです。」というものもあり、特にパソコンを使った授業では、受講生のレベルに応じた説明の速度というものを考えていく必要があると考えている。

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	CAREER PATH ENGLISH2
授業コード	46F08-002
教員名	O'CONNELL, Sean
教員コード	100448
登録人数	6
回答数	2
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

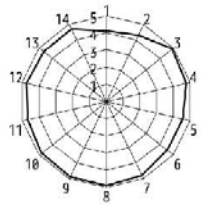
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

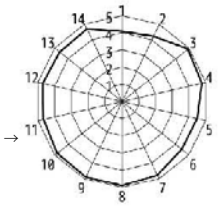
The overall objectives of this class were to give students the opportunity to: (1) learn basic Japanese-English interpreting skills, (2) learn basic Japanese-English translation skills and (3) become more familiar with English skills required for the workplace. A total of six students registered for this course, but only five attended regularly. Unfortunately, only two of the five regular students completed the evaluation which meant that an average evaluation score was unavailable. Saying that, the two students that did provide an evaluation expressed a high level of satisfaction regarding the course content and curriculum design. In terms of course delivery and content, I will continue to provide real-life simulated content so as to prepare students for use of their English skills in the future.

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	労働経済論
授業コード	46K04-001
教員名	水落　正明
教員コード	102745
登録人数	179
回答数	58
回答率	32.4%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計
対象　56人



アンケートの回答者全員の集計 →
対象　58人

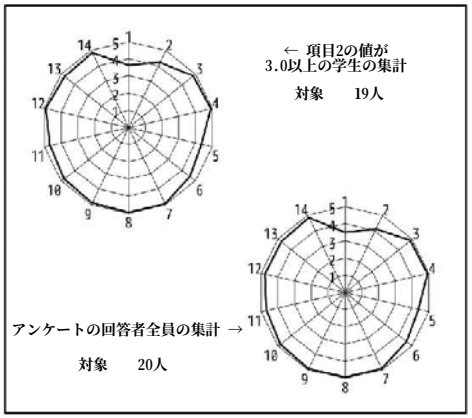
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の目標は、経済学の分析枠組みで労働市場に生じている問題（失業や賃金格差など）を、理論的考察と実際のデータ観察および分析（Excel使用）を通して理解することであった。評価から判断して、概ね授業の目標を達成したと考える。総合的な満足度（設問14）については4.69と、総合政策学科の平均4.59を上回っており、良好な結果であると考える。今年度も、全員がPCを持参してExcelによるデータ分析にも取り組む講義を行った。通常はグラフで読み取るだけであった数値を自身で計算したり、関連する事象のデータを自身で取得して分析してみたりしたことで、学生の興味を引くことができたと推察され、今後ともこうした内容を充実させていきたい。各項目について見ると、総合政策学科で平均値が公表されている14項目において、下回った項目は2つのみで、ほとんどの項目で良好な結果を得ることができた。下回った項目は、設問1履修前に授業の興味を持っていたかと、設問2主体的な授業参加であり、この点については教員側の努力では如何ともし難い部分がある。自由記述の感想を見ると、Excelでの作業を通して自分で考えることで、良い緊張感を持って授業に望めたようである。また、フィードバックについても好評だったようで、今後も継続して行っていきたい。

総合政策学部 総合政策学科
藤本　潔　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	エコシステム論
授業コード	46M01-001
教員名	藤本　潔
教員コード	100100
登録人数	62
回答数	20
回答率	32.3%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



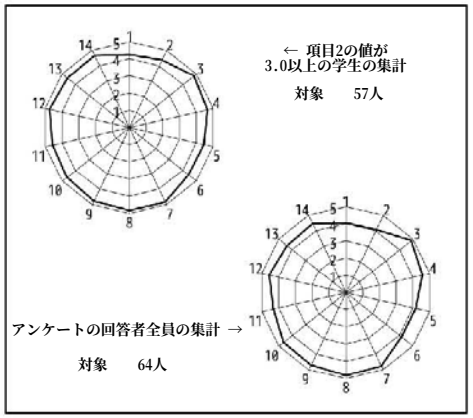
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の授業評価は、2001年度以降、これまで15回行われており、学生の自己評価項目を除く平均値は4.38～4.78といずれも高評価を得てきた。今回も4.77と、これまでの最高値に近い高評価が得られた。自由記載の「この授業の良かった点」も、これまで同様複数の学生が海上の森での学外授業を挙げており、講義を踏まえた上での学外授業の有効性が改めて確認された。主体的学習の有無を問う設問は、当初は2.3台とかなり低かったが、2008年度以降徐々に向上し、2020年には4.45とそれまでの最高値が得られた。ただしこの値はコロナ禍のオンライン授業での値で、コロナ以前の最高値は2019年の4.12であった。今年度は4.10と2019年とほぼ同様の値が得られた。これは、2008年以降は簡単な調査を伴うレポート課題を課していることと、2017年からは授業資料をWebClassやDLサーバに事前掲載し、ダウンロードして予習するように指導してるためと考えられる。また、設問1の履修前の授業内容についての興味が3.5であったのに対し、設問14の授業に対する満足度が4.85と高評価となったことから、本授業の目標は十分に達成できたものと考えられる。

総合政策学部 総合政策学科
澁谷　英樹　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地方財政論
授業コード	46N07-001
教員名	澁谷　英樹
教員コード	151974
登録人数	168
回答数	64
回答率	38.1%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

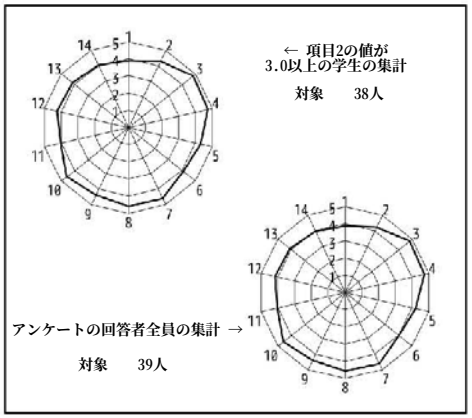
本講義は、当初設定した目標・シラバスの内容に比較してやや進捗が遅かった。これには２つの理由がある。第１に、途中で熱心な学生がMMT（現代貨幣理論）的な発想による政策の可否について質問し、それに私が回答したことによる。第２に、令和６年度の税制改正が明らかとなり、これについての議論を追加したためである。こうした突発的な追加は、決して悪いことではなく、授業評価にも悪い影響はみられなかった。しかし、言うまでもなく講義担当者としてさらに内容を精査し、よりレベルの高い学問を追い求めなければならない。

残された課題として最も留意すべきものは、試験の内容である。現時点では、単位は期末の定期試験によることを前提としている。しかしながら、暗記型教育は常々批判されるところであり、コロナ禍ではレポートもひろく容認された。本講義の試験も、折衷案に落ち着いており学生より「レポートで良いのでは」との疑問が提示されたのは理解できるところである。これについては、私も中途半端であり問題であると考えているが、現状ではレポートが時代に沿う感はあるが現状では原則外であるとしか言い様がなく困っている。

総合政策学部 総合政策学科
前田　洋枝　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政策と市民参加
授業コード	46N12-001
教員名	前田　洋枝
教員コード	102264
登録人数	122
回答数	39
回答率	32.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

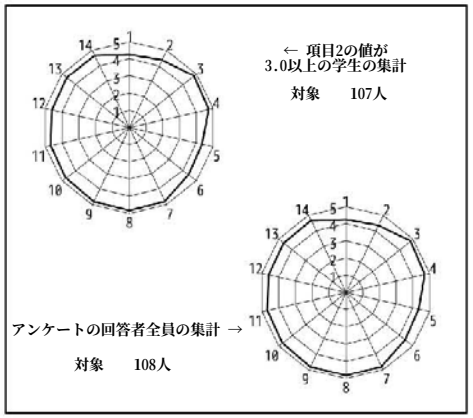
開講当初に設定していた到達目標に多くの学生は達していたと評価できる。項目４の毎回の授業の構成や進行速度の適切さや項目８の授業中の教員の声や音声機器の音の聞き取りやすさ、項目１０の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる行為に対する適切な対処などが５段階評価で４．５を超えており、他の多くの評価項目も５段階評価で４を超えていたことから、学生からの評価は基本的に肯定的であったと言える。自由記述ではレジュメの分かりやすさやゲーミングを取り入れた授業に対する肯定的な評価について、複数の学生から寄せられていた。

コメント課題については、授業内容の理解を深めることができたという声の一方で、フィードバックが十分にできなかったことから、他の学生の回答例などが知りたかったなどの点も改善点として挙げられていた。他の学生の回答例の紹介は、以前の年度では行なっていたので、また、実施できるようにしたい。より双方向の授業にできるように改善をしていきたい。

総合政策学部 総合政策学科
石川　良文　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	都市環境論
授業コード	46N21-001
教員名	石川　良文
教員コード	100650
登録人数	184
回答数	108
回答率	58.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

開講当初設定した目標を達成できており、学生の評価も高かった。アンケートでも設問６「到達目標」の評価が大学全体の平均より1.9ポイント高く4.4であり、本授業での到達目標を達成できたと考えている。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

項目１から１４の平均が4.62、３から14の平均は4.67であり、大学平均と比べても高評価であった。特に設問６「到達目標」，９「理解度の配慮」，１１「学習意欲の引き出し」，１４「全体としての満足度」は平均値を大きく上回っており、多くの学生が授業内容を理解し、意欲的に取り組んだと思われる。全ての設問で大学平均値を上回っているが、設問１２「質問相談の機会」については大学平均と拮抗した評価だった。自由意見でも質問の機会が少ないとあったが、授業の最後に質問の時間を設けており、学生がその時間を活用していなかった。

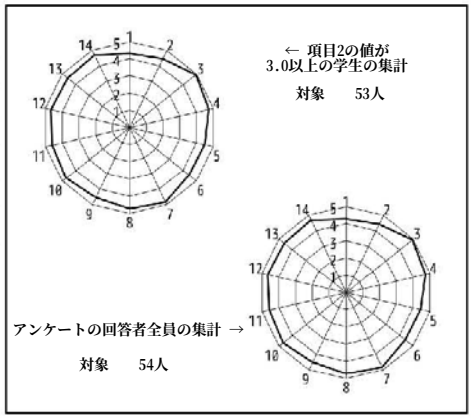
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

例年設問２「予習復習の努力」で評価がやや低かったが今回はその設問含め全ての設問で高評価であった。そのため特段問題があると思われないが、質問をしやすい環境を作っていきたいと思う。

総合政策学部 総合政策学科
POTTER, David M.　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済援助論
授業コード	46N23-001
教員名	POTTER, David M.
教員コード	100098
登録人数	97
回答数	54
回答率	55.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



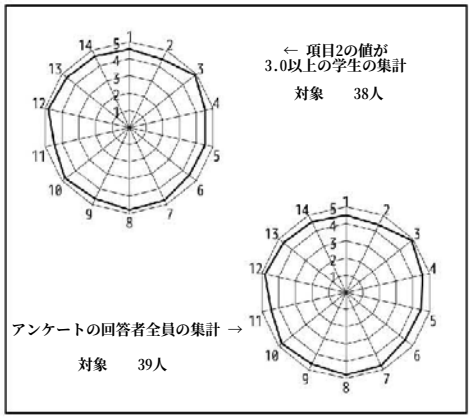
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This is a course on official development assistance (ODA) examined from the perspectives of history, political science, and economics. It is delivered using a lecture format. This year nearly 100 students registered, mostly from the faculty of policy studies but with a noticeable number of students from global liberal studies as well. The larger than usual number of students can be attributed to the fact that this course was not taught in 2022.
The results show that students were satisfied with the course. There were a number of written comments. Comments were generally positive. Suggestions for improvement were varied, with students approving of the use of powerpoints for lectures but with one or two commenting that they would llke them distributed before class. I found no strong patterns in the comments suggesting improvements (i.e. three or more students making the same suggestion).
I will continue to work on providing a clear, understandable curriculum on this topic in future years.

総合政策学部 総合政策学科
山田　哲也　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際機構論
授業コード	46N29-001
教員名	山田　哲也
教員コード	100839
登録人数	116
回答数	39
回答率	33.6%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



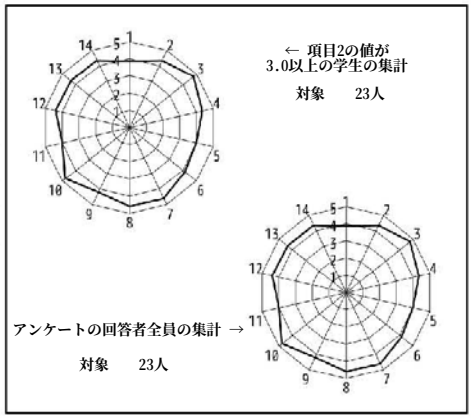
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　教科書を改訂したことにあわせ、レジュメの内容を教科書の補足程度のものに作り替え、内容が重複しないようにした。学生からの質問を積極的に受け付けるようにしたため、当初の想定より進行が遅れ気味となった。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
　いずれも学生は講義内容や授業運営に対して肯定的に評価していると考えられる。教科書の購入を必須としたことについて、特段の不満は見受けられず、やや安堵している。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　パワーポイントの利用を希望する学生がいるので、今後の検討課題としたい。

理工学部 ソフトウェア工学科
吉田　敦　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	計算機アーキテクチャとOS
授業コード	54B01-001
教員名	吉田　敦
教員コード	101920
登録人数	46
回答数	23
回答率	50.0%
休講回数	2　回
補講回数	2　回



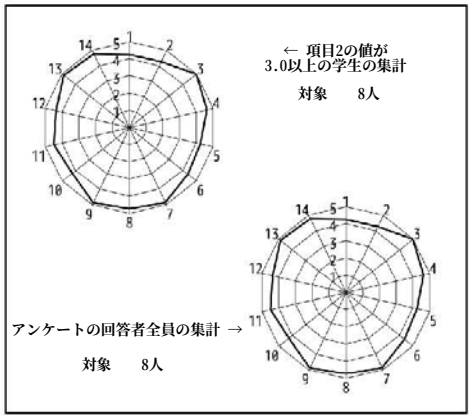
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、昨年度から担当を始め、今年度が2回目である。昨年度の資料を改善しつつ、15回を無事に終えることが目標であり、それは達成できた。特に、昨年度は、プログラミングの課題に対する説明が不足したところがあり、うまくプログラムを書けない学生がいたので、解説を充実させたところ、今年度は円滑に進められた。評価の点数は概ね良いが、11番の意欲を引き出せていたかという質問が 4.0 ではあり、やや低い結果といえる。特に、OS の仕組みなどの説明は実体験のない学生にとっては理解しにくい部分があり、興味を失っていたように思える。もう少しプログラムを動かすなど、実体験と結びけられる工夫が必要である。また、質問1の履修前の興味が3.87 と低かった。この授業の開講コマは土曜日の1、2限に割り当てられており、必修科目ではないことから、興味がある人しか受講しないと思っていたが、教職の資格を取る学生は必修であったことや、また、単位不足等で仕方なく受講している学生がいたことが低い点の原因と考える。自由記述においては、土曜日の開講に対する不満が書かれていた。休日が減り、教える側も疲れるので、土曜日の開講という状況が早く改善されることを願うばかりである。来年度は、先に書いたように、学生が実際に手を動かすことで、理解をうながせる課題や教材を充実させていきたい。

理工学部 データサイエンス学科
松田　眞一　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報を読む1
授業コード	13E07-001
教員名	松田　眞一
教員コード	017566
登録人数	28
回答数	8
回答率	28.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



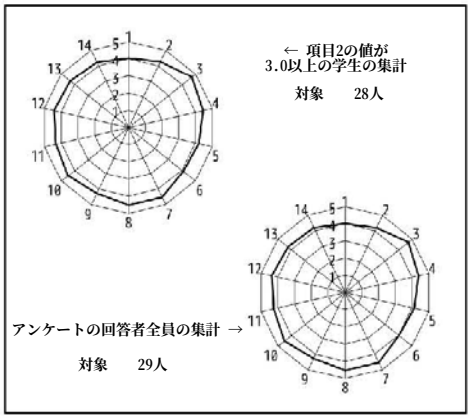
授業評価結果を踏まえた点検・評価

・授業目標
　本授業の目標は身近な情報についてその見方を深め、情報に基づく考察ができる力を培うことである。その目標達成のため、全部で7回のカード実験を伴う演習のレポートを課した。
・目標達成度
　単位を修得した学生はX,Sを除いた受講生27名中26名であり、合格率はほぼ例年通りである。X0名、S1名は例年より少ないためミスマッチは少ないと言える。A+となった学生は6名で例年並みの比率と言える。
・授業評価
　回答率は例年より少ない4割程度であった。アンケートに答える時間を設ける余裕がなかったため、何度か案内はしたものの時間外ではあまり答えてくれなかったようだ。設問3から14において全学平均を下回った項目は3つになり、例年並みだった。差の大きい2つの設問を考察する。
　設問10は登録人数が少なくそれほど問題はなかったはずであるが、対面での実験は久しぶりでその反応が騒がしいと感じたのかもしれない。それは通常の反応なので特に注意はしなかった。設問12は確かに十分ではなかったと思われる。実験の関係で終了はぎりぎりなので終わりには質問しにくいのだろう。もちろん質問があれば対応していたのだが、十分とは思われなかったようだ。
・次年度に向けた改善点
　久しぶりの対面でこちらとしては例年と同じと思っても学生はそう思っていない（慣れていない）面があったようで次年度以降対応を検討したい。

理工学部 データサイエンス学科
鈴木　敦夫　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　OR概論
授業コード　55A07-001
教員名　鈴木　敦夫
教員コード　016469
登録人数　196
回答数　29
回答率　14.8%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



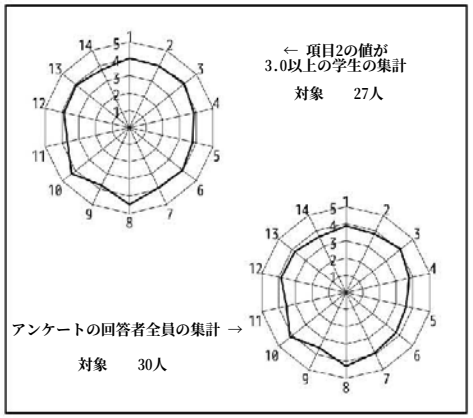
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に目標としていた、オペレーションズ・リサーチの入門科目としての位置づけは、合格者が84%であったので、達成できたと考えている。できれば90%以上の合格者としたかったが、残念ながら試験欠席者が10名ほどあり、それはかなわなかった。試験欠席者を除くと合格率は88%である。
②すべての項目で平均が4以上であり、特に改善すべきところはないように思える。自由記述に白板が暗くて見づらいとの指摘があったので、今後は注意したい。毎回、白板に書くときには、見えるかどうか学生に尋ねているが、それに答えない学生もいることを心にとめたい。
③来年度に向けては、より資格に訴える教材を作成しようと考えている。白板で数式を説明しても、なかなか理解できない学生が多くなってきているので、まずは視覚的に説明をし、そののちに数式で説明するようにしたい。
今回の回答者数は、いままでになく少ない。授業中に時間を取ったにもかかわらず、ほとんどの学生は回答していないことがわかった。これでは、授業評価の価値が下がってしまうので、この仕組み自体を改善する必要があると考えている。講義独自でアンケートを作成することも一つの可能性である。

理工学部 データサイエンス学科
塩濱　敬之　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ビッグデータ概論
授業コード　55A08-001
教員名　塩濱　敬之
教員コード　104524
登録人数　185
回答数　30
回答率　16.2%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

開講当初に設定していた目標と到達の程度は次のように定めた。

1．ビッグデータはどのようなものか知っている。
2．ビッグデータのための統計的手法を知っている。
3．ベイズ統計の概要について知っている。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価について

数値データおよび自由記述から、概ね当初の目的は達成できたと考える。一方で、大教室で講義とPCを使ったデータ解析の説明を、学生の理解度を考慮しながら個々の学生に配慮した授業運営ははなかなか困難なことだと思う。

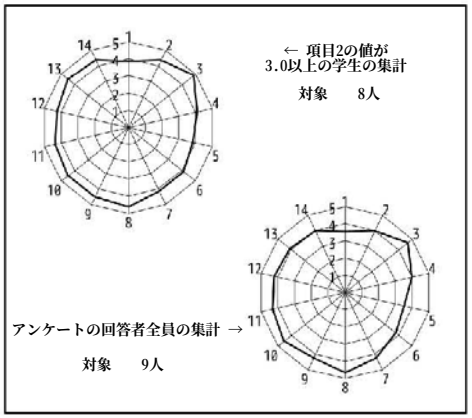
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針について

演習や課題へのフィードバックを充実させ、学生の理解度を毎回チェックするように努めてみたい。とくに，PCを使ったデータ解析の理解のためには、ソフトウェアに対する慣れが必要であるため、演習時間以外にも十分な時間確保が必要になるが、学生がそのような時間を確保するためのモチベーションが不足していると感じる。

理工学部 データサイエンス学科
小藤　俊幸　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　代数系入門
授業コード　55B11-001
教員名　小藤　俊幸
教員コード　101907
登録人数　36
回答数　9
回答率　25.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

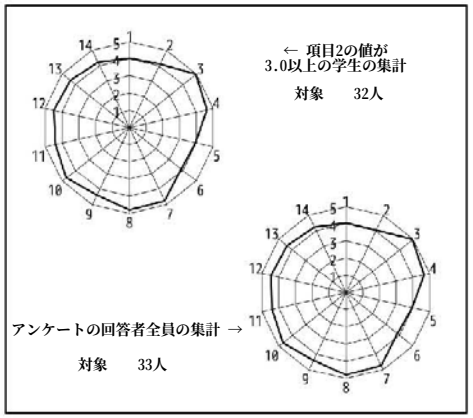
「代数系入門」という科目名であるが、群、環、体といった現代的な抽象代数学の内容は、最後に、定義を紹介する程度で、現代数学の基礎であるカントルの集合論やペアノらに始まる自然数の公理的定義などの説明に多くの時間を割いている。本科目が教職の必修科目であり、中学校や高等学校の教員になるためには、そうした現代数学の素養を身につけることが有益であると考えてのことである。また、応用分野に興味がある学生を念頭に、ユークリッドの互除法やフェルマーの小定理の応用であるRSA暗号の紹介も行っている。

毎時間、授業の終わりに、時間内レポートを課して、授業内容の理解の確認を行っている。レポートは、次の授業時間に寸評をつけて返却している。本年度も、論理や集合など、数学の基礎概念に関する論証の訓練ができていない学生が多かったが、レポートを繰り返すにつれ、いくらかはそうした論証ができるようになった。例年は、履修者の半分近くが不合格となるのに対して、本年度は履修者のほとんどが合格となった。

理工学部 電子情報工学科
藤井　勝之　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報社会の構造2
授業コード　13E06-002
教員名　藤井　勝之
教員コード　101244
登録人数　45
回答数　33
回答率　73.3%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



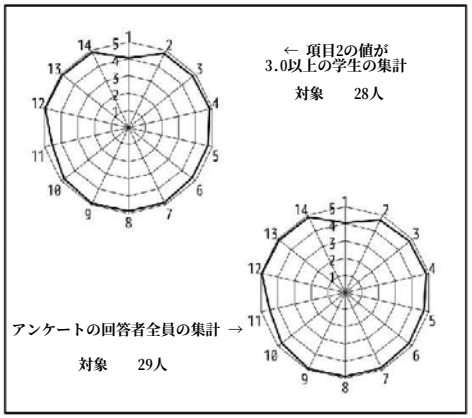
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①今年度は文系28名，理系17名の合計45名が受講した．テーマ科目のため，コンピュータの発展の歴史やコンピュータの内部構造，インターネットを支える基本的な仕組み，ハードウェアとソフトウェア，情報社会の特徴や問題点など，前提知識を有しない者でも理解できる講義を目指した．文系の受講者が62%を占めるなか，アンケート結果を見ると受講生の満足度の高さが伺え，頑張って良かったと思う．
②概ね4点台を取得しており，以下自由記述からもうまくいっていると考えられる．映像教材を使用していたことで、図解等がわかりやすくストーリー性があったため学びやすかった。専門的な理系の授業を文系にも理解できるようにかみ砕いて解説してくれたこと。学生の理解度に合わせて、難しい内容になりすぎないように進めていただけたので助かりました。ただ教材を流すだけでなく適宜解説を入れてくださるので理解が深まった。
③WebClassで毎回リアクションを取り，感想や質問などを受け付け，難易度を調整するなど講義に反映するようにしたので，次年度も続けていきたい．

理工学部 電子情報工学科
桒原　寛明　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報リテラシー
授業コード	14D01-001
教員名	桒原　寛明
教員コード	103522
登録人数	39
回答数	29
回答率	74.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

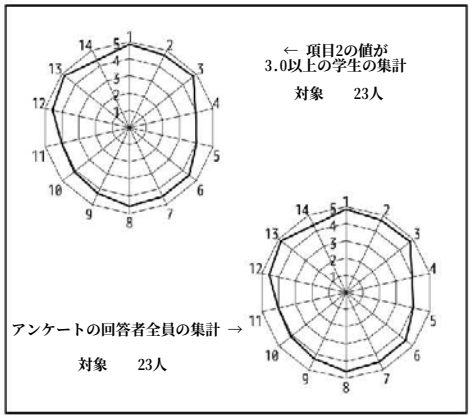
本科目の到達目標は、電子メイルを送受信できる、Wordを用いて文書を作成できる、PowerPointを用いてプレゼンテーション資料を作成できる、Excelを用いて表とグラフの作成や簡単なデータ分析ができる、の4点であった。最終レポートを含むすべての課題を提出し、積極的に授業に取り組んだ受講生については、到達目標をおおよそ達成しているとみなすことができる。文書の作成とプレゼンテーション資料の作成に対しては特に理解を深められたと思われる。この成果を今後のレポート作成やプレゼンテーションに活かすと同時に、身につけた能力を向上させる努力を継続してほしい。

授業では、受講者によって当初の理解度や習熟度、課題に取り組む上での疑問点が異なることが予想されたため、全体に対する説明は最小限として受講生が各自のペースで課題に取り組む時間を可能な限り確保し、疑問点は個別に解説するようにした。大半の受講生は真剣に取り組んでおり、理解を深め各自の能力を伸ばすことができたと思われる。すべて課題の必須課題としたが、多くの受講生にとって適切な分量であったと考えている。ただし、理解度や習熟度の高い受講生を対象とする発展的な内容のオプション課題を準備することは一考の余地がある。授業では、レポートの作成とプレゼンテーションの準備に関して一般的な説明を行い、対応する内容の課題を課してフィードバックも返したが、より効果的なものとするために課題の内容やフィードバックについて継続的な検討が必要である。

理工学部 電子情報工学科
横山　哲郎　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	プログラミング基礎[TC]1
授業コード	50A27-003
教員名	横山　哲郎
教員コード	101934
登録人数	67
回答数	23
回答率	34.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



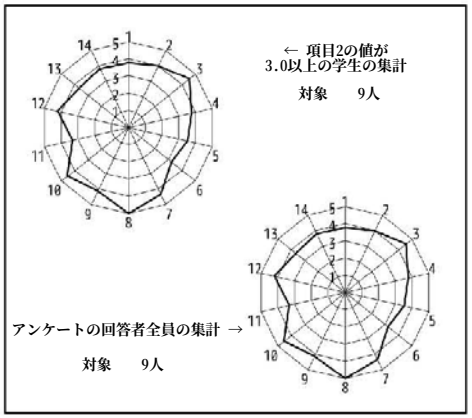
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本科目では、プログラミング言語の構文や意味を理解してプログラムを実際に組み立てられる方法を知ることを目標に含んでいる。合格した全ての受講生が毎週のレポートに回答をしていた。今年度の電子情報工学科の学生は、合格水準に達していない学生が他の学科よりも多く、過去と比較しても大幅に多かった。
②前年度以前と比較する。点数の伸び率が最も高かったのは設問1「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」であり、最も低かったのは設問10「私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる行為に対して、適切な対処がされていましたか。」であった。今年は、遅刻者はやや増えて、授業中にスマートフォンを利用していることを注意した回数はかなり増えた。アンケートには現れていないが、注意されても使用を続ける学生が多くなっていることからスマートフォンの適切な利用を希望していると考えられる。複数クラスで同一の授業を実施しているので全体で良いルールが考えられると良い。授業の進度が早いという指摘は今年もあった。
③本科目はチームティーチングで理工学部4学科共通したシラバスに沿って進行しているので各回の内容を増減させることは難しいが、実習や5限の講義における基本問題の解説や質問対応の時間の比率を増やすなどして一人も取り残されない授業を目指したい。よく質問をする学生は決まっており、質問をよくする学生が成績が良いわけでもないので悩ましい。多くの学生が疑問に思いやすい点を巧くフィードバックする方法が重要である。生成系AIについては担当者間で授業開始前にも検討を行った。今後、生成系AIの存在を前提とし、適切で効果的な利用ができると良いと願っている。単位数に見合った授業外の学修時間は継続課題である。こうした学修を元に授業内容を充実させて専門科目の基礎を一通り学ぶことは可能と思う。

理工学部 電子情報工学科
宮澤　元　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	クラウド基盤と仮想化技術
授業コード	56B07-001
教員名	宮澤　元
教員コード	019422
登録人数	37
回答数	9
回答率	24.3%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

【開講当初に設定していた目標と到達の程度】
　仮想化技術を中心とするクラウドコンピューティング基盤の構築に必要な技術について理解を深めることを目標とした。設問13・14は3点台半ばと悪くはないが、設問21のキーワード設定を失念するというミスがあったとはいえ、設問19～21は2点台となっており、目標が達成できたとは言えない。

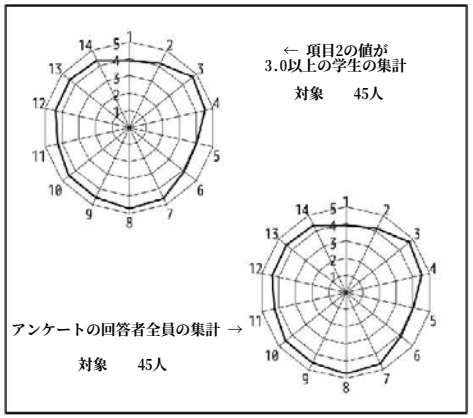
【数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価】
　設問2が4点と比較的高いにも関わらず多くの項目で2点台～3点台の評価となっており、授業運営の工夫が十分ではなかったのだろう。今年度初開講の科目で授業内容の配分の検討が甘く、多くの内容を盛り込み過ぎてしまった。結果として自由記述でも指摘があったように一方的に講義をするだけとなってしまったことが一番の反省点である。一方で、実際のクラウド基盤で利用されている技術に触れることを目的として設定したレポート課題には肯定的な評価があった。

【次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針】
　授業目標を達成するために必要な学習項目を精査して授業内容を整理し直したい。特に、授業時間内に取り組めるような実践的な課題を設定し、単に講義を聞くだけの授業からの脱却を目指す。これによって出席率や授業満足度の向上をはかりたい。

理工学部 機械システム工学科
大石　泰章　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	制御工学基礎
授業コード	57A07-001
教員名	大石　泰章
教員コード	101405
登録人数	144
回答数	45
回答率	31.3%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

○当初の目標と到達の程度
　当初計画していた内容はすべて講義できた．昨年まで自主学習としていた３回分をすべて授業にしたので，進んだ内容を追加したり，問題演習を増やしたりすることができた．

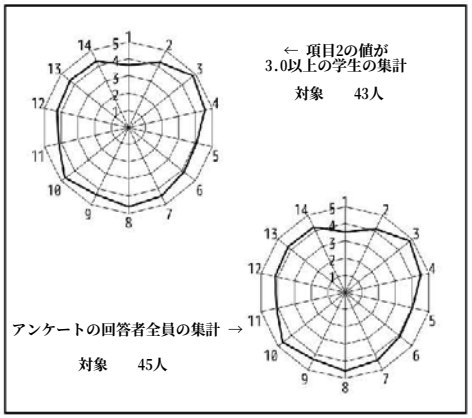
○数値データおよび自由記述をふまえた自己点検・評価
　数値評価は，設問2から設問14まで４点を超えており，数理的な内容の授業としては申し分ないと考える．一方，設問1の評価が低いのは残念である．設置審のしばりが解ける2025年度からはシラバスを工夫したい．
　評価できる点（設問15）には，「例題の詳しい解説があった（５件）」「練習問題を解く時間があった（４件）」「授業スピードが適切（２件）」などとあり，学生のニーズに合った授業ができていると考える．スライドを使うことで授業が早く進み過ぎているのではないかという心配があり，数式の変形などは意識的にホワイトボードを併用して説明したが，１番目のコメントはそれを評価したものと思われる．
　改善すべき点（設問16）には，「例題を増やしてほしい（２件）」「例題を解く時間が多すぎて進度が遅い」と相反する意見があった．万人に評価される授業は難しいが，説明は丁寧に行う一方，進んだ話題も織り交ぜることで対応したい．

○今後の改善点，抱負，方針など
　最後３分の１の部分の例題がやや少ないので，工夫したい．

理工学部 機械システム工学科
本田　晋也　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　HW/SW 協調設計
授業コード　57B07-001
教員名　本田　晋也
教員コード　104254
登録人数　93
回答数　45
回答率　48.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

開講当初に設定していた目標である機械を制御するコンピュータの構成及びソフトウェアシステムについて学ぶ点についてはおおよそ達成できたと考えている.

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※

身についたかという点（項目20/21）が低かったため，来年度は資料と説明の改善を行う.
講義の最初に前回の演習を実施している点についてポジティブな意見があり効果があったと考える.
板書が良くないという意見が1件あったが，他の学生からは同様の意見がなく，板書の時間がとれているという意見もあったため来年度も同じ方法で実施する.

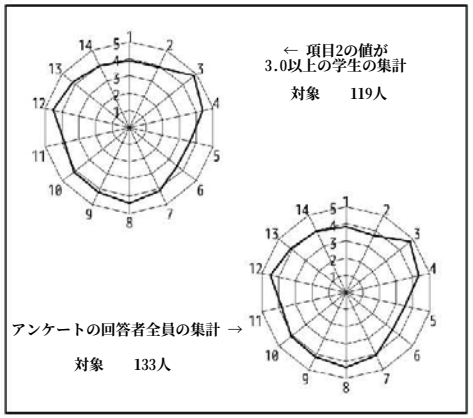
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

1年目の講義ということで，資料に誤字脱字があったため，昨年度に向けては資料を改善する.
板書が早いという意見があったため，来年度は内容を少し減らして進行を遅くする.

国際教養学部 国際教養学科
林　愼将　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ことばとは1
授業コード　13E02-001
教員名　林　愼将
教員コード　104656
登録人数　210
回答数　133
回答率　63.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



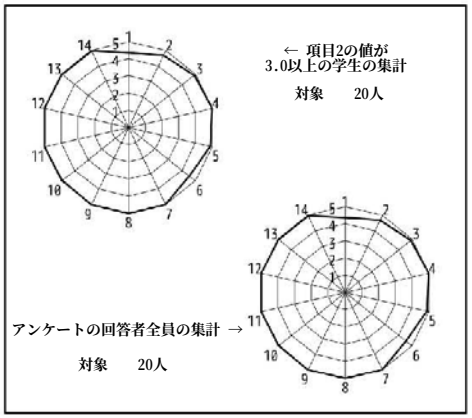
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①に関しては、シラバスにあるように、学生に「考える」場を提供すること、言語に関する様々な事実に対する言語学の考え方を提供することを目標としていた。言語は身近なトピックであるため、必ずしも学問的な裏付けがなされていない流言飛語の類が多くある現状で、テキストの内容を用いて学生の偏見、思い込み等を多少なりとも払拭できたのではないかと感じている。②について、学生からのコメントを紹介し、それに対しての回答から授業を開始することで、講義科目でありながら、演習のような授業を提供することを目指したが、学生にも好評であったため、うまくいったと感じている。数値データに関しても特に低い項目は無かった。項目番号5が他に比べて若干低かったが、これは、様々な言語学の考え方を概論的に紹介する形式で会ったため、コース全体を見た時のまとまりが感じにくかったためであると思われる。③については、やはり抽象的な概念を扱う場合、学生の理解が追い付いていないと思われる部分もあったため、学生の意見をできるだけ吸い上げる授業を提供しながら、分かりやすい説明を求めて生きたい。

国際教養学部 国際教養学科
鹿野　緑　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Topics in GLS A2
授業コード	48A48-002
教員名	鹿野　緑
教員コード	101092
登録人数	25
回答数	20
回答率	80.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①国際教養学科2年次生が「第二言語（英語）で専門分野を学ぶ」入り口の科目である。目標は、英語文献を読み、APAでsecondary research paperを書くことであった。言語・話者・社会が交錯する分野について、学生は興味を持って積極的に取り組んでいたことは嬉しいことであった。そして各自が選んだテーマについて、全員が英語プレゼンテーションと短い英語ペーパーをある程度の形に仕上げることができた。しかし、英語文献を理解する基礎的な読解力がやや不足しており、（翻訳ソフトに頼らずに）自力で読み込む力をつけることが、今後の課題であろう。特に「英語力」＝「スピーキング」と信じる学習者には、「リテラシー」を鍛える機会があまりないのではないか。

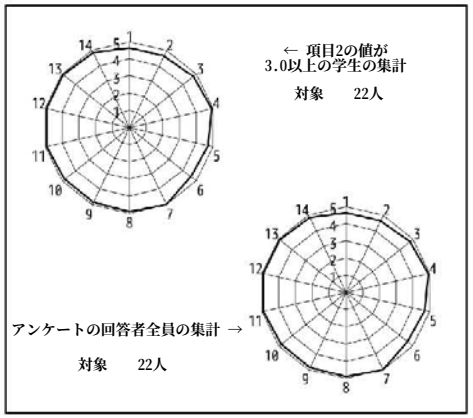
②評価平均は項目1-14が4.88、3-14が4.93であった。項目1の「履修前に興味を持っていたか」が4.35でありそれほど高くなかったが、履修してみて興味が湧いたようで、最終的な数字には学生自身の真摯な取り組みが反映されたのだろう。自由記述には「詳しくわかりやすい」「非常に面白い授業」「提案」「真摯」「質問に答える」などの言葉がならんでいたのはよかった。

③前後の科目との連携は継続的に検討が必要であろう。

国際教養学部 国際教養学科
DEACON, Bradley　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Topics in GLS B1
授業コード	48A49-001
教員名	DEACON, Bradley
教員コード	046920
登録人数	25
回答数	22
回答率	88.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

It was rewarding to teaching this group and to notice how much they perceived the course to be valuable in their academic experience.

The students were challenged to interact online with Thai students, which required considerable effort to set-up and manage. This experience helped the students to gain a firsthand opportunity to develop their intercultural competence and we then used several readings to from an academic text to deepen their intercultural knowledge, skills, and attitudes.

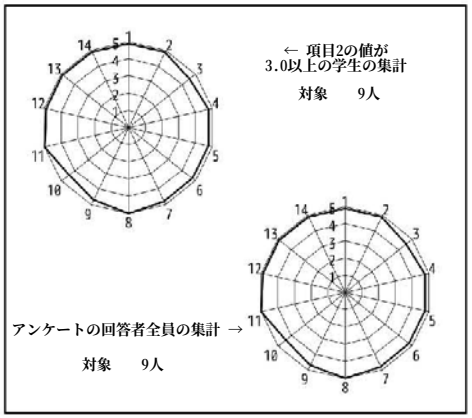
Students played an active role in class by interacting with the Thai students and with one another during discussions and presentations. They also were challenged to write a Discussion Paper, which focused on a self-chosen theme designed to deepen their academic learning in the area of intercultural competence.

Student comments and feedback on the quantitative assessment clearly demonstrate that this course offered students a valuable opportunity to develop their English and intercultural ability in ways that are not normally given in university education in Japan. It was especially gratifying to notice that the students found several merit-worthy points in this course for their future.

国際教養学部 国際教養学科
林　徳仁　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　Topics in GLS B2
授業コード　48A49-002
教員名　林　徳仁
教員コード　104615
登録人数　25
回答数　9
回答率　36.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



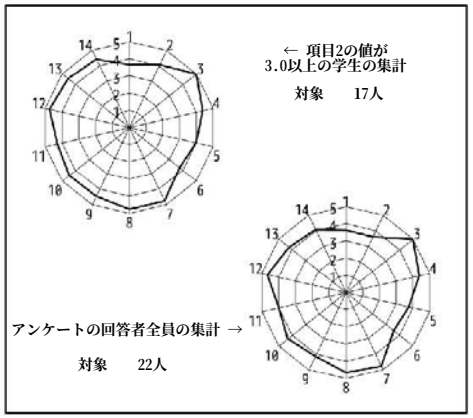
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 本授業は、人の国際移動という国際社会学の一領域を英語文献から理解するための基礎を身につけることを目的として開講されている。毎回の授業では、人のダイナミックな移動がもたらす社会的影響に関連した専門書や論文を読み、グループディスカッションを行った。リスポンスペーパーと期末レポートから判断すると、授業が終わる頃には、多くの受講生が人の移動に関する国際的なものの見方について理解し、地域住民としての移民が抱える課題に関心を持つようになっていたことが明らかになったため、開講当初に設定した目標に到達したと考えられる。
② 受講生は、この到達目標を理解した上で(4.78)、主体的に授業に参加し(4.89)、多数の受講生がこの授業を通して、新しい知識を得ることができたと実感していた(4.89)。全体としての授業の満足度が4.89の評価を得ていることから、英語文献を通じて専門知識を学習する授業としては、一定の成果が出たものと考えている。しかし、データの回収率が全受講生中約36%と、やや低い値であったことは、これから改善して行かなくてはならないと考えている 。
③ 英語の資料を主に使用した授業であったため、学生同志の議論の方向性や共通認識をすり合わせるための工夫が必要だった。次年度は日本語訳を適切に入れるなど、履修生の反応などを見つつ検討し、授業構成と運営について改善を図っていきたい。

国際教養学部 国際教養学科
永井　英治　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　歴史学A / History A
授業コード　48C24-001
教員名　永井　英治
教員コード　018861
登録人数　35
回答数　22
回答率　62.9%
休講回数　6 回
補講回数　6 回



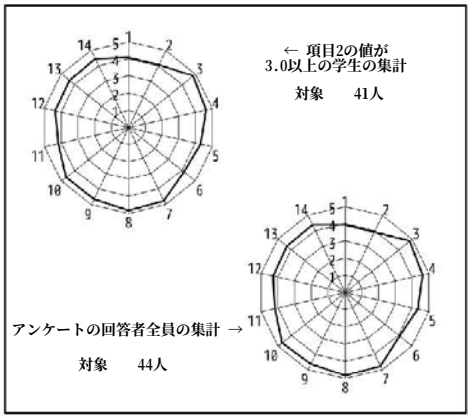
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度のこの授業では、日本の歴史を論理的に理解すること、そして、そのことを通じて諸事象を歴史的に理解することの有効性を理解することを目的とした。この場合、論理的とは、事象の原型が変化するときに影響を及ぼす諸要因を構造的に設定して理解することを意味する。筆記試験の結果による限り、はじめの目標はかなり果たされたと考える。学生は日本の歴史について、固有名詞の羅列ではなく、意識しないまでも概念を用いて説明されることを修得したと見ることができる。しかし、もうひとつの目標については、まだ途上にあると判断される。筆記試験においては、この点はまず論述の対象を選ぶことから始まるのであり、かなり注意喚起したはずであったが、論述に適した対象を設定できた答案は残念ながら少なかった。歴史的な理解の有効性を日本史に即してなら理解できるということは、まだ、獲得したはずの方法が十分ではないことを意味する。今後、もう少しこの目的を継続したいので、端々に現代的なtopicsを積極的に織り込む工夫を凝らしたい。
配付資料はかなり詳細に作っており、個別の記述評価では好意的な評価も見られたが、図表を用いるなどvisualな要素を求める声が複数あった。一方でホワイトボードの利用は評価されていたので、配付資料とホワイトボードとが相俟って授業を補助するという方法を続けていきたい。

国際教養学部 国際教養学科
南　祐三　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	グローバル化とメディア/ Globalization and Media
授業コード	48D03-001
教員名	南　祐三
教員コード	104786
登録人数	101
回答数	44
回答率	43.6%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



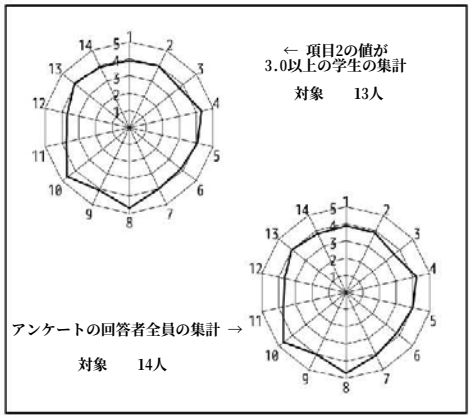
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①私の専門であるフランス史を題材として、メディアの根幹にある「表現の自由」という概念の獲得と社会におけるその運用の歴史を理解してもらうことを目標とした。アンケートを見る限り、履修生たちは概ねこちらが意図したとおりに授業の内容を理解してくれたように思う。レポートでは、特に近現代における戦争の実態を考えるうえでいかにメディアの問題が重要であるかを考察した内容のものが多く、満足のいくレベルで目標は到達されていると感じた。
②授業はパワーポイントを利用したが、毎回かなり細かくスライドを作って臨んだ。その甲斐あって、丁寧なスライドの内容への高評価が多くみられたことは大変喜ばしい。他方、情報量が多すぎるという指摘もあり、フランス史ないし西洋史に慣れ親しんでいない履修生にとっては難易度が高すぎたかもしれない。初めて担当する科目ということもあり、そのあたりの調整が難しかった。教材として用いた映画作品も好評であり、次年度も利用したい。
③まず授業の内容に関して。当初は戦後におけるメディアの問題もなるべく扱う予定であったが、実際には時間不足でそれができなかった。メディアの情報より歴史の話のほうが多い時もあったというアンケートの指摘もあり、この点は改善の余地があると思われる。現代メディアの諸問題を理解するためには歴史的な分析が欠かせないが、とはいえ、グローバル世界との関連を強く意識してより現在的なメディアを取り巻く状況に言及すべきと感じた。来年度以降はそうしたことにも取り組みたい。次に授業の運営について。声量や説明のスピードなどについて高い評価を得たので、それらについては継続したい。

国際教養学部 国際教養学科
安原　毅　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	グローバル化と開発経済 / Globalization and Development Economics
授業コード	48E04-001
教員名	安原　毅
教員コード	017905
登録人数	54
回答数	14
回答率	25.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



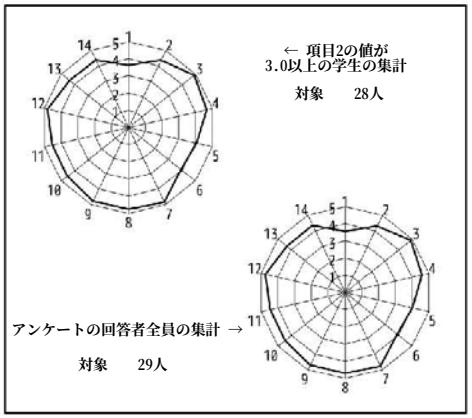
授業評価結果を踏まえた点検・評価

48E04-001　　グローバル化と開発
ほぼすべての項目の解答が4.0前後で設問8と10が高いという結果から、授業前に設定した目標はやや不十分ながらもそこそこ達成できたことを示すと考える。この授業は開発経済学の理論に関する講義が多くなるので学生にはややとっつきにくいだろうと考え、2回に1回の割合で授業内容を復習するためのレポートを課した。回収率は毎回50%を下回る程度だったが真剣に取り組んでくれた学生からは理解が深まったと好意的な回答があった。またWordファイルやPDFをスライドに写そうとしたが途中から機械が調子悪くなり、学生はかえって見づらかったようだ。授業内容をレジュメにして配布してほしいという声もあったので、次回からはどう対応するのが良いか考えたい。ただし教室の規模に比べてスクリーンが明らかに小さく、後部座席の学生はほとんど字が読めていなかったようだ。登録者数は54人だったが毎回出席していたのはほぼ30名程度だから、回答数14という回収率はそこそこ許容範囲内と考える。

国際教養学部 国際教養学科
森山　幹弘　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics: Global Studies B (Cultural Studies)<国際科目群>
授業コード	48E07-901
教員名	森山　幹弘
教員コード	100090
登録人数	47
回答数	29
回答率	61.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



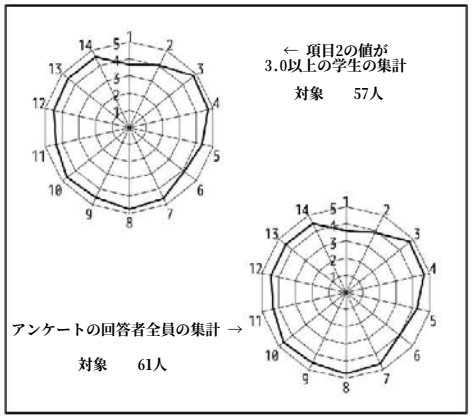
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
初回の授業でシラバスを参照しながら、本科目について、目標を説明したにもかかわらず、受講者の評価は「この授業の到達目標を理解できましたか」の設問項目は全ての項目の中で2番目に低い数値であった。そこから見直さなければならないのは、教える側は説明を十分にしたつもりでいても、それが受講者には伝わっていなかったと言うことである。次年度において、また他の科目についても、教員の視点からの説明ではなく、受け手である受講者の視点で丁寧に到達目標を説明することとしたい。さらに設問の「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」が、最も低い数値となっていた。この結果は上記の設問での到達目標がはっきりしていなければ、当然の結果と言える。つまりは、この点についての反省が必要ということに尽きる。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
自由記述を含めて点検・評価を行うと、上記の2点の設問項目では数値が低いものの、全体としては数値データは概ね平均値を越えていることから、総合的には合格点であったということができる。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
上記①の観点を改善点として今後の授業の運営を行なっていきたい。一方、評価された点、アクティブ・ラーニングの時間に学生のグループを回って補足説明をすることにより理解を助け、深めることは今後も継続して行なっていきたい。

国際教養学部 国際教養学科
塩寺　さとみ　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	サステイナビリティと生態系 / Sustainability and Ecosystem
授業コード	48G02-001
教員名	塩寺　さとみ
教員コード	104489
登録人数	145
回答数	61
回答率	42.1%
休講回数	1　回
補講回数	1　回



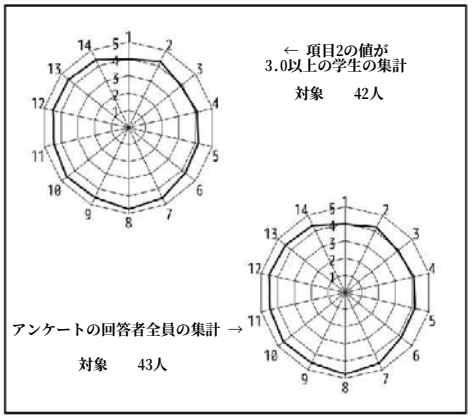
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は生態系のしくみと持続可能性の理解を目的としており、到達目標は以下の4点である。
1．生物と環境とのかかわりや生態系を形作っている様々な要因について説明できる。
2．人間活動による生態系への影響、および生態系が人間社会に与える影響について理解し、具体例を列挙することができる。
3．生態系のしくみと持続的利用に関する様々な資料を読んで内容を理解し、その背景について説明することができる。
4．授業内容について自主学習によって自ら理解を含め、レポートを作成できる。
本授業評価において、到達目標の理解（設問5）は4~5評価が97%台、到達目標の達成（設問6）は93%台であった。本学の学生のほとんどは、高等学校において基礎生物しか学んでいないため、かみ砕いて説明するなど授業内容にある程度の工夫が必要となる。今回の結果から、多くの学生が本授業の内容に興味を覚え、しっかりと理解できたことがうかがえる。また、本講義では毎回、講義内容に関するニュースを紹介したり、リアクションペーパーで受け取ったすべての質問に回答する、という取り組みを行っているが、設問15の回答内容から、これが学生の授業に対するモチベーションを高めるのに功を奏していることが分かる。本授業においては、毎回、最後にグループディスカッションの時間を設け、授業内容の復習や応用的な問いに関する議論を行っている。グループディスカッションは好評である一方、授業を欠席する学生が一定数いるために出席者から不満も出ている。今後は出欠確認を行うなどの対策を検討中である。

国際教養学部 国際教養学科
平岩　恵里子　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	サステイナビリティと国際経済 / Sustainability and International Economics
授業コード	48G06-001
教員名	平岩　恵里子
教員コード	100953
登録人数	58
回答数	43
回答率	74.1%
休講回数	0 回
補講回数	2 回



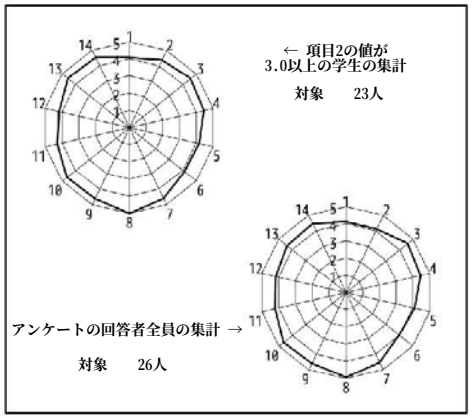
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　講義形式ではなく、演習的な、むしろプロジェクトベースで学生が自分で学び、研究トピックを見つけて学ぶ仕組みにしたいと考えていた。　メンバーをランダムに選んだグループ作業を中心とした。また、もう一つ新しく試みたことは、チームビルディング・研究・発表、それぞれにルーブリックを提示し、自己評価をさせたこと。到達の程度は、半々で、効果的な点とそうでなかった点が入り混じった結果となった。
②　数値が所属学部の平均値「＋－」0.1を超えた項目について自己点検する。「＋」項目は、項目２（常にグループ発表を課したからか）、項目６（自分達で研究トピックを設定→研究→発表、を2回経験したからか）。「－」項目は、項目３（自由記述でも指摘された）、項目４（項目３と同じ理由か）、項目７（これは残念。ただ自由記述には肯定的な評価もあったため、学生が着目する視点による差かもしれない）、項目14（これも残念だった、反省する点）。
③　－項目、特に項目14は、最終講義を補講にしたことによるものだったかもしれない点は、今後の反省点。また、グループによる研究作業と発表の時間マネジメントに課題もあった。何よりグループが10名という多さが学生のチームビルディングを困難にさせたことは今後の課題。また、学生主体による発表や議論をコントロールする場合のマネジメントにも課題が残った。
　以上、いずれにしても、今回はかなり挑戦的な運営を試み、良かった点もある一方で評価が低かった点も多かったことは、今後に生かせる。特に時間マネジメントと学生への説明責任は今後の新しい課題。ただ、学生は真摯にこの運営方法を理解し協力をしてくれたこと、チームビルディングが困難だったにも関わらず、とてもよく頑張ってくれた。感謝したい。

法務研究科 法務専攻（専門職学位課程）
榎本　雅記　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	刑事訴訟法B
授業コード	44B10-001
教員名	榎本　雅記
教員コード	103094
登録人数	63
回答数	26
回答率	41.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



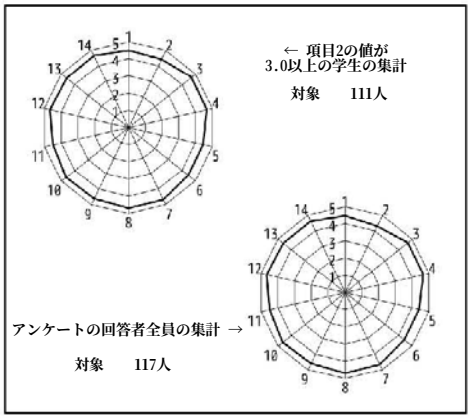
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標は、概ね達成できたと考えている。今期は、本授業の配当年次が変更となったことから、例年に比べ受講者数が少なかったため、授業環境も概して良かったように思う。②法学部開講科目の平均値と比較すると、ほとんどの項目で平均値と遜色がなかった点は良かったが、質問や相談の機会の確保に関する設問12の数値が平均値よりかなり低かったのは反省材料である。授業後に自由に質問してくれれば良いと思っていたが、それが受講者に伝わっていなかったものと思われる。また自由記述に、ホワイトボードが見えにくいとの指摘があった点も注意が必要である。③質問や相談の機会の確保について、次学期以降、受講生に授業後等に質問することができることを周知するとともに、WebClassのメールを通じての質問も可能とすることも検討したい。ホワイトボードが見えにくいとの件は、すぐに改善できることなので、次学期以降すぐに対応したい。

法務研究科 法務専攻（専門職学位課程）
末道　康之　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	刑法各論B
授業コード	44B91-001
教員名	末道　康之
教員コード	100587
登録人数	266
回答数	117
回答率	44.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



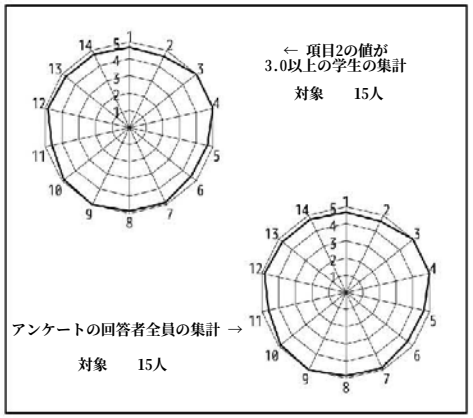
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた到達目標については概ね実現できたと考えている。
②項目1から14の平均値は4.57であり、全体満足度は4.62であった。平均して９割以上の評価を受けていることから、履修者の多くが満足できる授業が実施できたのではないかと考えている。また、自由記述においても、授業が分かりやすかった、配布したレジュメが分かりやすく授業を理解するうえで役立った等という意見が多く、この点からも、学生にとっても授業の充実度が高いという評価をすることが可能であろう。例年、刑法各論B講義案を配付し、それに基づいて授業を実施しているが、例年以上にこのシステムが評価されたように思われる。コロナ渦を経て講義資料のデジタル化を推進するため、今年度はPDFファイルをwebクラスを通して全員に配付する形式をとったが、必要に応じて講義案の改訂版を配付することも簡単にできるので、学生にとっては使い勝手が良かったのではないかと考える。ただ、紙媒体での配付を希望する意見もごく少数あった。紙媒体での配付については慎重に検討したい。
③来年度についても、これまでと同様の形式で授業を実施する予定である。講義案の内容については、毎年、最新の判例や学説を踏まえて改訂しており、学生が授業を理解しやすいように工夫し改善することは続けるつもりである。

教職センター 教職センター
大塚　弥生　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	学校教育心理学3
授業コード	15A05-003
教員名	大塚　弥生
教員コード	000065
登録人数	37
回答数	15
回答率	40.5%
休講回数	1　回
補講回数	1　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

質問項目⑯（本授業の到達目標に向かって力がついてきているか）の平均値が4.60、質問項目⑬（新しい知識の獲得と理解の深まり）の平均値が4.73、質問項目⑭（授業全体の満足度）の平均値が4.73であったことから、本講義の目標は達成されたと言える。他の質問項目についても平均値はすべて4.60以上であり、アンケートに回答した学生は学修目標を理解し、到達したものと考える。

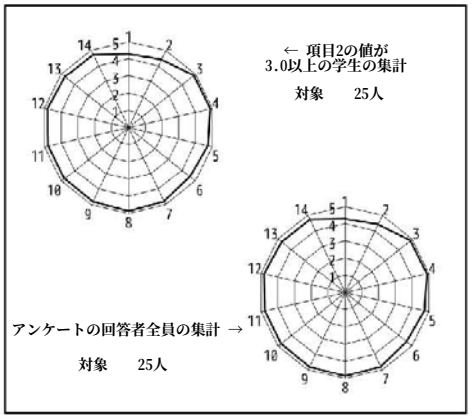
本講義では、毎回グループディスカッションを行い、教科書だけでなく映像資料を多用した。自由記述では、グループディスカッションや映像があったことが有用であったとの意見が寄せられており、これは今後の授業でも続けていきたいと考えている。またレポート課題を2つ出したが、自分自身と授業の内容とを結び付けて書くことでより理解が深まったという意見もあり、このようなレポートを課すことも続けていきたいと考える。

今後の課題としては、さらに学習意欲を引き出すところにあると考える。グループディスカッションだけでなく、授業内容に応じたワークを工夫し、提供していきたい。

教職センター 教職センター
宇田　光　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	教育の方法・技術論3
授業コード	15A09-003
教員名	宇田　光
教員コード	100494
登録人数	40
回答数	25
回答率	62.5%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

教職課程の必修科目で、回答者数は25名。講義のほか、一部にICT活用の演習を入れている。項目３から14の平均値は4.79である。4.66～4.88の範囲であり、大きな落ち込み部分はない。全体としては、まずまず満足であるという回答を得た。

当日ブリーフレポート方式（BRD)を多用しており、実際この点についての言及が多かった。個別の自由記述では、「良かった点」として、「ブリーフレポートのおかげで講義内容を自分で振り返りながらまとめることができた」「当日ブリーフレポート方式が良かった。授業に集中しやすく、やる気も出る」などがあった。

この他には、「グループワークの時間が設けられていた」など。また、介護等体験（教育実習も）で休んだ人への配慮（動画の提供）があったとの回答がみられた（括弧内は宇田による補足）。なお、改善を要する点、教室環境に関する点は記述がなかった。

本科目は次年度からあらたに、「教育方法論（ICT活用を含む）」として生まれ変わる。「ICT活用」の部分を1単位分として充実させる予定であり、特に「ロイロノート」活用の演習が、授業設計上の新たな課題となる。　以上

国際センター 国際センター
佐藤　幸代　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際産官学連携PBL D
授業コード	14F04-001
教員名	佐藤　幸代
教員コード	102850
登録人数	15
回答数	.
回答率	
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

・米国の学生と毎週１回、日本時間の夜間または朝早くにオンラインで集まって議論し、その進捗をgoogle documentで蓄積しながら、課題解決に取り組むことができた。中間発表の時にその時点で企業からアドバイスをもらうことで、客観性と実現性を高めて最終プレゼンに臨み、企業から高い評価をいただくことができた。事前に設定していた授業の目標に対しての到達度は95%である。残りの５%は、全ての学生が「独創的」といえるほどのアイデアまでたどり着くことができなかったからである。

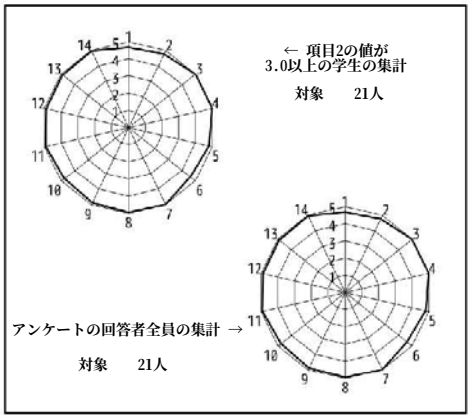
・履修した学生からは、「履修期間中、お風呂の時も歩いている時も、この課題のことを日常生活の中でずっと考えてきた。」など、密度の濃い時間を過ごしたとの声が全員から聞かれた。一方で、「この授業が１単位なのはオカシイ」というコメントもあり、時差のある国の学生と議論し、短期間で根拠データをそろえて具体的な提案をするには、厳しい授業であったことが推察される。

・これをふまえ来年度は、①日米の学生が同時に接続できる日程を予め設定し、前後の早朝夜間の負担を削減する、②課題の範囲をもう少し限定して取り組みやすくする、③日米双方の学生が円滑に議論を進められるよう、プロジェクトに入る前にチームビルディングの機会を設ける、ことをCOILの相手校の教員と協議した。

外国語教育センター 外国語教育センター
MAYORAL MUNOZ, Miguel Angel 先生

2023年度Q３ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語VII＜全＞2
授業コード 11D07-006
教員名 MAYORAL MUNOZ, Miguel Angel
教員コード 104658
登録人数 29
回答数 21
回答率 72.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



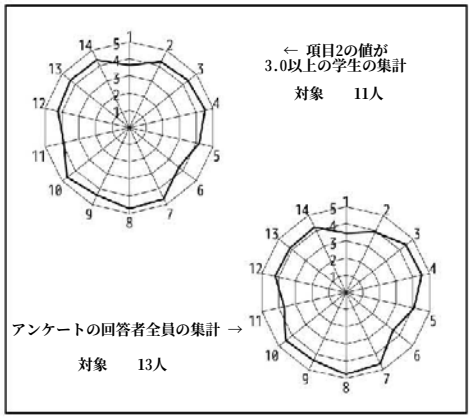
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The aim of the course is set in terms of covering the subjunctive in Spanish, a part of the grammar that is without doubts the most difficult part of the Spanish grammar. I tried to explain it in the way native speakers think when we speak , more than teaching grammar rules that make any sense for the student or , in the best scenario, they make sense but the student wont be able to recall them in speaking situations at all. I think students have learnt a big amount of subjunctive this way, which will help them to fully study Spanish in the future if they wish so.
I´m happy the students rated vey well and also reported good written comments about the lesson.
I´ve learnt more about the way I can improve my lessons while teaching this course, since I knew the students from last year and this contributed to have a relaxed and communicative atmosphere in class. I got constant feedback from students about what they understood easily, what they didn´t and needed more explanations or about which examples were useful and which ones where confuse to put some examples.
I´m looking forward to teaching the same course next year, when I trully think I will be able to improve more and more.

外国語教育センター 外国語教育センター
中田 晶子 先生

2023年度Q３ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本との出会い4
授業コード 13B01-004
教員名 中田 晶子
教員コード 055624
登録人数 29
回答数 13
回答率 44.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

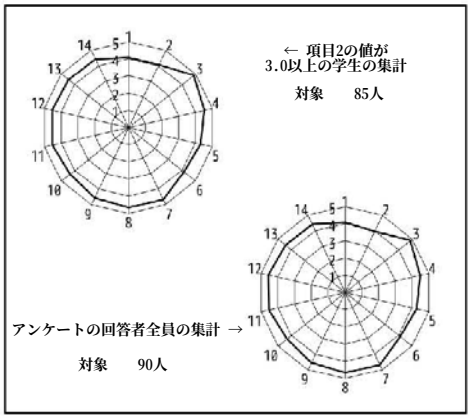
この科目は全学向け学際講義科目で、受講者には、明治初期から現在までの期間に様々な立場で日本を訪れたあるいは日本に定住した5人の西洋人のテクストを読み、描かれた日本と現在の日本との差異や類似を考察し、筆者の日本に対する評価や心情を推察し、その客観性・主観性について判断することが求められる。

①開講当初に設定していた4つの目標は、最終レポートを提出した23名のうち86%に関しては、ほぼ到達できたと考えられる。一方、学生の自己評価では項目6（到達目標の達成）が3.54で全項目中2番目に低い評価となった。項目5（到達目標の理解）は4.08だが、実際よりも目標の難度を高く考えていた可能性がある。②項目 1から 14の平均が4.18、 3から 14の平均が4.26で、 太きな問題はない数値となった。項目 1 (授業への興味)が3.46で登録時には 授業内容にさほどの興味がなかった学生が多かったようであるが、項目13 (知識・理解の深まり)が4.15、項目14（授業の満足度）が4.23、それなりに履修の意義を感じている数値となっている。自由記述では、近代から現代までの日本に対する西洋人の見方やこれまで知らなかった昔の日本の姿が学べたこと、担当者の講義が興味深かったことが肯定的評価であった。否定的評価としては、講義中心の授業が単調に感じられた、スライドの数が少ないため講義の把握が時に困難であった、があった。③スライドにあげられた講義のポイントを書き写す以外にノートを取らない学生が多いと感じたこともあり、スライド作成を工夫する予定である。スライドや講義の「文体」も現代風に変える時期であるのかもしれない。項目11 (意欲を引き出す工夫・自主的な学習の指導)3.69に対して項目 12 (質問や相談の機会)が4.23で、担当者にとってはひとつながりの内容であるが、学生の意識では異なっているようである。次年度からは、参考文献や視覚資料の紹介、リアクションペーパーへの回答・コメント等も自主的な学習への指導であることを伝えたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
六川　雅彦　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語教育入門
授業コード	24C05-001
教員名	六川　雅彦
教員コード	101221
登録人数	215
回答数	90
回答率	41.9%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年は対面授業に戻ってから2回目の開講となった。今回は過去最高の受講者で、昨年度の開講から約2倍となり、多くの受講者に対応するために試行錯誤しながらの開講となった。結果としては、昨年度とほぼ同程度の評価となり、全体としては成功だったと考えている。また、数値データおよび自由記述等から開講当初に設定していた目標が達成できたと判断している。

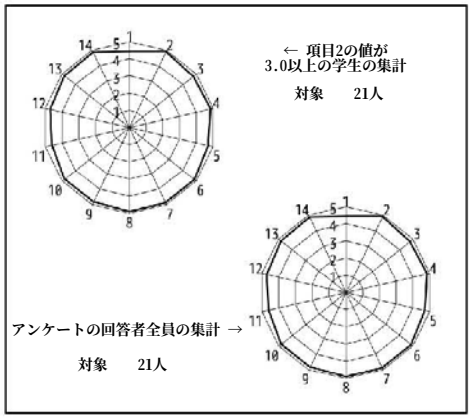
ただ、設問10の「私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる行為に対して、適切な対処がされていましたか。」だけは評価が下がり、対応しきれていない面もあったと判断している。しかし、自由記述のコメントでは、私の学生への接し方や説明の仕方に対する好意的なものが大半だった。特に約4割の回答者から自由記述で好意的なコメントが得られたことには満足している。

最後に、比率としては前回までと大きく変わらないが、今回も回答者が少ないのが少し気になった。授業時間をとって回答してもらっての結果であり、これ以上どうすればいいのか分からないが、次回以降回答率も改善できればと考えている。

体育教育センター 体育教育センター
笹川　慶　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(個人スポーツ)フライングディスク
授業コード	14E01-003
教員名	笹川　慶
教員コード	103190
登録人数	27
回答数	21
回答率	77.8%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①項目番号６の平均値が4.86ポイントという高い値を示したことから、おおよその学生を到達目標付近まで引き上げられたと考えられる。

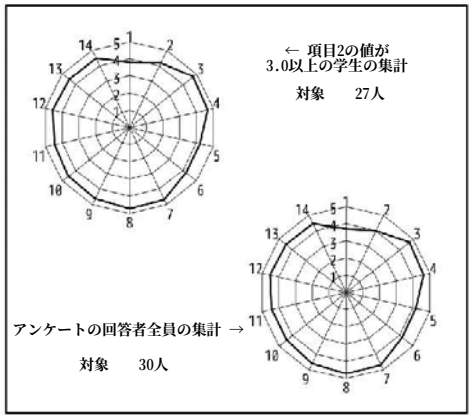
②項目３から14までの平均値が4.80ポイントと高い値を示した。本授業は適切に行われ、かつ学生にとって心身の健康・他者との関わり・身体を通した学び等の観点から有意義な時間になったのではないかと評価できる。また、今回の授業では自由記述をしてくれた学生が多く、その内容は【大学最後の授業は最高でした】【未経験でもアルティメットを楽しめるまで上達できた】【先生の指導が適切ですぐに上達できて楽しめた】【男女の体力差を考慮して授業を行っていた】などの前向きな感想・自分自身の成長を実感できたという感想が多く、素直に嬉しく思った。

③項目番号１１の平均値は4.62ポイントと授業評価項目の中で最も低い値を示した。次回は、より学生の学習意欲を引き出せるよう、提供する情報の種類・情報の提供の仕方・提供する情報の量などを精査し改善につなげていきたい。

人文学部 人類文化学科
佐藤　久美　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地誌概説
授業コード	22C07-001
教員名	佐藤　久美
教員コード	102924
登録人数	113
回答数	30
回答率	26.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①到達目標は次のように設定した。
1．多文化コミュニケーションのできる能力とリテラシーが身についている。
2．諸外国と日本との関係性を理解している。
アンケートの結果からは、受講生は授業内容から教員が求めていた目標に到達してくれたと考える。

② 項目1から14の平均 4.41 、項目3から14の平均 4.51　であった。項目１及び２についての評価が比較的低かった（それぞれ3.70，3.97)ことを見ると、受講前の興味は低かったと考えられる。また、講義前の予習は行なっていなかったことが見て取れる。

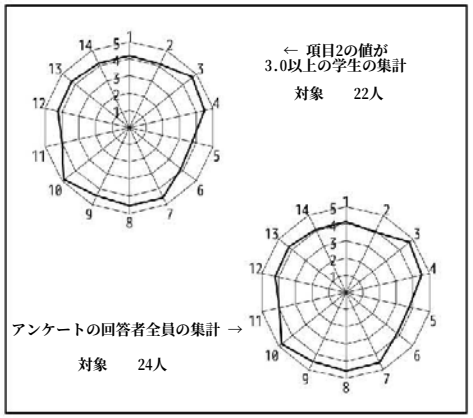
自由記述では、教員である佐藤がこれまで行なってきた仕事（英文雑誌の編集・発行）や現在行なっている仕事や活動（映画祭ディレクターの仕事やNPOの活動）などを通しての経験やそこから得た知見などについて語ったことに関心を持ってくれたようである。また、一方的に教員が話すだけではなく、関連した映像などを見せることで理解を深めてくれたようだ。

③ 南山大学での講義は今期で終了となるが、学生たちには世界を俯瞰した中で活躍をしてもらいたいと考えている。

人文学部 人類文化学科
竹下　至　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	知識と社会
授業コード	22C21-001
教員名	竹下　至
教員コード	103135
登録人数	68
回答数	24
回答率	35.3%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標は「知識に関する哲学的な問題や考え方を知る」、「その知見を活かして知識に関する社会的な問題を論じられるようになる」というものだった。目標の到達度は、授業内のリアクション・ペーパーや試験の結果から見ると、悪くないと思われた。ただ、アンケートの結果は今ひとつであり、改善の必要があると分かった。
②アンケート項目の中で、理解度や達成感に関わる項目（番号５、６）の値が相対的に低かった。今回の授業では毎回リアクション・ペーパーを課して理解度を高めようと試み、ある程度効果はあったものの、もう少し工夫も必要であることが分かった。また、板書が見づらい、音声が聞き取りづらいとの声があった。照明やマイクのセッティング等が疎かになっていたかもしれない。学生側からきちんと見えているか・聞こえているかを都度意識・確認するようにしたい。
③上記の通り授業内容についての工夫も必要だが、スクリーンや板書の見やすさ、音声の聞き取りやすさなど、適切な授業環境を整えるよう注意したい。

人文学部 心理人間学科
井坂　泰成　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地域開発と人間関係II
授業コード	23C33-001
教員名	井坂　泰成
教員コード	104429
登録人数	6
回答数	2
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

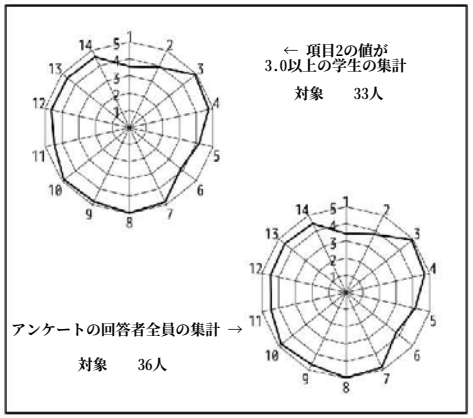
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
　各回のレポートの内容から、履修生は授業の内容を十分に理解し、各自考察を深めていたことから、開講時に設定していた目標は達成されたものと考えます。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※
　設問15:この授業の良かった点、評価できることは何ですか。について「普段関わることのない年代の人と話す機会があったこと。」との回答がありましたが、２年生から４年生まで様々な学年の履修生がグループを組んで対話をすることを大事にしました。それにより、多様な視点と意見に触れて視野を広げることができたと考えています。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　授業環境について、毎回椅子を出し入れしないといけない、また、プロジェクターも設置しないといけない教室だったため、大変不便でした（学生も不満に感じていました）。絨毯じきにこだわらず、最初から設置してあるように改善することをご提言いたします。

人文学部 心理人間学科
米山　薫　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	神経・生理心理学
授業コード	23C69-001
教員名	米山　薫
教員コード	104086
登録人数	42
回答数	36
回答率	85.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



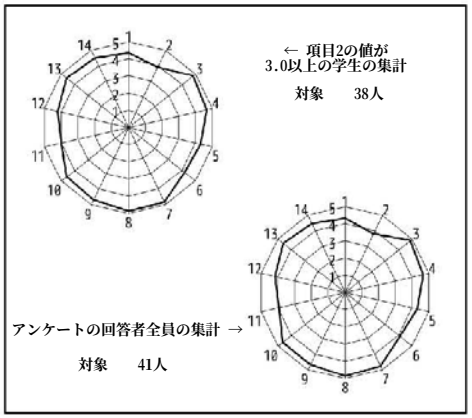
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 目標と到達の程度に関しては，取り扱う内容がやや専門的であったこともあり，学生自身の目標達成に対する評価は低い傾向がみられた。しかしながら，授業毎の小テスト及び定期試験の結果を見る限り教員が到達して欲しいレベルには概ね達していたように思われる。
② 数値データについては教員が行う授業進行等に関しては大きな問題はなかったように思われる。他方，項目1（「履修前の興味」），項目2（「予習・復習等の自主的な学び」），項目6（授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うか）のように学生自身の興味，態度，評価などの平均値がやや低かった。項目1については，教員としては数値の改善が難しいように思われるが，その後の授業で学問的な魅力を伝えられるよう努力していきたい。項目2については，webclassでも資料を配布，閲覧可能にしているので，そうしたものを利用した復習等を促す指導が必要と思われる。項目6については平均値は他の項目と比べて相対的に低いもの，受講生の19．44%が5（そう思う）を47.22%が4を選択しているため，力がついていると考える学生もある程度はいるようである。来年度以降，こうした学生が増えるようよりきめ細かい指導を心がけていきたい。自由記述を読む限り，講義中に実際に実験をする機会を設けることは学生が授業内容に興味を持つ良いきっかけになったと感じている。また授業毎の小テストは授業内容のふり返りに有効であったようである。こうした取り組みは来年度以降も続けていきたいと考えている。
③ この1，2年オフィスアワーにおける学生からの質問が少なくなっているように感じる。今年度はWebclassを利用してできる限り授業のリアクションに対してフィードバックを行ってきたが，来年度はこうしたコミュニケーションを授業の中で取れるような，直接質問ができるような雰囲気を作っていきたいと考えている。

人文学部 心理人間学科
丹羽　統子　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	医学概説(人体の構造と機能及び疾病)
授業コード	23C77-001
教員名	丹羽　統子
教員コード	104280
登録人数	98
回答数	41
回答率	41.8%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



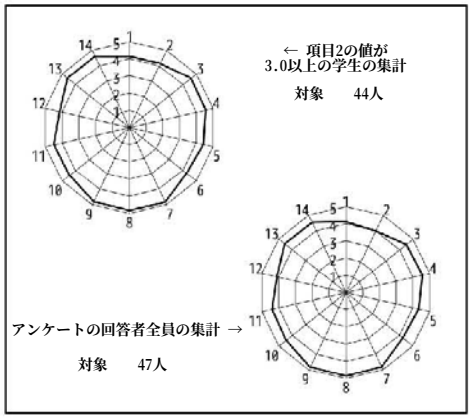
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 設定目標と到達の程度:　講義内容は難解なため受講脱落者が多い。よって学生の出席率を85%以上維持する事を目標にする⇒初回の講義で脱落した学生を除いた評価では、第5-10回講義の出席率は78-84%と低く、5.4割の達成率であった。
② 総合的な自己点検・評価：50点。昨年より講義内容を一部変更して分かりやすいものにしたつもりであったが上記達成率が低く、講義内容を更に検討する必要がある。昨年に比し学生からの反応も薄く、内容を考え直す必要がある。
③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針：講義内容の性質上、授業における情報量が過剰で学生の理解が追いついていなかったと考える。情報を取捨選択し、専門的な内容を減らして平易なものにしていく必要がある。教科書の選定も検討する。

人文学部 日本文化学科
早川　由美　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本芸能史
授業コード	24C16-001
教員名	早川　由美
教員コード	101167
登録人数	76
回答数	47
回答率	61.8%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

日本の様々な芸能について理解し、興味と関心を持ってほしいという授業の目的についてはかなり達成出来たと思う。
理解度を確認すること小テストについても、一定の評価を得ている。
映像資料を利用しての解説については学生からも高評価を得ているようなので、今後も続けていく予定である。
前年度は画像が見づらいとか音が小さいという指摘があったが、教室が変わった本年度は逆に音が大きすぎるという指摘が複数あった。
前と後ろの聞こえ方は確認して問題ないと判断したが、スピーカーの位置で大きすぎるという席もあったかもしれない。
音量については、自分から申し出られなかったという学生からの意見も書かれていたので、もう少し細かく学生に尋ねて調整していきたい。
昨年度はテキスト資料を記載した配付資料をそのまま写していたが、字が小さく見にくいという指摘があった。
今年度は簡単にまとめた形のスライドを併用したが、どちらを見たらよいのかわかりにくいという意見もあったのでもう一工夫したい。
映像の切替に時間がかかるとか、画像の調整が悪いなどの指摘もあった。
教室が毎年変わっているせいもあるが、視聴覚機器の扱いに慣れた頃に授業が終わってしまうので、できるだけスムーズに操作できるように努めたい。

人文学部 日本文化学科
大井田　晴彦　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	王朝文学研究
授業コード	24C34-001
教員名	大井田　晴彦
教員コード	101186
登録人数	10
回答数	4
回答率	40.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

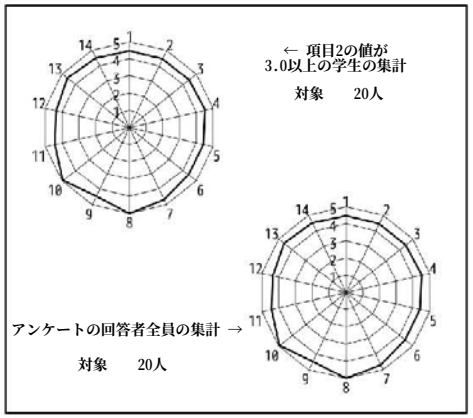
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①概ね授業当初に設定していた目標は、ほぼ到達した。授業の進度は速過ぎず遅過ぎず、適切なものだったと思う。②熱心で授業に関心を持つ学生が多く、出席状況も良好であり、授業の進行はスムースであった。受講人数が少なめなこともあり、一方通行にならず、学生の反応を見ながら、対話しつつ授業を進めることができた。テキストを読んでもらったり、小テストを課すことで、学生も参加する授業をめざした。配布した資料の難易度も概ね適切であったと思われる。学生の授業態度は真面目で良好だが、やや受動的で、もっと積極的に質問や要望があっても良かったと思う。質問の機会は授業の要所要所で設けたつもりである。③来年度も基本的には今年度と同様の方針で進める予定である。数年前からクォーター制が導入されたが、短時間で多くの内容を詰め込むことで学生が消化不良を起こしていないか、そろそろ検証の必要があるようにも思われる。授業環境については、特に不都合な改善すべき点はない。

人文学部 日本文化学科
伊藤　恵美子　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語教育教材研究
授業コード	24C62-001
教員名	伊藤　恵美子
教員コード	102909
登録人数	23
回答数	20
回答率	87.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

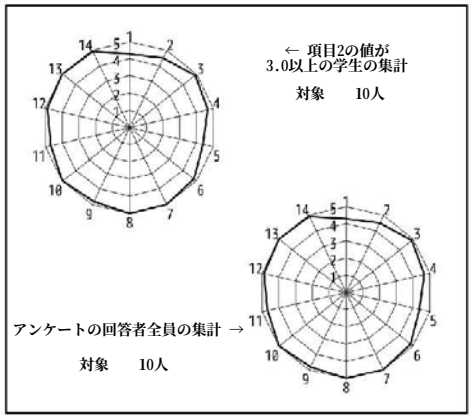
開講当初に設定していた目標は、日本語教育教材のレベル別特徴を知っている、日本語教育教材のスキル別特徴を知っている、日本語学習者のニーズに合う教材が作成できるようになる、の3点である。設問５「授業の到達目標の理解」、設問７「教員の誠実さ・真剣さ」、設問11「学習意欲を引き出す適切な指導」、設問14「授業の満足度」は全体の平均値より高い。また、設問６「授業の到達目標に向けて力がついてきている」、設問８「教員の声」、設問10「授業の妨げに対する対処」、設問13「授業を通して新しい知識を得て理解が深まった」は全体だけでなく日本文化学科の平均値をも上回っている。設問６の平均値4.40と設問13の平均値4.95より、到達目標は達成できたと考える。

自由記述は、「先生と学生の距離が近く（馴れ馴れしいという意味ではなく）、先生の指導が受けやすい環境だった」「演習形式、かつ主体的に意見や発表する機会が十分にあり、力がつきやすい」「他の授業とは違って、グループワークや当てられることが多いため、受動的に学ぶのではなく主体的に学ぶことができる」「一方通行の授業ではなく、学生からの発言を求める場面が全ての授業で設けられていた」「他学部の授業だったため、講義についていくことができるか少し不安に感じていましたが、一つ一つ丁寧な説明で分かりやすく、これからも勉強していきたいと思いました。グループワークもあり、とても学びの深い授業でした」等、高評価であったので、今後もこのような評価が得られるようにしたい。

外国語学部 英米学科
菅井　大地　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アメリカの文学1
授業コード	31E04-001
教員名	菅井　大地
教員コード	104899
登録人数	24
回答数	10
回答率	41.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



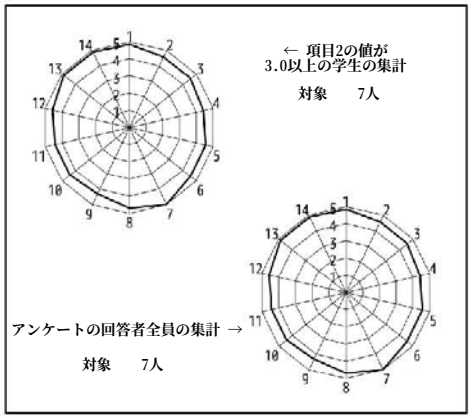
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達度の程度について
　シラバスに示した到達目標は、「文学作品を読み、それらについて自らの言葉で批評ができる」および「アメリカ文学・文化における文明と自然についてその特徴を捉えて説明ができる」の2点である。授業内でいかにこの作品を読解することができるか、また先行研究からどのような見解が提示されているかについて説明するよう心掛けた。試験における記述解答においても、多くの学生が到達目標を意識して論述しており、おおむね到達目標を達成していると考えられる。またアンケートからも、到達目標に向けて力がついていると感じた学生が多かったことが見受けられる。
②総合的な自己点検・評価
　受講人数に対して回答数はやや少ないが、全体的に肯定的な評価を得たと考えている。実際に文学作品を精読するという経験が得られてよかったという自由記述もあり、少なからずアメリカの文学・文化に対する学生の興味関心を喚起できたのではないだろうか。
③改善点など
　アンケートからは改善点や要望などの記述は得られなかった。予習課題を配布する際に、どのようなポイントに留意して読むとよいかという点を学生に伝えておくと、より授業のテーマとの関連が明示的になると思われるので、これについては今後実施してみたい。

外国語学部 英米学科
松波　京子　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	イギリスの社会
授業コード	31E07-001
教員名	松波　京子
教員コード	103864
登録人数	47
回答数	7
回答率	14.9%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



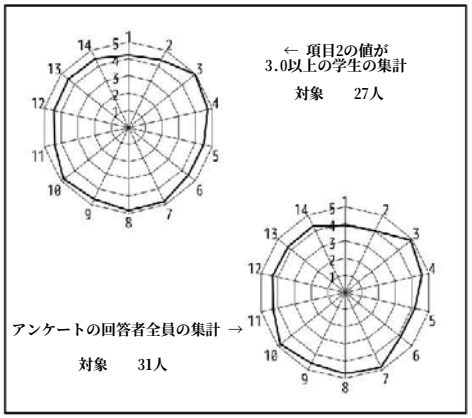
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本アンケート以外にも、講義内でみなさんからコメントをいただきました。
良かった点として、受講生との質疑応答で構築された授業であったこと、資料や映像等でより具体的に授業内容を学べたこと、講義資料が配付形式であったこと、毎回提出したコメントに対する講評などが挙げられていました。また本講義ではスマホ等の通信機器の使用を原則使用不可としてルール化していたのですが、受講生の皆さんの協力もあり、この点が「とても授業に集中できてよかった」との意見が多く寄せられました。ただし、改善点として配布資料等の数字などが見にくかったとの意見が寄せられました。この点は今後、改善していきたいと考えております。
本講義の目標は、「イギリスの社会について、その社会的・歴史的背景を理解し、イギリス社会が現在いかなる問題を抱えているかを知り、その問題について自らの意見を考えそれを主張することができる」でしたが、多くの受講生がこの目標を達成できたと考えております。

外国語学部 英米学科
PURCELL, William　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英米文学特殊研究B
授業コード	31E35-001
教員名	PURCELL, William
教員コード	016501
登録人数	76
回答数	31
回答率	40.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

It is disappointing that fewer than half of the registered students took time to submit their evaluations. Those who did take the time were most likely interested in the topic, and I am grateful for their input. It is also a little disappointing that so very few free comments were offered. It is helpful to know that some at least found it useful that I made the weekly PowerPoint presentations available through WebClass. That is something I will continue to do in the future.

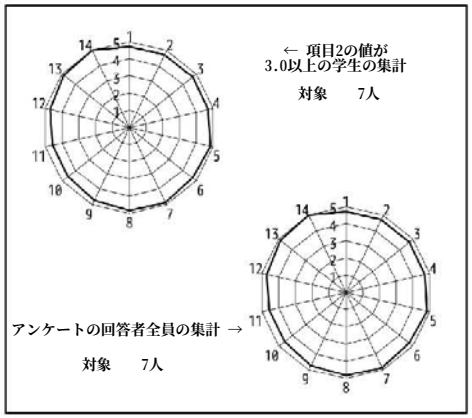
The size of the class made the in-class approach a little difficult. Normally I anticipate 30~35 students, whereas there were initially 80 students registered. In a Japanese social environment, such numbers make in-class discussion and feedback more difficult. This is something I continually need to consider.

The main purpose of the course is to raise in the students a greater awareness of the various African peoples, their histories, and their cultures and historic experience through an analysis of literary texts. Judging from student response to the survey and to comments in class I think that was a success. I will have only one more opportunity to teach this course before going into full retirement, but intend to review all of the materials again for further improvement.

外国語学部 フランス学科
長谷川　一年　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス社会特殊講義B
授業コード	33C17-001
教員名	長谷川　一年
教員コード	103576
登録人数	30
回答数	7
回答率	23.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



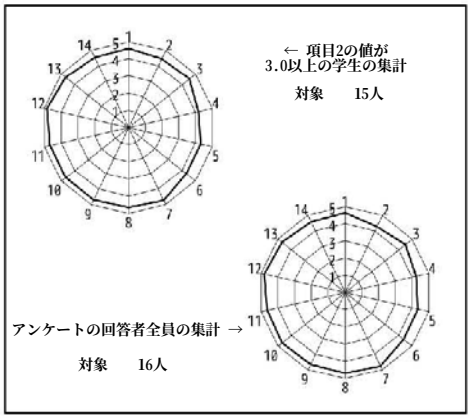
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に予定していた目標は、「近代から現代に至るフランス思想の流れを理解している」こと、ならびに「思想の営みをその時代の政治・社会状況との関連で理解している」の二点であった。授業はおおむねシラバスどおりに実施され、近代・現代フランスの社会思想の歴史をたどるとともに、そうした社会思想・哲学が今日のフランス「共和国」の理論的基盤をなしているということが確認できた。したがって、当初の目標は十分に達成されたものと評価することができる。
②アンケートの数値データおよび自由記述を踏まえれば、学生の満足度は比較的高いものと評価できる。各回の授業で配布した詳細なレジュメ、映像資料の視聴は効果的であったと評価できる。
③次年度は本授業は不開講であるが、これ以外に担当予定の科目において、学生により満足度の高い授業を提供できればと考えている。とりわけ、レジュメの作成と映像資料の活用に関しては、本授業の成果を十分に反映させたい。

外国語学部 アジア学科
加藤　久美子　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　タイの言語と社会
授業コード 35D14-001
教員名　加藤　久美子
教員コード 100483
登録人数　46
回答数　16
回答率　34.8%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

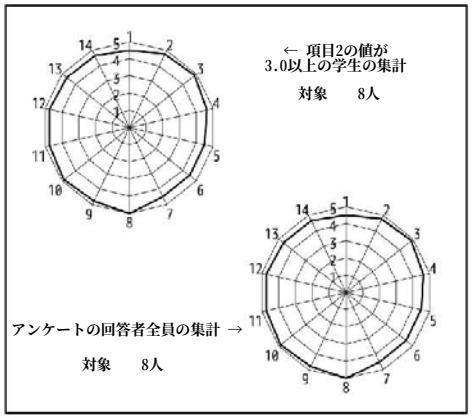
開講当初に設定した目標は「タイ語の初歩的な表現を身につける」ことと「タイ社会に関する基礎的知識を得る」ことであった。設問13「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか」の平均値が4.69、設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」の平均値は4.38であったことから、受講生の多くが目標にほぼ到達できたと感じているのではないかと予想される。その一方で、試験結果を見ると、タイ語の習得という点では、復習が不十分なまま試験を受けた人も一定数いたと考えられる。

アンケート自由記述欄の「この授業の良かった点、評価できること」として、発音練習ができたこと、社会的・文化的側面を学べたこと、気軽に質問できたこと、ネット上にある教材なので復習しやすかったこと、などが挙げられていた。発音練習、社会的・文化的側面の解説、気軽に質問できる環境は、今後の授業でも採用・継承していきたい。一方で、自由記述欄の「改善したほうがよいと感じた点や困ったこと」として、授業の進度が速い、文法の説明が足りない、文字や声調ももっとじっくり学びたかった、私語をしている学生がいる、などが挙げられていた。授業時間が限られているのに対し、授業で扱わなければならないことが多く、すべての受講生の希望に答えるのは難しいかもしれないが、今後は進度が速くないかどうか、文法・文字・声調の説明がもっと必要かどうかなど、授業中に受講生に確認しつつ進めるようにしたい。授業中の私語については、今後はより注意を払い、適宜注意をするようにしていきたい。

外国語学部 アジア学科
北野　浩章　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　アジア文献講読B
授業コード 35D17-001
教員名　北野　浩章
教員コード 104302
登録人数　21
回答数　8
回答率　38.1%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、東南アジアを中心とする英語文献を読み、卒業論文などで英語文献を用いることができるようにすることを目標にしている。具体的には、
(1) 東南アジアの歴史や文化などの基本事項を、英語を通じて理解する。
(2) 今日の東南アジアの最新事情を知り、時事を語るための英語表現を習得するとともに、地域の現状を理解する。
(3) これらを通じて、東南アジアに関する英語の基本文献を読解できるようになる。
といったことを考えている。

今年度は、一部、昨年までとは違った教材を使った。まず、シンガポールを構成する主要民族について書かれた読み物（シンガポールで発行された子供向けのもの）を最初に読み、その後でこれまでも使っているテキスト（東南アジア入門）を読んだ。

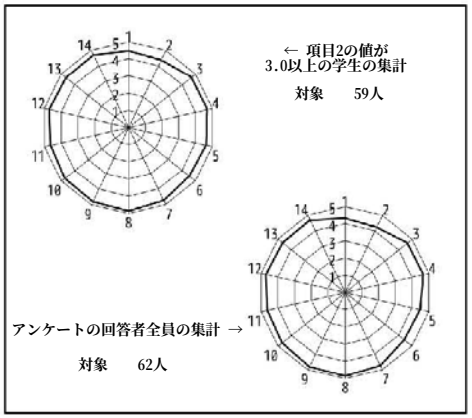
受講者に担当を割りふって発表してもらう方式をとった。ただこれでは、受講者は自分の担当箇所だけやればいいことになり、学習効果としては疑問があるため、授業期間中に3度の小テストをやった。出来は非常によくなく、受講者の英語力に疑問を感じざるを得ない。ただ、学期末の試験やレポートだけだと、長い学期中、授業でも授業外もほとんど勉強しないという事態になるので、昨年よりはまだましであった。

今年度も期末レポートを課したが、この学習効果も疑問符がつくので、来年度は、小テストに加えて。期末試験の実施を考えてみたいと思う。成績をつけるにあたって、全体の配点や、各テストで最低取らなければならない点数などについても再考したい。

経済学部 経済学科
西尾　圭一郎　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　アメリカ経済論A
授業コード　40D56-001
教員名　西尾　圭一郎
教員コード　104651
登録人数　118
回答数　62
回答率　52.5%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



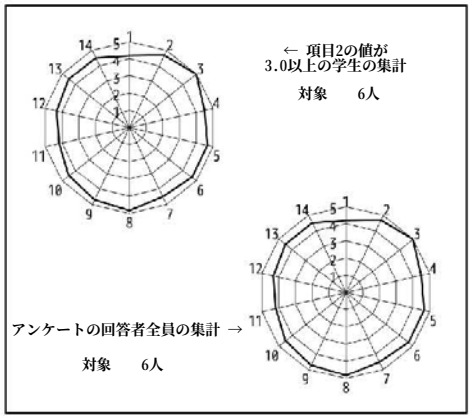
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標としては、金融を軸にしつつ、世界の中心としてのアメリカ経済を体感的に認識できるように、内外の状況から、多面的に説明をし、理解を深めてもらうことであり、個人的にはある程度は達成できたと考えている。数値については、非常勤講師ということもありタカ目との比較を含めてその良し悪しについて判断ができないが、万人に満足してもらえる授業はあり得ないと考えれば、比較的多くの人に、何かしらの得るものがあったと感じてもらえたのではないかと思った。また、自由記述欄を見ると映像教材を用いることで視角からの情報を得られたことについて、良い感触を持ってもらえたと感じている。もちろん、２時間連続の授業であったことから、映像教材の利用によってメリハリがついた部分があった点は考慮しておく必要がある。自由記述欄にはほかに、空気の悪さ（空気がこもった感覚は教員側もわからなくはない）を指摘する点があり、この点は換気や、こまめな休息の必要性を感じた。そういう意味でも映像教材利用の際、準備のため少し時間を置いたことが、集中力の面でも良かったのかな、と思う。
時期以降の改善点、今後の抱負であるが、これは単純にさらなる精進、教員側もより多面的な説明やテーマの取り扱いなどを、継続していくことである。教えることでこちらも気付き、学びがあったので、そういった気付きを得続けられる授業にしていきたい。この方針で次年度も臨む所存である。

経済学部 経済学科
森川　信子　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　時事英語B1
授業コード　40E07-001
教員名　森川　信子
教員コード　100136
登録人数　13
回答数　6
回答率　46.2%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

時事英語B１では、国内および海外のニュースから身近で親しみやすいトピックを扱った記事の購読を中心に、関連する語彙や文法のエクササイズをしたり、英字新聞の構成と表現法を学んだりしました。人数が少なく、アンケートの回答率も５割弱ではありますが、回答のグラフをみるとすべて４以上であり、大きな問題はなかったと言ってもよいのではないかと受け止めています。その中でやや低かった２項目は、設問１（履修前、授業の内容について興味を持っていましたか）と設問１１（学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供がありましたか）でした。履修前に授業内容について興味を持っていなかったとしても、登録者は全員が最後まで真面目に受講しており、設問２（予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解する努力をしましたか）と設問６（到達目標に向けて力がついてきていると思いますか）の自己評価も高いので、学習の成果は上がっているといえそうだと思います。ただ、授業内容への関心をもっと高めてもらい、より意欲的に学びに取り組めるようにするにはどのような方法があるか、考えていく必要はあるのかなと感じました。

経済学部 経済学科
NORTH Cameron　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	時事英語B3
授業コード	40E07-003
教員名	NORTH Cameron
教員コード	100400
登録人数	5
回答数	1
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set at the start of the course and the extent to which They were achieved.

The goals of the class were achieved. In order to improve Engllish communication skills, students must participate in the classroom. In addition, students must do the applicable homework. In most csses, the students did participate, and they did their homework. Also, students seemed to appreciate the class as their efforts allowed them to increase English abilities.

An overall self-assessment and self-evaluation of the subject you are in charge of based upon the numerical data and the comments etc.

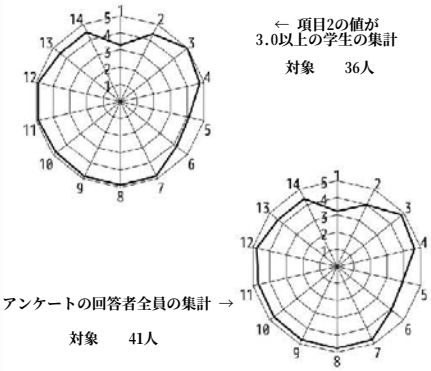
Thank you to all students for practicing and studying English. The majority of students tried to improve their English in class and by doing homework. A few students put in less effort. I think the pairwork system and homework study style greatly helps students that put in the effort. Overall, I am happy with the class results.

In the future, I can try to explain more clearly. I can also try to improve the motivation for students that do not try very hard. Overall, there is not too much to change. Of course, it is always important to motivate all students.

経営学部 経営学科
武内　幸生　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	統計学II2
授業コード	42B02-002
教員名	武内　幸生
教員コード	104717
登録人数	143
回答数	41
回答率	28.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①について
　仮説検定の考え方の理解と単回帰分析の結果の解釈を正確にできることを目標としました。仮説検定は概ね目標到達と言えると考えますが、単回帰分析の結果解釈は期末テストより多くの学生さんが未達の可能性があると感じました。

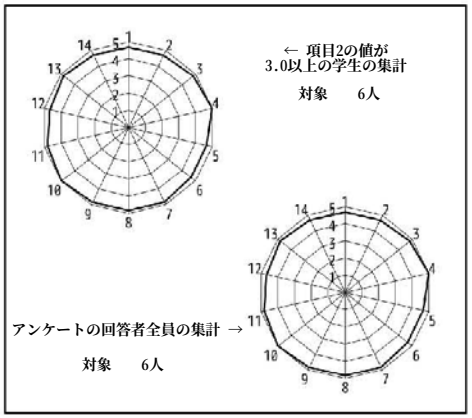
②について
　自由記述コメントは主に、説明が丁寧である、資格や職業紹介及び統計事例の解説があって役立つ、レジュメがあって助かるというコメントでした。指定教科書はレベルが高く、式展開や説明が省略されている部分があるため、省略無く丁寧に解説することを心がけました。また現役の社会人であることを活かして職業紹介や実際の企業での話などを交えて紹介を行いました。折角なので普通はテストでは問われない統計学の成り立ち等についても説明を行った結果、ある程度の評価を頂けたと思います。気付き点として、自由記述コメント２件に関しては当該授業とは異なる授業を指している可能性があると思います。

③について
　採点を行った気付き点として、ルートや分数計算間違いが多いこと及び題意に対応した回答がされていないことが多いこと、レーダーチャートより到達目標の理解度が相対的に低いことが分かりました。そこで、計算練習と解説の時間を設けること、回答するべき問いを判別し易くするために問題を小問に細かく分けること、到達目標の解説とその目標をなぜ設定したのかの説明時間を設けるようにしたいと思います。

経営学部 経営学科
篠田　朝也　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経営分析論B
授業コード　42C41-001
教員名　篠田　朝也
教員コード　104787
登録人数　67
回答数　6
回答率　9.0%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



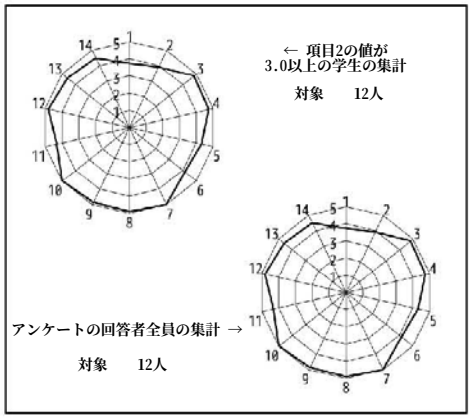
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　シラバスに記載していた内容をスケジュール通りに進行することができた。アンケートを提出してくれた学生のデータからも，授業の進行や内容等についての不満はみられない。また学生の提出課題からも教授したないようがおおむね理解されていることを確認している。よって開講当初に設定していた目標には到達することができたと考えられる。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
　アンケートの数値データから特に不満と捉えられている点は見受けられなかった。また自由記述でも「実践的な内容でよかった。」「（この授業の良かった点、評価できることは）講義内容に実用性があるという点。」などおおむね好評な回答が返ってきている。したがって，総合的に見て，おおむね適切な授業が展開できたと考えられる。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　非常勤で担当したこともあり，アンケートの実施の手続きがよく理解できていなかった。そのため，アンケートの回収率が低かったことが大きな課題である。多くの学生からアンケートに回答してもらえるように，適切な長さのアンケート回答時間をとるなど改善を図りたい。

経営学部 経営学科
金丸　義弘　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　現代産業論(電子・電機産業論)2
授業コード　42F03-002
教員名　金丸　義弘
教員コード　104609
登録人数　33
回答数　12
回答率　36.4%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



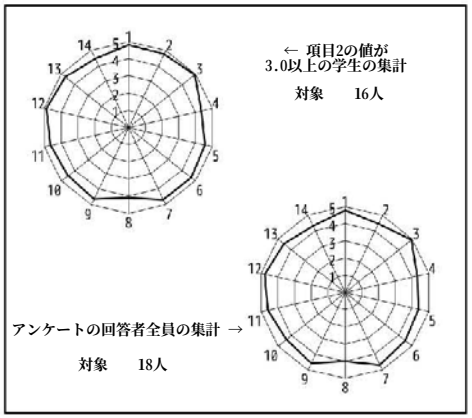
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回で４期目になるが評価は前回までの評価より少し向上したと思う。指摘された点を踏まえてさらに向上を目指したい。レーダーチャート１の点数が低いことについて電子電機産業そのものがかつての花形産業から現在は少し斜陽産業となっているので仕方ない面があるのだろうか。また予習を求めてはおらず講義時間内に集中して自分の考えをまとめてリアクションペーパーに書くように指導しているのでレーダーチャート２の点数が低いのは理解できる。来年度に向けては、評価の高い現場体験についてさらに語り、学生自身に考えてもらうような内容、時間を増やすとともに双方向でのコミュニケーションが取れる工夫、時間をもっと増やしたいと思う。一方、特に１Qの講義については就職活動などで休みがちになり理解度が進まない学生も見受けられる。これまでは自習、リアクションペーパー提出により救済措置を取ってきたが、あまりに欠席過多になる学生もあり、来年度１Qからはある程度規制を設けたいと考えている。

経営学部 経営学科
白木　俊彦　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	商業簿記中級II
授業コード	42H02-001
教員名	白木　俊彦
教員コード	101090
登録人数	27
回答数	18
回答率	66.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



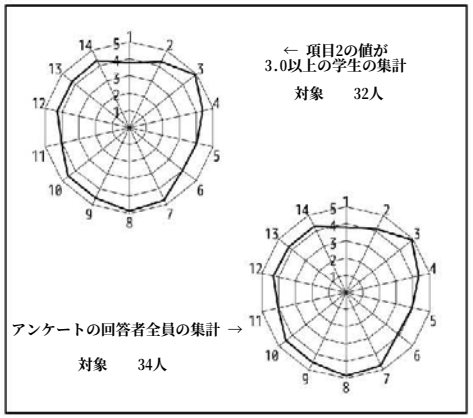
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、商業簿記の理論的、技術的構造に関する中レベルの内容を体系的に講義することを目標としている。具体的な到達目標としては、日本商工会議所主催の簿記検定試験の2級合格を目標としている。個別内容としては、株式会社の純資産会計、本支店会計、連結会計および外貨換算会計、リース会計、税効果会計について理解できるよう、仕訳や理論に関して演習を繰り返して進めた。
学生の理解度に関しては、すでに合格している学生や受験経験のある学生も含まれており、熱心に取り組んでいた学生が多く、理解が深まったと考える。中には、苦手領域を克服するために真剣に学習する学生もいたが、試験結果をみると、習得できない学生が数名見られた。授業評価結果をみると、主体的に取り組んでいる学生が多いことが数値で明らかになっており、講義担当者の評価も全体的に高い評価をいただいた。特に、質問に回答したこと、適切な指導や情報提供などの数値が高く、新しい知識の獲得、理解の促進があったようでよかった。満足度は4.28であまり高くなかったことが残念であるが、検定試験に合格した学生もいたことから、今後の成果に期待したい。
自由記述としては、質問時間を設けたことと質問しやすい雰囲気であったこと、問題を解きながら解説したことが評価されていた。
私自身の最後の講義の感想として、熱心に取り組んでいる学生と一緒に学習できたことは良かったと思う。

法学部 法律学科
代田　清嗣　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本法史
授業コード	44B34-001
教員名	代田　清嗣
教員コード	104266
登録人数	73
回答数	34
回答率	46.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



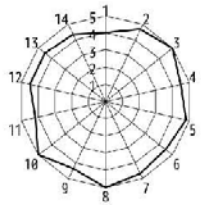
授業評価結果を踏まえた点検・評価

講義を通じて、各時代の法の特徴を具体的な事実・現象から抽出し、かつそれらがどのように変遷していったかを説明した。また近代法の成立過程を概観するなかで、伝統法との連続性や断絶について重点的に取り扱うことができた。これによって、シラバスにおいて設定していた目標を概ね到達することができたと考えている。尤も、アンケート結果を見る限り、受講者にその点が十分に伝わっていないと感じるため、次年度以降は講義の到達目標との関連をより明確にしながら説明することを心掛ける。限られた時間数で日本法史の全体を概観するため、全体に講義の進みが早く、また予定していた内容を次回に持ち越すということが数回あった。この点について自由記載でも改善点として挙げられているため、次年度は内容の精査・取捨選択を行い、また効率的な説明を行う。自由記載にはそのほか、法思想に関する説明回を設けることや、史料の実物がみたいと言った要望も挙げられていた。後者は手持ちの資料やデジタルデータの活用によって対応が可能であるため、次年度から積極的に実施する。前者については、講義全体の見直しを伴うため、中長期的な目標として設定するとともに、講義内での言及を増やすなど、次年度からできることを実施する。

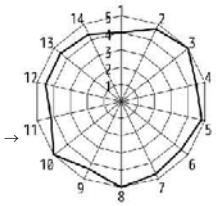
法学部 法律学科
小林　真紀　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランス法
授業コード　44B39-001
教員名　小林　真紀
教員コード　103451
登録人数　32
回答数　6
回答率　18.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計
対象　6人



アンケートの回答者全員の集計 →
対象　6人

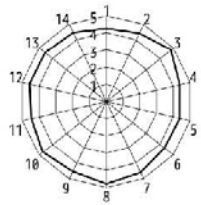
授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスにおいて設定した到達目標については、おおむね、多くの受講者について達成されたと思われる。
なお、本講義が外国語学部の「フランスの法制」としても開講されている点について、外国語学部所属の学生から、授業内容が難しすぎるとのコメントがあった。本授業は、日本の憲法（とりわけ統治機構）に関する基礎的な知識がないと理解が難しい内容なので、当然の見解かと思われる。他方で、法的知識に欠ける外国語学部生にもわかる授業をおこなおうとすれば、大半の法学部受講者にとって非常に退屈な授業になってしまう。したがって、個人的には、本講義は法学部の専門教育科目として位置づけ、外国語学部の学生については、希望者による聴講にとどめるべきではないかと考えている。
次年度については、授業スピードが若干早かったかもしれないので、スライドでの説明にもう少し時間をかけるなどして、受講者の理解をより促進できるような方策を考えたい。

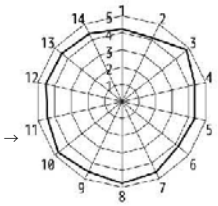
法学部 法律学科
庄村　勇人　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　行政法各論
授業コード　44C04-001
教員名　庄村　勇人
教員コード　101598
登録人数　53
回答数　19
回答率　35.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計
対象　17人



アンケートの回答者全員の集計 →
対象　19人

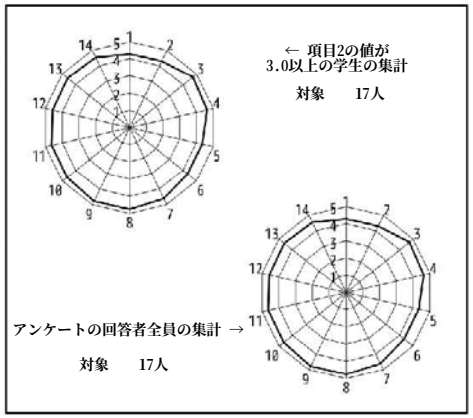
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①「設定目標と到達の程度」について、おおむね予定していた内容を教授できたと思われる。
②数値データでは、質問項目４の「授業の構成や進行速度」において若干平均を下回ったが、それ以外の項目は上回った。「授業の構成や進行速度」については、2時間連続の授業ということもあり、少しボリュームを多めにレジュメを作成したことが影響したのかもしれない。自由記述として「ホワイトボードを使って分かりやすく授業をしていただいた点」、「レジュメが分かりやすいところ」がよい点として挙がった。課題としては、資料をテスト期間まで見られるようにしてほしい、旨の要望があった。
③レジュメの分量については、少しコンパクトにするように改善する余地があるように思われる。

法学部 法律学科
尋木　真也　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際法各論B
授業コード　44C10-001
教員名　尋木　真也
教員コード　104091
登録人数　115
回答数　17
回答率　14.8%
休講回数　4　回
補講回数　4　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

体調不良により、2週間続けての休講があり受講生のみなさんにご迷惑をおかけしましたが、みなさんのご協力と補講により、当初のシラバスに則った授業運営を行うことができました。到達目標である、国際法に基づき実践的な観点から日本外交等を評価する能力の涵養は、受講生の質問や意見、レポートの解答などをみる限りにおいて、一定程度実現できたものと思っています。

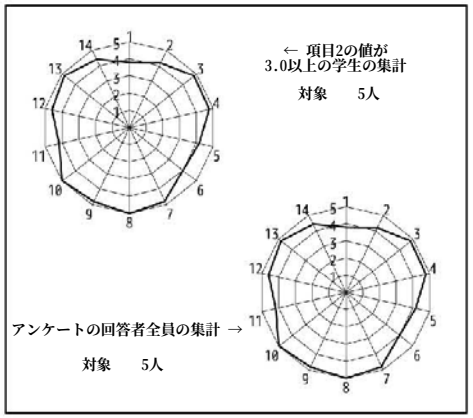
授業アンケートでは、2以下の評価は1票もなく、平均4.5を下回る項目も少数であったため、大きな不満はなかったものと認識しています。自由コメントでは、国際法を詳しく学べて満足したとの内容面の評価と、スライドが見やすくわかりやすかったとの形式面の評価をいただけました。

この授業では、タイムリーな話題を扱うため、自ら情報の更新にいそしむとともに、受講生にもアンテナを立てるよう促していきます。また、SDGsやビジネスと人権の授業で取り入れたアクティブラーニングを、他の授業にも敷衍できるよう工夫を重ねていきます。

法学部 法律学科
水島　朋則　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際経済組織法
授業コード　44C11-001
教員名　水島　朋則
教員コード　103634
登録人数　14
回答数　5
回答率　35.7%
休講回数　2　回
補講回数　2　回



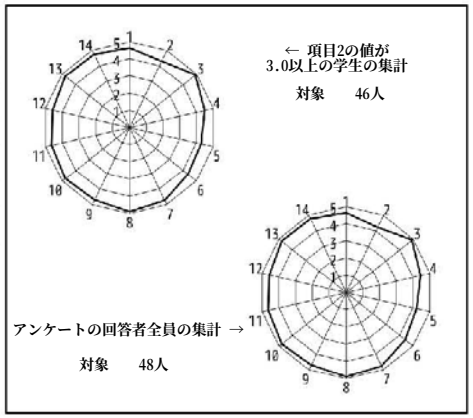
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①今年度は、試験を受けた11人のうち合格は10人であり、その意味では、開講当初に設定していた目標と到達の程度は９割程度と言えよう。受講者が少ないこともあり、全員が合格となることを当初は期待していたので、１人とはいえ不合格者がいたのは残念であるが、この学生は、提出されたレポート（全５回のうち１回は不提出）や試験の答案から判断する限り、授業に出席していないか、出席していたとしてもほとんど授業を聞いていなかったと思われ、やむを得ない。
②受講者が少なく、回答率も必ずしも高くはない点に留意する必要はあるが、設問１・６・11について開講主体別平均値を若干下回っている以外は同平均値を上回っているため、数値データからは特に大きな問題は確認できない。自由記述（項目15）として「各回の課題である小レポートについて、簡潔なアドバイスや評価、そして点数を公開してくれるので、自分が単位取得に向けて、どのような状況に置かれているのか分かって、より頑張れた。また、改善点を踏まえて、より良いレポート作成に役立てる点ができたので、その点が良かった。」と書かれており、このような自由記述はこれまでもなかったわけではないが、授業のやり甲斐につながっている。
③当方の都合により来年度はこの科目を担当しないことになっているが、万が一再び担当する機会があれば、今年度までの７年間の経験もふまえながら、「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促す」（設問11）ための工夫をしたい。

総合政策学部 総合政策学科
梅田　守彦　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	会計学
授業コード	46D08-001
教員名	梅田　守彦
教員コード	103893
登録人数	74
回答数	48
回答率	64.9%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



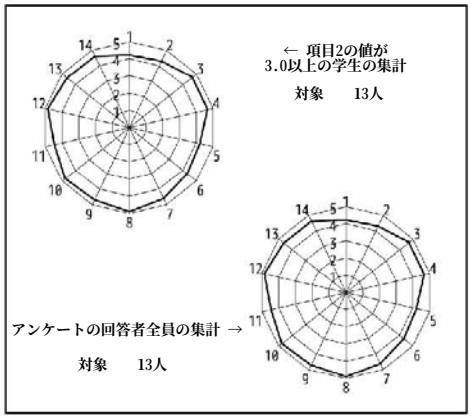
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初に予定していた範囲より講義内容はいくらか少なくなってしまったが、受講生からは理解度を見ながら授業を進めているという評価をいただけたことは何よりであった。
②今学期の授業では、実際の企業のデータを例年以上に多く取り入れるように努めたが、その方向は受講生から比較的良い評価を得られたものと判断している。また、課題について少し話し合いをする時間を随時取り入れたが、そのことも好意的に受け止めてもらえたものと考えている。そのために進度が少し遅くなってしまい、最終的にはキャッシュフロー計算書に関する説明が若干不足することになってしまったが、それは仕方のないところであろう。
③来年度は、基本的には今年度と同様のスタイルで授業に臨もうと考えている。ただし今年度は、講義回数が10回を超えたあたりからは少し「駆け足」で進めた箇所もいくつかあったので、もう少し内容を削減することによって余裕をもって進めていくことにしたい。

総合政策学部 総合政策学科
柳澤　幾美　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	近現代史
授業コード	46D10-001
教員名	柳澤　幾美
教員コード	101592
登録人数	29
回答数	13
回答率	44.8%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1．開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　学生が歴史を他者化することなく、身近な問題に引き付けて考えることができるように、毎回、リアクション・ペーパーを課す際にそういった記述を含めることを求めていたが、回を重ねるごとに身近な問題としての意見が述べられるようになったとと感じていた。また主体的に関われるよう、フィードバックを心がけていた。しかしながら、学生自身でその目標達成感がないと答えていたものがいたことは残念である。
2．　数値データおよび自由記述等を踏まえて
　数値データについては、ほぼ平均値であったが、前述のように、目標達成についての項目の数値が低く、それについて授業でも確認しながら進める必要性があると考える。自由記載については、ゲストレクチャー（ジョン万次郎の子孫の講義）についてよかったと答えたものが複数いた。また、映像資料も取り入れたことも、授業内容の理解につながっており、理解が深まってよかったと思う。
3．　次年度に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　今後も、学生が主体的に授業に関わることができるよう、毎回のリアクション・ペーパーは欠かさないようにしたい。またフィードバックもこまめに行い、ディカッションなども取り入れていきたい。

共通教育 仏語
遠藤　美加　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級フランス語文法II2
授業コード	33A18-002
教員名	遠藤　美加
教員コード	101551
登録人数	25
回答数	4
回答率	16.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講は、中級フランス語の文法書に基づき、文法の解説、エクササイズの答え合わせ、小テストを毎回行う授業である。授業の最終的な進行上、授業内でアンケートを実施する時間がなく、個人的に回答してもらうよう依頼したと記憶している。

回答が少なかったようで、レーダーチャートがないなど分析しにくいが、一人の学生の個別記述回答が２つあるのでこれについて述べておきたい。

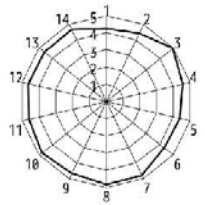
評価できる点については、テキストを補うプリントがわかりやすいと書いてもらっている。テキストの説明が少なく、課題をする際のわかりやすさを目指してプリントを作成しているので、ある程度目的が実現しているようで安心した。

一方、授業で困った点について、「学生の提出した宿題を翻訳機を使っているなどと決めつけて発言し、きちんとやっているのにも関わらず評価して貰えていないと感じた」とあった。これについては、まず私自身は翻訳機（サイト）の使用を授業中も否定していない（参考にして構わないというスタンス）。複数の学生の解答が同じで、googleやDeepLの翻訳と完全一致している（特に日本語と仏訳の間の飛躍に特殊な特徴が見られる例）のを確認した際に、学生が参考にした可能性について言及しただけである。ただ、たまたま当該の学生が自力で解答したのに、翻訳サイトと同じと言われて不満に思った可能性はあるので、今後は発言やそのニュアンスに注意したい。また、「授業中も高圧的に生徒に迫る場面が何度かありストレスを感じた」とあるが、当方では常に「親しみ」を込めて話していたつもりであり、圧力をかける意図は皆無であったが、「高圧的」と感じられていたのは驚きであった。これが今日の、無意識的にあるいは本来の意図とは異なって起こりうるハラスメントにあたるのだと自戒した。「授業内の説明が曖昧」という感想も付されており、さらに明晰な説明に努めたいと考えている。

共通教育 中国語
虞　萍　先生

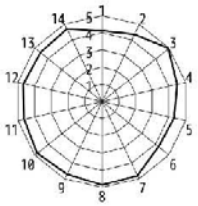
2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語II発音・聴力1
授業コード	35A02-001
教員名	虞　萍
教員コード	101432
登録人数	30
回答数	30
回答率	100.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　29人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　30人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

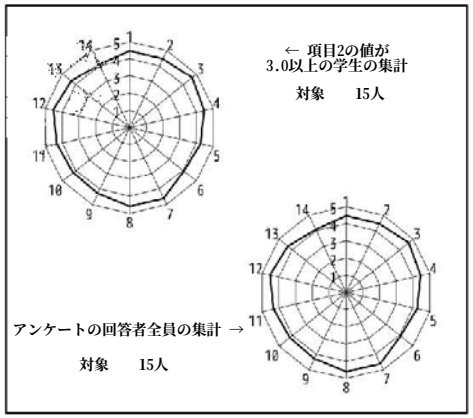
今期も開講当初に設定していた目標をほぼ達成することができました。発音・聴力の授業であるため、授業中はなるべく学生に中国語でアウトプットをしてもらうようにと心掛けました。会話練習をしてもらうには、センテンスの語順も正しく理解してもらわなければなりません。授業中は学生にとってわかりやすく・覚えやすい説明の仕方をとりました。この教授法は学生から高い評価を得ています。設問15「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」という設問に対して、学生から「発音の授業だったけど、先生が詳しく文法も教えてくれた」「聞くだけの授業ではなく、アウトプットさせてくれた」「アウトプットの機会を沢山得ることが出来た」「一つ一つ丁寧に教えてもらえるのがとてもありがたかった」「文法の説明がわかりやすかったです」「先生が熱心だった。やる気がなくてもしっかり向き合ってくれた」「話す時間が取られていたこと」「何回も復習をして、分からないところを指導してくれた。文法の説明が分かりやすかった」「この授業を受けて、中国語の力がとてもついたと思います」「発音や漢字が間違っているときにすぐに正しいものを教えていただけた」「中国の先生なので、生の中国語の発音を聞けることが良かった。また、教科書の難しい文法や、発展した内容も教えてくださったのでとても役に立ちました」「学習していない文法が出てきた時に、分からないまま進めるのではなく、毎回説明してくださるので分かりやすかった」「重要なポイントを何回も繰り返し言ってくれた」「中国の文法など豆知識なども一緒に伝えてくれるので、単語やセンテンスが覚えやすかった。自分で文を作るまで、その文の発音してみるという二つを同時に行うことでかなり身についたと感じています」など多くのコメントをいただきました。普段から真剣に授業に取り組む姿勢の誠実さは学生に感じていただきましたといえよう。

今後も学生の学習意欲を最大限に引き出せるような指導方法を摸索したいと考えています。

共通教育 中国語
陳　志平　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中国語作文B
授業コード　35C11-001
教員名　陳　志平
教員コード　049346
登録人数　17
回答数　15
回答率　88.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

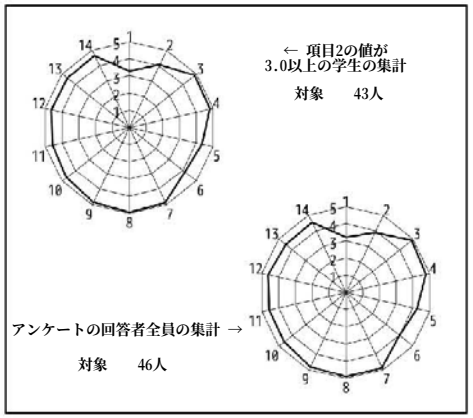
今学期は、受講生の学習意欲や語学力レベルのばらつきがとりわけ大き過ぎて、一人でも多くの学生が満足できるように、課題選びや進行速度、質問・相談を含めた事後指導などに注意を払ったつもりではあったが、「授業内で配布された教材のレベルが適切でない」、「もっとゆっくりしてほしい」と言ったご意見が寄せられた。一方、「授業評価集計」によれば、設問４（進行速度）は4.47、設問7（誠実さ・真剣さ）は4.60、設問12（質問・相談）は4.53、設問6（力がついてきている）と設問14（満足度）は同点の4.07となり、またレーダーチャートや自由記述を見た限りでは、開講当初の目標は概ね達成できたと思われる。学生から「文法の再復習ができた」；「全員の作文に関して、先生の添削を聞くことができた。」；「学生の疑問に沿った内容となっているので、力がつきやすい。」；「わからないことに真摯になってくれた」と言ったようなコメントを頂いた。

今回のアンケートで、自由記述には「真面目に授業に参加していない人に対して注意して欲しかった」、「注意しても私語が目立つ学生にはペナルティを与えてほしい。授業がより充実すると思う。」というご意見・ご提案もあった。これを含めて、次学期以降も謙虚な姿勢で学生の声を聞き入れて、授業運営の一層の改善・充実に向けて適切な対応を図る努力を続けて参りたいと考えている。

共通教育 共通
暮林　響　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　キリスト教概論[H・F]5
授業コード　10A51-006
教員名　暮林　響
教員コード　102624
登録人数　127
回答数　46
回答率　36.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



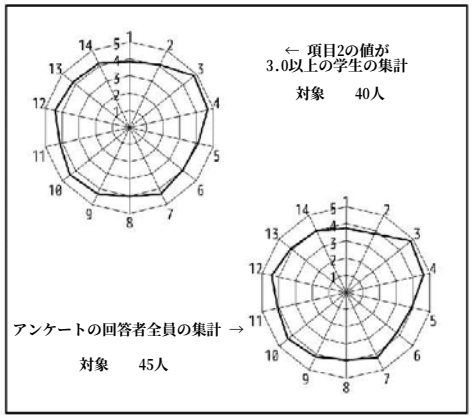
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初設定していた目標に充分に達することができたと思います。②コメントやデータを見る以上、特に大きな問題があったとは思いません。パワーポイントが共有できないことは講義の最初に明示してあります。また、グロテスクな描写に関しては、イエスの十字架刑の場面であって、キリスト教概論を進める上では教材的に避けて通ることの出来ない（むしろ避けたら本質から外れる）部分なので、どうにもしようがないと思います。見たくない人は目を向けないように言葉でも文字でも伝えてありましたので、自己管理できる範囲内だったと思います。情報量やスピードに関する指摘がありまして、配慮もできますが、小中学生ではなく、高等教育以上の学生ですし、参考文献も毎回のレジュメに掲載していますので、あとは自分でカバーすべきところだと思います。空気が澱んでいることに関しては、学生たちの体温などの問題かと思います。換気に関しても、大学生なら自己管理出来て当然だと思うので、窓を開けてもらえればよかったのかな、と思います。ただ、廊下も含め、S棟自体があまり空気が良くないのは教えている小生も感じています。

共通教育 共通
浦　英雄　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　思想史に学ぶ人間の尊厳1
授業コード　10D03-001
教員名　浦　英雄
教員コード　101166
登録人数　114
回答数　45
回答率　39.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



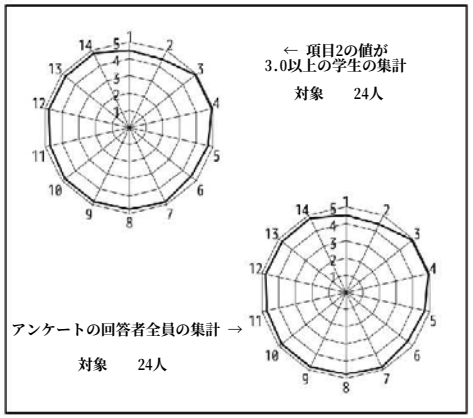
授業評価結果を踏まえた点検・評価

様々な文献から掘り出した「事実・真実」を出発点とし、論理的・哲学的に考えた末の道を一つ示すことで、学生に驚きを与える目標は達成できた。だが、メディアやネット情報を疑いもせず安穏と暮らしている一部の学生には、「根拠もなく」「思想が偏っている」から、「自身の授業の発言を今一度見直すべき」だと批判された。根拠は呈示した文献だし、哲学は全て偏っているものだし、分かりもしないお子様に、私の本心など口にしたことなどない。それなのに、「講師の思想を学ぶだけの授業」だったそうだ。「中絶は悪である」と「教員として」言ってはいけないそうだが、「中絶は善です」と、教員として発言せよということなのか。カトリックの大学の学生なのに、カトリックの考えを全く知らないとは意外だ。今後も一貫して、偏った話をするつもりだが、紹介した本を一冊も読まず、話の通じない相手に真剣に話すのは馬鹿馬鹿しいので、本当の学問というものに触れたくない学生は履修しないで欲しい。講義の水準を下げる方向も、検討してみる必要があるのかも知れないが、それは不本意なことだし、私の講義を「興味深い」と感じてくれる学生を重視した、「ひたすら100分間語り続ける」授業を来年も続けたいと思う。

共通教育 共通
市川　遥　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　文学A1
授業コード　12A03-001
教員名　市川　遥
教員コード　104794
登録人数　51
回答数　24
回答率　47.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



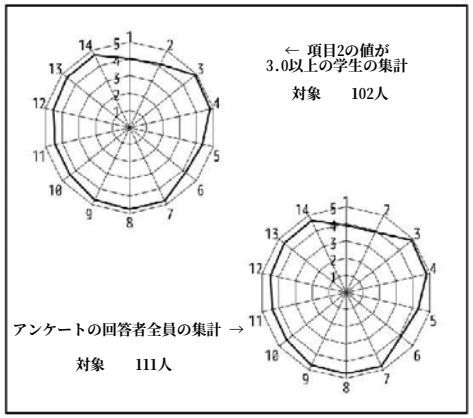
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標については、概ね到達できたと考えている。
②文学が専門ではない学生が多い場において、学生の知的好奇心を満たし、また視野を広げる講義とはどのようなものか、悩みながらの授業運営だったが、数値データや自由記述を見る限り、その点に関しては概ね達成できていたようである。
他の学生の授業態度に関して、学生が不満を感じていた事実を知り、有効な手立てが講じられていなかった点について反省している。
③学生の自主性に任せてディスカッションへの介入はしていなかったが、受講態度が良くない学生に対する声掛けは、真面目に授業を受けている学生が困難を感じないように行っていきたい。特に、「事前に資料を読んで来る」という課題に対し取り組めていない学生がいたようなので、その点については、初回の授業を始め、繰り返しアナウンスしていきたい。
授業資料のアップデートや課題の提出、メールのやり取り等、私自身のシステムに対する不慣れもあり、対応に時間がかかる場面が何度かあったので、もう少しスムーズに行えるようにしたい。

共通教育 共通
吉田　文　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	音楽A2
授業コード	12A07-002
教員名	吉田　文
教員コード	102447
登録人数	163
回答数	111
回答率	68.1%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　個人差はあるが、リアクションペーパーの記述と期末レポートからは、意欲的に授業に臨んでいた学生に関しては目標に多いに到達できたと考える。ミサ曲をただ紹介するだけではなく、作品の成立背景や歴史的背景、同時代の建築・美術等との関連性を説明することにより、それぞれの作品に関する理解度は深まったと考える。芸術作品としてのミサ曲だけではなく、実際に儀式として行われているミサを紹介しながら講義を進めたり、作曲家について紹介することにより、宗教音楽と精神文化の関連性について理解が深まっているという目標に到達できたと考える。

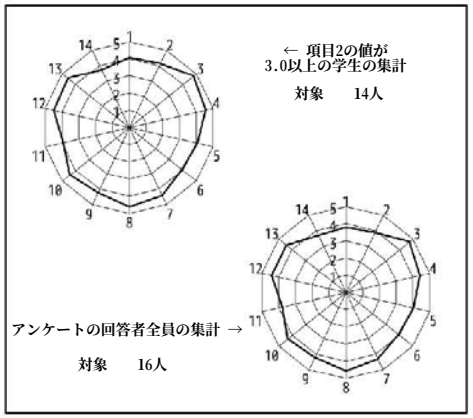
②かなり専門性の高い内容をいかに学生に伝え、学生の興味を促し、主体的な学びへとつなげることができるか工夫をした。
一般教養科目であり、多くの学生が受講していることから、全ての学生が興味を持った上で受講することは前提とできない環境で、予想以上に多くの学生が肯定的に授業を受け止め、主体的に参加し、興味を持って学んでいたことが自由記述等からも読み取れた。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
学生の評価では5、6の設問で比較的低い値が出ているが、振り返り用紙や期末テストの答案を参照する限り、当初設定していた到達目標には充分到達している力がついていることが判る。今後到達目標をさらに明確に提示し、学生に自信を持たせる声掛けを心がけたい。また、基本的に授業に参加する意欲のない学生から学習意欲を引き出すこと、そして遅刻・早退者のより詳細な把握など授業運営に関して改善していきたい。

共通教育 共通
関口　哲矢　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本史B1
授業コード	12B04-001
教員名	関口　哲矢
教員コード	103639
登録人数	27
回答数	16
回答率	59.3%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義で受講生に身につけてもらうべき学習目標はつぎの通りである。
・史料をもとに、基本的な史実を理解することができるようになる。
・歴史的な事柄を、文章だけではなく図や表なども使用して自分の言葉で説明できるようになる。
・複数の歴史的な事柄を相互に関連づけて考えることができるようになる。
・歴史的な事柄を現代の問題として考えることができるようになる。

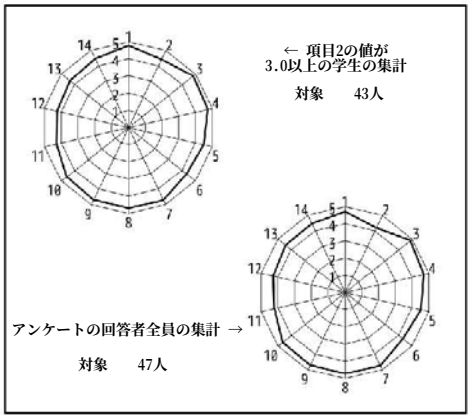
好意的な評価のなかには、教員が学生へ問いかけたり、話しあい等を通じて学生の考えをまとめさせたりする能動的な面に共感するものがあった。一方で、能動性を求めるあまり、学生がどう対応してよいのかわからなくなる場面もあったようである。遅刻のルールについても、好意的なコメントがある反面、厳しすぎるとのコメントもみられる。おなじ教員側の行動でも、学生の受け取り方が変わる事例を得ることになった。
学生にはこの機会に、どの程度予習、復習をしたかを振り返ってほしい。学生への質問や、話しあい等の内容は、予習復習を行っていれば反応できるものばかりである。講義は教員と学生が真剣に対峙する場という気構えをもって臨んでいただきたい。もちろん、上記の教員の求めに応えている学生も多くいたことは補足しておく。

次年度の講義も話しあいや討論を実施していく。学生からの質問への対応、丁寧な説明、学生とのやりとりの充実なども続き実践する。

共通教育 共通
大橋　真砂子　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　世界史
授業コード　12B12-001
教員名　大橋　真砂子
教員コード　100233
登録人数　115
回答数　47
回答率　40.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



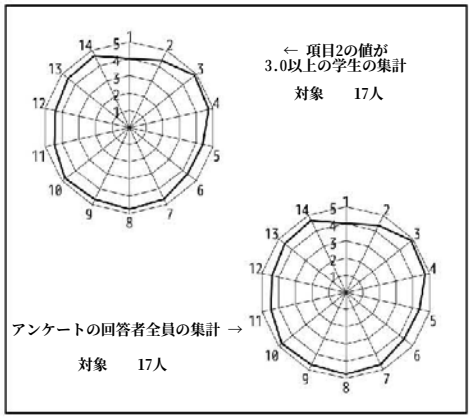
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では「1500年以降の世界の歴史」というサブタイトルのもと、高校世界史で扱う内容を踏まえながらより細かな歴史的経緯等について概説的に紹介し、現代における世界の諸問題の背景としての過去のさまざまな出来事について解説した。休講もなく、シラバス通りに授業を進めることができた。また設定された目標に概ね到達できたと考えている。アンケートに回答してくれた学生の数は履修者数に比べて少なかったが、全体としては好意的な評価が目立っていた。とりわけ、事前にウェブを通して配布する穴あき式のWord資料（予習を前提とする）、及び授業で提示するPowerPoint資料（授業後に復習がしやすいようWebClassにアップしている）が、わかりやすく内容の理解に役立ったとの回答があり、資料の重要性を改めて実感した次第である。今後は、国際社会で現在進行中の諸事象を踏まえた解説ができるよう、資料をアップデートして授業に臨みたいと考えている。

共通教育 共通
長尾　良子　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　法学A1
授業コード　12C01-001
教員名　長尾　良子
教員コード　102081
登録人数　34
回答数　17
回答率　50.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2023年度のＱ３の「法学」は、共通教育科目で、法の基本構造、裁判の仕組み、民法・刑法の基本を理解するという授業目標はおおむね達成されたと思われます。

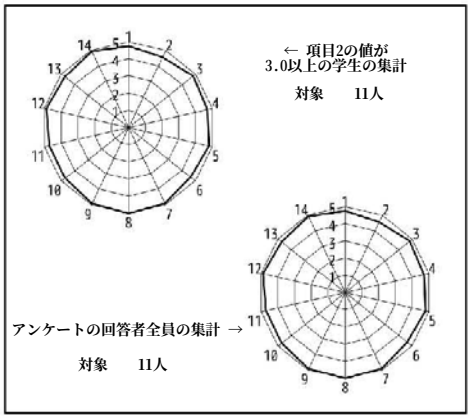
授業評価の設問項目1、7、12の平均は各種集計値の平均をやや下まわりましたが、それ以外の設問項目の平均はおおむね集計値を上まわりました。設問項目15の自由記述回答では、良かった点として、法廷教室での模擬裁判員裁判(4名)、グループ・ワーク(3名)、教員からの積極的なコミュニケーション(1名)などの回答がありました。他方設問項目16の改善点としては、特になし(4名)、課題の内容が不明瞭な時あり(1名)との指摘がありました。

次年度は、到達目標、課題内容の明示やパワーポイントのスライドの表記、学生の理解度への配慮、音声など改善できる点については改善していきたいと思います。今後も学生の様々なニーズ・要望を前提に、「法学」の授業全体の満足度と理解度を高める工夫と努力を、一つ一つの改善を重ねて続けていきたいと考えます。

共通教育 共通
大園　誠　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治学B1
授業コード	12C05-001
教員名	大園　誠
教員コード	102910
登録人数	33
回答数	11
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①：この授業のテーマは「戦後日本政治史」である。第二次世界大戦後（１９４５年）から現在（２０２３年）までを対象とすることから、毎年確実に1年ずつ内容が増加し、１５回という限られた回数でその全過程を扱うことが年々厳しくなりつつある。今期も何とか現在まで取り上げたが、２０００年代以降については歴史的評価がまだ定まっていないことも多いため、特に２００９年の政権交代以降をどのように取り扱うかについて検討したい。②：項目１～１４の平均値は４．７９（項目３～１４の平均値は４．８２）であり、同内容の昨年度の同時期よりも＋０．５であった。おおむね肯定的評価が得られた。自由記述では、「この授業で良かった点、評価できること」として、以下の指摘があった。（１）コメント用紙により質問ができ、次の授業で回答してくれる（そこで他の受講生の様々な考え方も知ることが出来る）、（２）視聴覚教材（ドキュメンタリー・ビデオ）による補足がある、（３）コメント用紙の中にある「ニュース・コメント」を書くことで普段より世の中の出来事に注目する機会が増えた、（４）レジュメでは歴史を「過去から現在へ」、同時に「現在から過去へ」とさかのぼる動画を見ることで、過去と現在の歴史的影響を理解出来た、（５）日本の戦後政治に対して、講師の豆知識を挟んで説明することでより政治家に興味が沸いた。一方、「授業を受講して改善したほうがよいと感じた点や困ったこと」については、今回は特に指摘がなかった。③：来年度は１９４５年から２０２４年までの「７９年」にわたる歴史過程を扱うことになる。長期間にわたる「政治史」をどのように取り上げればより学習効果が上がるかについて、今後もさらなる工夫を怠らず試行錯誤してきたい。

共通教育 共通
本村　扇仁　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	物理学B
授業コード	12D02-001
教員名	本村　扇仁
教員コード	102685
登録人数	7
回答数	3
回答率	42.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

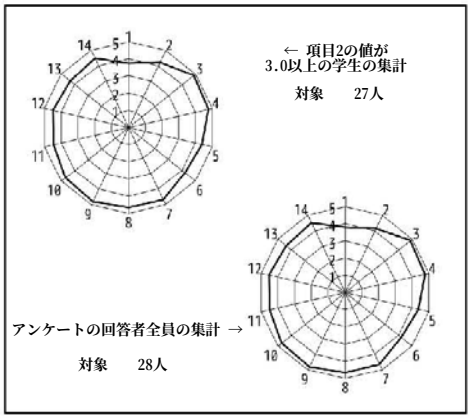
授業評価結果を踏まえた点検・評価

説問14の数値から、全体としては授業目標に近づくことができたものと考えられる。シラバスに「高校で物理を履修している必要はない。初めて履修するものとして授業を行う。」としたことから、授業で取り上げた物理学の知識については初歩から紹介し学習する場面を多くとった。また実感を伴った理解につながる効果が期待される映像資料を要所で取り入れた。このような展開について、説問4、9の数値から、概ね成功であったと考えられ、今後継続しさらに工夫していきたい。
学生がPCを準備していることから、計算についてエクセルを利用することを試みた。自分の手で数値的な面を把握するという点で有意義と考えられ、さらに展開していきたい。今年度は学期を通じて対面式の授業を行うことができ、教室内で簡単な演示実験を行ったが、今後も継続したいと考える。
不明な点や疑問点は理解をより深める大切な機会と考えられるので、質問を授業内外でしやすくするという点に留意し工夫したい。また興味があった点についてどのように学習を深められるかをより明確にするという点に関しては、参考文献の紹介、資料の提示などに常に工夫を加えていきたい。

共通教育 共通
藤波　初木　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地球科学B1
授業コード	12D07-001
教員名	藤波　初木
教員コード	102077
登録人数	150
回答数	28
回答率	18.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



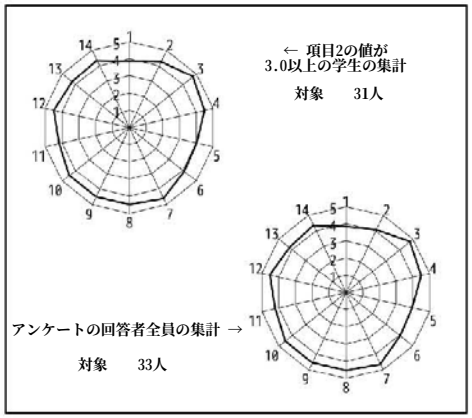
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた授業目標はほぼ達成したと考えている。学生評価では、これまで同様に、この授業全般に対し良好な評価を得ている。アンケートの任意解答でも「授業資料がわかりやすく、丁寧な説明で理解がしやすい」との回答を得た。教養科目の自主的な予習・復習は難しいと思われるが、授業の中で復習ができるように工夫した。授業資料はなるべく難しい数式を使わず、理系の専門用語の使用も最小限に止め、身近な気象現象から地球規模の環境問題の成因をできるだけ論理的に追いかけられるように努力した。引き続き、授業が行われる週に観測された天気の変化や異常気象などに関する説明を、動画や天気図などを用いて解説し、授業の内容がどのように気象・気候の理解に結びつくのかがわかるように資料を作成した。また、私のフィールド(海外)の観測風景などの映像も増やし、研究者が何を行っているか等も授業内容に関連づけて話題提供した。一方で、今年度のクラスは、授業の初回から出席者が少ない傾向にあり、それは最後まで同様であった。アンケート項目番号1が例年より低かったことも影響している可能性はある。この授業では、10年以上出席はとらずに授業を進めている。アンケートでは出席はとった方がよいのではないかという任意解答も見受けられた。この点、来年度の動向も踏まえ検討が必要と考えている。

共通教育 共通
古澤　文江　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地球科学B3
授業コード	12D07-003
教員名	古澤　文江
教員コード	103906
登録人数	54
回答数	33
回答率	61.1%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



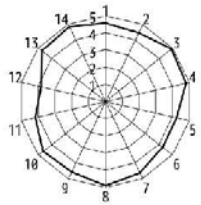
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①1「熱や放射の基礎物理の習得」：リアクションペーパーの質問に授業で答えることで、繰返し学習することになり、理解につながったと考える。
2「応用例の理解」：測器を理解した上で、その観測によって得られた表や図のデータを読み取ることで、そこにある物理や自然現象を理解できたと思う。
3「身の回りの現象について物理的に考察する能力を養う」：身の回りの現象や先端科学・技術に対し、自ら疑問を持ち、質問することができたので、達成しつつあると考える。今後もこの姿勢を続けて欲しい。
②今回も対面授業を行ったので、リアクションペーパーを配り、授業後回収し、その後の授業でそれに丁寧に答えていくことで、学生との双方向のコミュニケーションが取れたと考える。また、自由記述に「高校で物理を履修していなかったが理解することができた。」という意見があり、物理に初めて触れる学生も理解できたことがわかって安心した。
過去の受講生が課題を提出しに来てくれたので嬉しかった。
③引き続き、学生達とのコミュニケーションを心掛け、臨機応変に対応していきたい。授業時間の延長は極力なくせたので、次回も終了時間を守っていく。マイクをONにするのを忘れてしまった事があるので気を付けたい。
今年度は、難易度は変化させていないが、課題をやや減らした。授業中に当てるのも控えた。その結果かもしれないが、受講者が少し増加した事は良かったと思う。

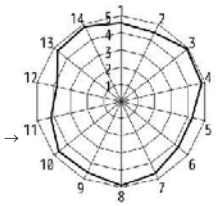
共通教育 共通
小澤　良　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理学A1
授業コード　12E03-001
教員名　小澤　良
教員コード　103091
登録人数　59
回答数　11
回答率　18.6%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計
対象　11人



アンケートの回答者全員の集計 →
対象　11人

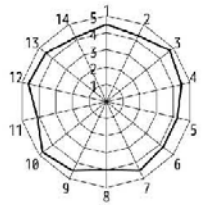
授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標への到達程度は十分であったと考えられるが，講義時間に多少の余裕をもって終了することもあった。来期ではより多くの内容に触れることで，より深い理解を促すことを目指したい。数値データ等を見ると，概ね好評ではあったようである。講義資料を電子ファイルで配布し，それに学生自らが重要事項を書き込む形式も好評であったため，次年度も継続する。しかし，質問のうち「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。」のみが比較的低評価であった。講義時間内で明確な質問時間を設ける必要があると考えられる。また，スケジュール変更に関して，早急に補講の日程を公表することを求められた。これも，初回講義において全体の日程を公表することで改めたい。以上より，講義の基本的な形式は維持しつつ，講義内容をさらに充実させる，明確な質問の機会を設ける，講義スケジュールを初頭に提示することを改善点として挙げたい。

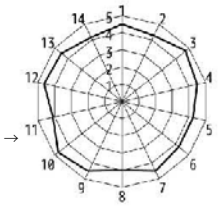
共通教育 共通
岡田　宏太郎　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　歴史の諸相3
授業コード　13B06-003
教員名　岡田　宏太郎
教員コード　102261
登録人数　26
回答数　8
回答率　30.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計
対象　8人



アンケートの回答者全員の集計 →
対象　8人

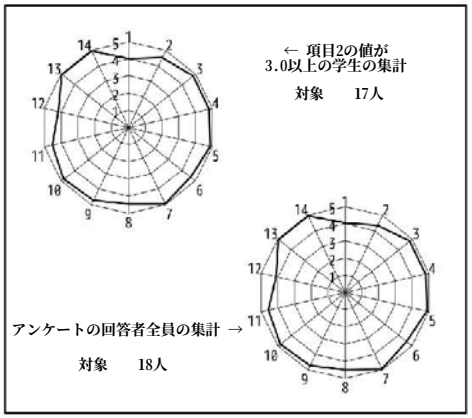
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業評価アンケートの他、授業においても定期的に質問、感想等を回収する機会を設けましたが、期末試験の結果もあわせ、おおむね例年通りの成果は得られたものと思われます。最初に授業のテーマに沿った映画をみたことについては、授業内容の理解に役立った等、肯定的な感想が多く、今後も続けていこうと思います。予備知識、関心がある受講者にとっては興味深いトピックスと思われることが、平均的な受講生にとっては、詳細過ぎて難解と感じられたのではないかと悩みながらの授業でしたが、なんとか受け入れてもらえたかなという印象です。扱いたい内容をこなすために、早口で先を急いだり、声の不調でお聴き苦しい場合もあったことが反省されますが、余裕をもって講義できるように、扱う内容をより工夫、整理すること、また、授業中に紹介する参考文献の選択、紹介の仕方を改善し、さらに自学自習を促進する努力を継続したいと思います。真面目に受講してくれた皆さんにはどうもありがとうございました。

共通教育 共通
杉尾　浩規　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　異文化の理解4
授業コード　13C01-004
教員名　杉尾　浩規
教員コード　102055
登録人数　74
回答数　18
回答率　24.3%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



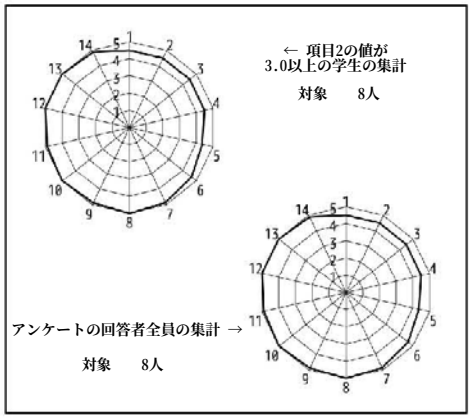
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、歴史学者の阿部謹也によって開拓された「世間」論に注目しました。特に、日本の伝統的で文化的な人間関係のあり方である「世間」を明治時代にヨーロッパから輸入された「社会」という人間関係と比較しながら、これら二つの人間関係における「個人」のあり方の違いを考えました。そして、その際、「世間」に留まりながら、「世間」を相対化し、「世間」について考えることの必要性を強調しました。安易に欧米的「個人」の視点から「世間」を否定することの危険性を強調しました。本授業の運営に関して重視したのは、「独断的・独善的な感情論に流されることの危険」と「自分の意見を他者に伝えることの大切さ」であり、「考えること」の意義を強調しました。対応して、毎回の授業で提出を求めたリアクションペーパーでは授業内容に関連して上記二つのポイントが満たされているかどうかを評価基準としました。全体的な傾向としては、深い自己分析を伴う丁寧なリアクションペーパーを作成し続けてくれた人が相当数いました。「考える」という主観的営みの達成状況を客観的に判断することは困難です。しかし、このようにハイレベルなリアクションペーパーが一定数あったことを踏まえると、「考える」ことの意義を強く打ち出した本授業に一定の肯定的評価を与えることができると思われます。来年度は、毎回の授業内容をより分かりやすく具体的にするつもりです。履修してくれた皆さん、ありがとうございました。

共通教育 共通
三枝　有　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　生命と法律問題2
授業コード　13C02-002
教員名　三枝　有
教員コード　100468
登録人数　38
回答数　8
回答率　21.1%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



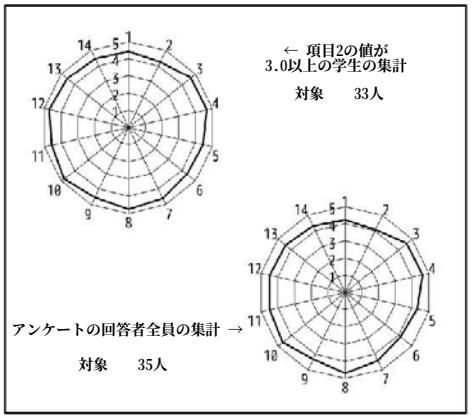
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：目標としていた評価以上の５評価をいつくか頂けたことは有難いことでした。全体評価でも4.7を上回る4.8に近いもので受講者の能力の高さを感じました。おかげで老人性のしつこい繰り返しや意見の押しつけも減少したように思われます。まずは受講者諸氏に感謝申し上げます。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：自由記述では質問への回答・解説を高く評価していただき感謝申し上げます。説教がましい解説でなかったか不安でありましたが、安堵いたしました。どうしても勢い説明が長くなりもう少し学生が考え記述する時間を確保できるように配慮したいと思います。この点が解消すると時間通り確実に終了することができますので。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：次回講義では、上述の点を参考にしながら、さらに法的思考を深められるようなサブテーマなどを取り込みたく考えております。全体として高い評価を頂いたことには感謝申し上げます。

共通教育 共通
松野　正太郎　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　社会の諸相7
授業コード　13C04-007
教員名　松野　正太郎
教員コード　104285
登録人数　122
回答数　35
回答率　28.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



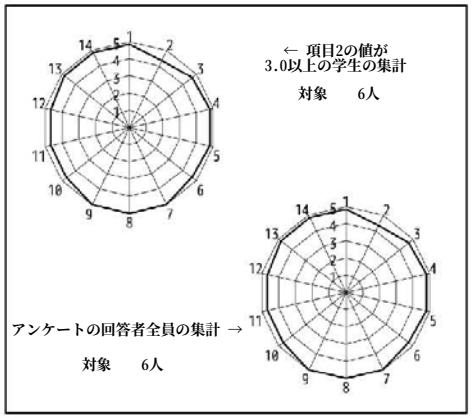
授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケート結果を俯瞰的に見て、全体的に学生の満足度は高いように感じられた。
開講当初に設定した、持続可能な社会の実現に向けた、特にSDGsの推進にむけた知見め動向の理解と日常生活における行動の実践ができるようになるという点について、できるだけ多くの具体例を用いたことが学生の理解を促進したと考えられ、講義全体としては目標を達成できたと考えられる。特に、今年度はSDGsと社会課題の関連について重点的に説明を加えた。
個別には、毎回学生に課したリアクションペーパーについて、次回の講義で優れたコメントは紹介し、質問には丁寧に回答したことから、事後的なフォローが十分に行うことができたと思われる。また、環境問題やSDGsのみならず、持続可能性に関して幅広く扱ったことから、学生の視野の拡大に寄与することができた。
2コマ続きの長丁場であったので、50分毎くらいに小休憩をはさみ、集中力が途切れないように努めたことも学生からは好評であった。
次年度は、やや講義の内容が多く、冗長的であったものもあったので少し絞って深堀することも検討したい。講義の内容、方法については基本的に今年度のものを踏襲する。

共通教育 共通
大野　波矢登　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　人間と機械3
授業コード　13E04-003
教員名　大野　波矢登
教員コード　100625
登録人数　32
回答数　6
回答率　18.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



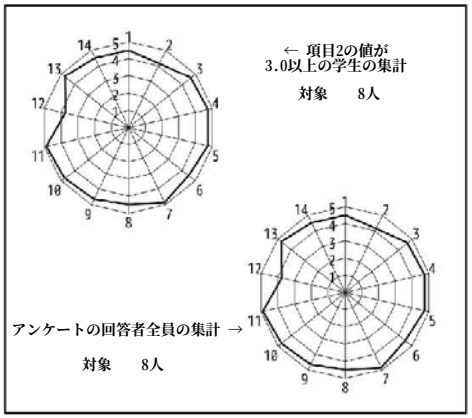
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①人工知能やロボットに関わる哲学・倫理学的問題を理解し、自らもそれらの問題について考え、討論できるようになることがこの講義の目標である。目標達成度は、アンケートの項目3~14の平均が4.81であったこと、小テストとレポートの合計点の平均が80.9点であったことから80%程度と思われる。
②アンケートの結果については、第1クォーターの授業では項目5と6に対する平均値が低かったが、今学期は4.83と4.67であった。到達目標を理解したうえで積極的に学習に取り組み、目標達成に向けて力がついたと感じている学生が少なからずいたことがわかる。
③今後の改善点として、授業内容を新しいものにする必要があると考えている。アンケートの結果からも人工知能とロボットの哲学・倫理学に対する学生の興味は高まりつつあるようだが、この授業では第三次AIブーム以降の話題が全授業内容の3分の1程度であり、学生の期待に十分に応えることができていないように思われる。次学期ではアンケートを実施し、学生の関心のある話題を聞いたうえで授業内容に追加したいと思う。また、授業方法について、講義資料を紙媒体で配布した点が良かったという学生のコメントがあった。今後もできる範囲で、紙媒体と資料DLサーバーの併用を続けていく予定である。

共通教育 共通
可児　光生　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	博物館学E
授業コード	15M05-001
教員名	可児　光生
教員コード	102475
登録人数	22
回答数	8
回答率	36.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



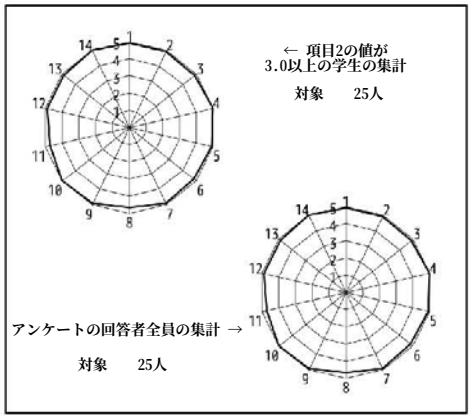
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①
博物館に対する一般的で基本的理解度が学生にどこまであるのか当初よくわからなかったが、ミニレポートなどを行うことによって徐々に把握できた。到達目標に近づくよう努めた結果、設問(5)「到達目標の理解」について4.75と一定の評価があったためよかったと思う。
②
設問(13)の「新しい知識の習得と理解の深まり」の項目について4.75の評価があったことがよかったと考えている。設問(9)の「配布資料、視聴覚教材など」についても効果的に受け止めてもらえたようである。博物館に対するイメージや位置づけが変わり、博物館が現代社会に必要とされる存在であることを学生たちに考えてもらうことを願っていたので、最終試験などを通してその目的がそれなりに達成できたと確認できた。
③
最終的に設問(14)の「満足度」のポイントがさらに向上するよう、学生の学習意欲を引き出す工夫をおこない、より積極的な授業参加につながるよう努力したい。また、演習の方法についてもさらに効果が上がるようにその手法を研究していきたい。

共通教育 体育
伊藤　真博　先生

2023年度Q３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(生涯スポーツ)バドミントン2
授業コード	14E05-002
教員名	伊藤　真博
教員コード	103257
登録人数	32
回答数	25
回答率	78.1%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



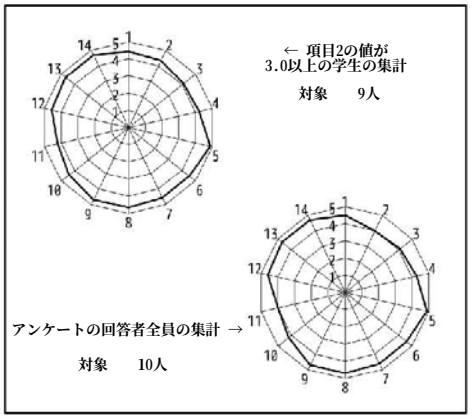
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
開講時に設定した目標は種目に関する知識・技能の習得、ゲームを通してのマナー・仲間とのコミュニケーションの涵養、自己の健康増進の3点である。この目標に対する指標は設問13が関連するが、全員が4ポイント以上、平均で4.88ポイントを得ており、目標には到達したと考える。
②　数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
今クォーターは履修者の2/3弱が4年生であった。彼らは1年次の基礎体育がコロナ禍によりオンライン授業となったため仲間と体を動かす機会に恵まれなかった。そのため体育関連実技に興味があったようである。このことが動機づけとなり、積極的な授業への参加につながったと考えている。授業満足度に関する設問14では5.00ポイントを得られており授業運営は概ね成功したと考える。
② 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
教員の声の聞き取りに関する設問8が4.68ポイントとやや低評価であったのは集合・説明時に学生との間に距離があり説明が聞きづらかったためdであると思われる。昨年度までは学生同士の密接をさけるため集合時に学生間で距離をとらせていたが、今後はその必要もなくなりつつあるので集合・説明時には声の聞き取りやすい適切な距離にまで近づくように促していきたい。

教職センター 教職センター
成田　健之介　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会・公民科指導法B2
授業コード	15B51-002
教員名	成田　健之介
教員コード	101555
登録人数	25
回答数	10
回答率	40.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、中学校社会科公民的分野と高等学校公民科における主体的・対話的で深い学びを促すために必要な授業実践力を高め、学校現場での授業実践や学習指導案細案の作成、模擬授業とディスカッション等によって、社会科・公民科における授業力を高めることを目標にしている。

前半では、学習指導要領改訂の背景として、教育のDX、Society5.0、AI等について教育への影響について考察してきた。また、動画コンテンツを活用した学校教育現場での対話型授業の分析と導入の意義についての学修を進めた。後半からは，履修する学生全員に12分～15分間の模擬授業を課し，授業構想，学習指導案細案の作成及び実際の模擬授業と事後検討を中心とした実践的な学修を実施した。

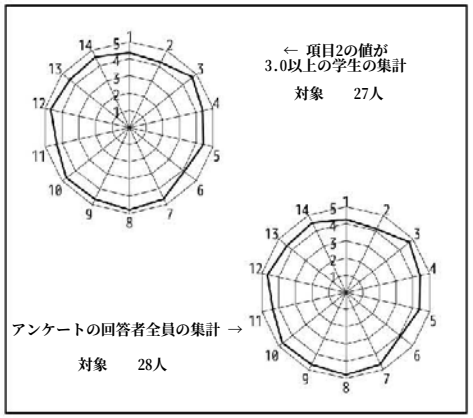
学生評価については、設問5「この授業の到達目標を理解することができましたか。」の平均値が4.90、設問14「授業全体としての満足感」の平均値は4.70、設問3～設問14の平均値は4.51であり、概ね目的は達成することができた。しかし、項目3「授業の開始と終了の時間は守られていましたか。」の平均値が4.10であり、全体から見ると低い値だった。開始時刻は、ほぼ定刻であったが、模擬授業では、学生によってはPCなどの準備や模擬授業の時間管理がしっかりとできなかったことで時間を費やす場合が少なくなかった。模擬授業を通しての学修は，学生にとって貴重な学びになっているために，全員の模擬授業は継続しつつ、持ち時間の厳守を徹底する等の改善に取り組む必要を感じている。

自由記述の回答では、「学習指導案の作成指導が充実していたこと。」「説明が分かりやすかった」という記述が見られ、模擬授業を取り入れ実践的な教科指導力の育成を目指した本講義の方向性は維持していきたい。

教職センター 教職センター
小長井　晶子　先生

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	福祉論
授業コード	15D04-001
教員名	小長井　晶子
教員コード	104810
登録人数	40
回答数	28
回答率	70.0%
休講回数	2　回
補講回数	2　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定した目標は、１．教育福祉に関する基礎的な知識及びその仕組みや働きを理解することができる、２．日本の子どもの権利に関わる問題状況を理解する、３．学校では、どのように子どもの教育と福祉の権利を守れるかについて、自分の考えをもつことができるであった。到達の程度としては、2・3についてはそれなりに到達できたと思うが、1については次節で記した課題があり、教育福祉に関する基礎的な働きを十分伝えることができなかった。

②福祉論ということで、現場で働いている方をゲストスピーカーとして呼べたのは好評であり、とてもよかった。他方、初めての100分授業だったこともあり、授業の運用としては課題が残った。また、授業内容にもよるかもしれないが、2限連続は学生側に負担があるように感じた。

授業方法

③来年度は授業を行わないが、今後100分授業をする機会があれば、いただいた助言をもとに、休憩の場所などメリハリをつけた授業を行いたい。

2023年度Ｑ３　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIIリテラシー[G]2
授業コード	11A07-033
教員名	クマイ　恭子
教員コード	101131
登録人数	18
回答数	4
回答率	22.2%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講では、Q1、Q2に引き続き、更なる英語読解力向上およびエッセイライティングスキル習得・向上を目指した。この科目は２クォーターで担当教員が変わる。Q1、Q2で学生は基本的なエッセイの知識を前任者の下で習得していったようである。今回は授業内に当授業評価アンケートができず、学生全員にメールで回答を喚起したが、残念ながら回答は十分な人数に至らなかった。

英文エッセイライティングでは、５００ワードのエッセイを書くことを目標とした。ライティング、リーディング共に教室内ではグループワークを課した。また２–3週間ほどで書き上げるエッセイを宿題として課した。グループワークでは積極的に意見を交わしていたと思う。学生の回答はエクササイズの難易度によって様々であった。グループ内では活発に議論が交わされていた、宿題のエッセイについては、英文エッセイの基礎およびAPAの見直しが必要であると感じた。WebClassに参考となるサイトへのリンクリストを掲げたが、学生はあまり閲覧していないようである。

総合的自己点検・評価
エッセイライティングにおける要点は、学生に複数回念を押したが、なかなかマスターするのは難しいようである。今後も各種エクササイズを通して、ライティングスキルを習得できるような展開にしたいと思う。